

専門業者様向け

アイジールーフ 施工説明書 **改修用**

- ◆スーパーガルテクトフッ素
- ◆スーパーガルテクト
- ◆スーパーガルテクトC

2024年9月版

施工説明書のご使用にあたって

- 施工説明書は、アイジールーフを安全に正しく施工をしていただくための重要な情報を記載しています。
 - 施工説明書に記載の基本事項をご理解の上、実際の現場に即した、安全で確実な設計と施工を行っていただきますようお願い致します。
-
- アイジールーフの保証書の発行には、施工説明書に記載している施工方法に従っていただくことが必要です。
 - 施工説明書に記載している設計基準・施工基準を満たさない納まりや施工方法は、弊社では責任を負いかねますので、元請様や工事店様のご判断とご責任の上で行っていただくようお願い致します。それらの納まりや施工方法については、弊社は免責とさせていただきます。
 - 施工説明書に掲載している納まりや施工方法は、アイジールーフの機能や性能を確保するための代表的な例です。
 - 施工説明書は、掲載していない納まりや施工方法を制限するものではありませんが、アイジールーフの機能や性能を確保できる方法を選定してください。
 - 施工説明書内で示す寸法値は、設計値です。施工においては、納まりの状況により前後することがあります。
 - 元請様と弊社が協議し、別に定めた施工説明書がある場合は、本施工説明書の定める限りではありません。
 - 施工説明書は、最新の見聞、検証により予告なく記載仕様の一部を改訂する場合があります。最新の施工説明書を参照ください。
-

目次

事故防止のために	1	直張工法	14
取り扱い時のお願い	2	施工の手順	14
・運搬、保管上の注意	2	下地の調整	
・施工上の注意	2	・既存棟包み、既存隅棟包みの取り外し	15
・その他	2	・既存ケラバ水切の加工	15
		・既存雨押えの加工	15
		・下葺き材の施工	16
アイジールーフを美しく保つために	3	本体の施工とポイント	
・クリーニングについて	3	・墨出し線への合わせ方	17
・表面材にキズが付いたとき	3	・本体の施工	17
・防水について	3		
・大気汚染について	3	各部の納まり	
・安全に関する注意	3	・軒先の納まり	18
		・ケラバの納まり	22
		・棟の納まり	35
		・隅棟の納まり	38
		・谷の納まり	47
		・壁との納まり	51
		・換気棟の納まり	56
		・雪止めの納まり	64
アイジールーフ適用地域一覧	4		
施工に必要な工具	5	合板下地工法（カバー）	65
本体・部材規格	6	施工の手順	65
・本体断面形状図	6	下地の調整	66
・本体規格	6	下葺き材の施工	67
・物性表	6	本体の施工とポイント	68
・部材規格	7	各部の納まり	69
改修物件の調査・確認	9		
工法の確認	10	合板下地工法（葺き替え）	74
・既存屋根による工法の選定	10	各部の納まり	74
・既存下地の状態による工法の選定	10		
・下地強度の測定試験方法（推奨）	11	積算方法	75
・ジョイント下地の施工について	11		
		改修物件チェックシート	77
下葺き材・留め具の選定	12		
・たる木留め（標準施工）	12	瑕疵担保保険申請時のご注意	78
・野地板留め	13		
		免責事項	78

事故防止のために

アイジールーフは屋根材です。
屋根以外の部位に使用しないでください。



警告

死亡または重傷を負う可能性が
想定される場合の表示です。

1. 強風・雨天・降雪時の高所作業は中止してください。
風にあおられる・雨や雪ですべるなどの原因で、落下事故の可能性があります。
2. 高所作業は関係法規に従ってください。事故の可能性があります。
3. 既存の屋根用スレートの解体、破砕などを行う場合は、石綿障害予防規則に従って作業を行ってください。著しい健康障害を招く可能性があります。
4. 雪止めを足場にしたり、物を置いたりするなど、雪止め以外の用途には使用しないでください。破損し落下するおそれがあります。



注意

取り扱いをあやまると障害を負う
危険や物的損害などの可能性が想
定される場合の表示です。

1. アイジールーフは2.5寸以上の勾配で使用してください。
2.5寸未満の勾配では漏水のおそれがありますので使用できません。
・勾配と流れ長さの制限

勾配	2.5寸～3.5寸未満	3.5寸以上
流れ長さ	7m以下	20m以下

2. 取り扱いの際は、ゴム付き手袋や保護めがねなどの適切な保護具を着用してください。けがをする可能性があります。
3. 現場加工時、鋼板の切断面に生じたバリは取り除いてください。けがをする可能性があります。
4. 防水のため、施工の際は下地に下葺き材を施工し、働き幅による割り付けを行ってください。
5. アイジールーフは一般地域（最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の地域）で使用してください。すがもれのおそれがあります（P4参照）。
6. 落雪による事故を防止するため雪止めを使用してください。
7. 包装材・残材などは産業廃棄物として処分してください。
8. シーリング・タッチアップペイントなどは安全データシート（SDS）に従って正しく使用してください。
9. 電動工具など、工具を使用する際は、各工具の取扱説明書に従って正しく使用してください。

取り扱い時のお願い

運搬、保管上の注意

- ・1ケースあるいは開梱した商品を手で持つ際には、小端立てにして運んでください。
- ・車両による運搬時には、荷台に突起物や濡れ、汚れがないことを確認した上で、平積みにしてください。
- ・急ブレーキなどによる荷崩れ、損傷を防ぐため、ロープをかけ、角には必ず当て板を入れてください。
- ・ロープの締め付けが強すぎると商品の破損につながるおそれがあります。過度の締め付けは避けてください。
- ・商品の保管は、雨水、湿気などの影響を受けない風通しのよい屋内の平らな場所で行ってください。
- ・屋外に保管する際は、パレットあるいは、りん木の上に合板を重ねた水平面に置き、さらに防水シートなどで覆ってください。また防水シートが風などで飛ばないようにしてください。
- ・商品が破損するおそれがありますので、次のような行為は避けてください。
 - 商品を放り投げる、または落とすこと。
 - 商品の上に人が乗る、または重量物を載せること。
 - 商品の片方をりん木やトラックのあおりなどに載せて斜めに置き、保管や運搬をすること。
 - 商品をりん木やフォークリフトのつめに直に置き、2点支えにすること。
 - 商品より小さなパレットなどを使用すること（パレットの角で商品が破損するおそれがあります）。
- ・商品を保管するときはできるだけ横置きにしてください。
- ・商品を一時的に保管する場合は、次のことに注意してください。
 - 荷上げの際の落下事故には十分に注意してください。
 - 保管する重量に見合った滑落防止策を講じてください。
 - 本体を立てかける場合は、端部が破損するおそれがありますので、本体の左側（断熱材がない方の端部）を上にしてください。

施工上の注意

- ・アイジールーフは木造下地専用です。
- ・商品が電線に接触すると感電する可能性があります。電線に触れないように注意してください。併せて事前に電力会社に依頼するなど、感電防止処置を講じてください。
- ・下地に下葺き材を施工してください（P16、67参照）。
- ・下葺き材の施工後に、たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。
- ・商品を施工する前に働き幅で墨出しを行い、その墨に合わせて施工してください。
- ・商品にモルタルなどが付着した場合は、速やかに除去してください。
- ・エアネイラーを使用する場合は、アイジールーフのしん材のつぶれやくぎの頭抜けがないように、事前に圧力調整を行い打ち込み深さを確認してから施工してください。留め具は、施工する工法に即した長さを選定してください。番線タイプのくぎは、施工後に番線が飛散しキズやさびの原因にもなりますので使用しないでください。
- ・商品が破損するおそれがありますので、商品に乗ったり、重量物を載せたりしないでください。
- ・横ジョイント部、差し棟キャップ、換気棟は変形のおそれがありますので、上に乗ったり、重量物を置いたりしないでください。
- ・すりキズ防止のために、商品の表面を直に地面に置く、金属製足場板など硬いもので擦るなどの行為は避けてください。
- ・商品の塗装が傷みますので、表面材に切断時の切粉、火花などを当てないでください。
- ・表面材にキズが付いた場合には、純正のタッチアップペイントで補修してください。タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なすりキズのみに使用してください。
- ・くぎ打ち部や下葺き材に、打ち損じなどの穴ができた場合は、シーリング材や防水テープで防水処理をしてください。
- ・上階の屋根からの樋は必ず軒先まで通し、下階の屋根面へは排水しないでください。
- ・さびや汚れの原因になりますので、商品を切断した際に出る切粉は、ハケなどで必ず払ってください。
- ・アイジールーフに、銅などの異種金属からの雨水が接触すると、電食が起こる場合があります。異種金属との取り扱いには注意してください。
- ・アイジールーフには必ず純正部材を使用してください。それ以外の部材では十分な性能を得られないことがあります。
- ・合板下地工法で施工する3.5寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください。（P68参照）
- ・部材の留め付け間隔は455mm以下とってください。

その他

- ・日射による熱の影響で、朝・夕の温度変化時に、表面鋼板の伸縮により、かん合部などからまれに音が発生する場合があります。
- ・小屋裏にテレビアンテナを設置している場合、金属屋根の施工でテレビの「映像が乱れる」「映らない」といった受信障害が出る可能性があります。テレビの受信状況の確認やテレビアンテナの対策作業を行ってください。

アイジールーフを美しく保つために

クリーニングについて（表面材に汚れが付着したとき）

- ・表面材をクリーニングする場合は、から拭きか、水または中性洗剤で洗浄してください。酸性やアルカリ性の洗剤は塗膜を傷め変色、腐食を招くおそれがあります。洗浄する際は、温水（ぬるま湯程度）を使用すると汚れが落ちやすい傾向があります。中性洗剤で洗浄した後は、水でよく洗い流してください。
- ・洗浄用具としては、硬いブラシ、研磨性のあるスポンジなどは使用しないでください。表面材にキズが付き腐食を招くおそれがあります。

表面材にキズが付いたとき

タッチアップペイント（純正品）による補修について

注意事項

- ・タッチアップペイントは、ごく狭い範囲の軽微なすりキズのみに使用してください。本体や部材の変形を伴うキズや、広範囲にわたる塗装には使用しないでください。
- ・タッチアップペイントは常乾タイプの塗料で、本体、部材と塗料タイプが異なります。このため、色調や艶などに差異が発生し、補修箇所が目立つことがあります。また、ちぢみ塗装品は表面意匠の特性より、補修後も同じような意匠を再現することはできません。あらかじめご了承ください。
- ・タッチアップペイントは使用前に容器を振り十分に攪拌してください。容器を振る目安は、カタカタという音が聞こえてから30秒以上です。
- ・事前に商品の端材や目立たない箇所で試し塗りを行い、色調を確認してください。
- ・遮熱性フッ素樹脂塗装の商品（スーパーガルテクトフッ素など）に、タッチアップペイントを使用する場合は目荒しが必要です。補修するすりキズ部分に、目荒しを行ってください。目荒しを行わない場合、タッチアップペイントと表面の塗膜に密着性が得られませんので注意してください。
- ・補修の前に表面の汚れ、ほこり、水分などがある場合は布などで拭き取ってください。
- ・補修する場合は、タッチアップペイントを薄く重ね塗りしてください。補修部分は目立ちますので、できるだけ丁寧な取り扱いをお願いします。
- ・塗装場所の気温が著しく低い場合（5℃以下）や、雨や露などにより被塗面が濡れる場合や、換気が十分でなく結露が考えられる場合は、補修を避けてください。
- ・火気には十分に注意してください。
- ・塗装中、乾燥中とも換気をよくし、蒸気やガスなどを吸い込まないようにしてください。
- ・取り扱い中は皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクや送気マスク、保護めがねや保護手袋・前掛けなどを着用してください。
- ・火災時には炭酸ガス、泡または粉末消火器を使用してください。
- ・目に入った時は多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- ・皮膚に付着した場合は、多量の石けん水で洗い落とし、痛みや外観に変化が認められる場合はできるだけ早く医師の診察を受けてください。
- ・蒸気やガスなどを吸い込んで気分が悪くなった場合は、風通しのよいところで安静にし、必要に応じてできるだけ早く医師の診察を受けてください。

防水について

- ・シーリング材は2～3年を目安に点検してください。
経年変化による劣化で切れが生じた場合には、補修することにより漏水を未然に防いでください。

大気汚染について

- ・大気中には表面基材の腐食の原因となるさまざまな要因が含まれています。自動車の排気ガス、工場からの排煙、海岸地帯の海塩粒子、凍結防止剤など、多種多様な要因があります。近年、環境公害のひとつとして酸性雨問題があります。酸性度の強い水分との接触や付着水分の蒸発、濃縮により表面塗膜の耐久性の低下やさびの発生に至る場合があります。

安全に関する注意

- ・お施主様ご自身で高所作業を伴う点検やお手入れは絶対に行わないでください。落下事故やけがの原因となります。
- ・点検は、屋根を目視で確認できる範囲にとどめてください。高所作業の場合は、専門業者に相談してください。
- ・再塗装などの補修工事はお施主様ご自身では絶対に行わないでください。専門業者に相談してください。
- ・雨などで濡れた屋根の上には絶対に乗らないでください。落下事故やけがの原因となります。
- ・洗剤を使用しての洗浄の際は、周辺の生物に影響がないよう、十分に注意してください。

アイジールーフ適用地域一覧

スーパーガルテクトは、最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の一般地域で使用可能です。
積雪量の多い地域では、すが漏れの恐れがあるため施工不可としています。
準一般地域では別途施工基準を設けておりますので、詳しくは最寄りの営業所へお問い合わせください。

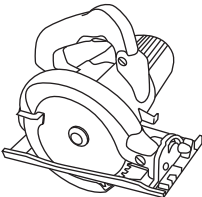
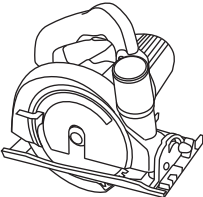
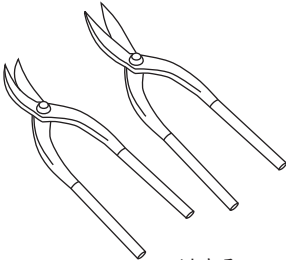
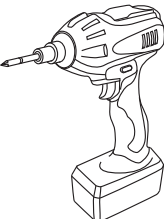
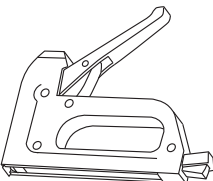
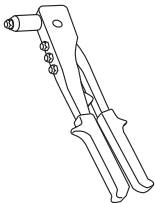
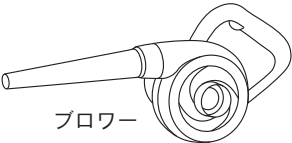
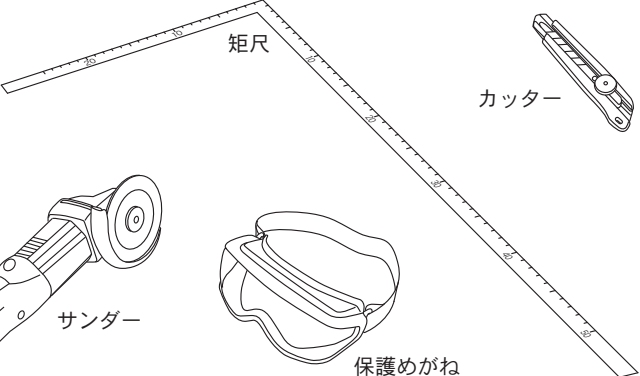
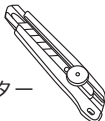
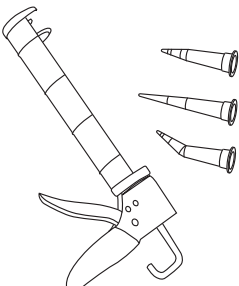
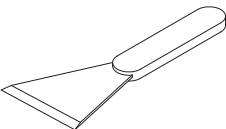
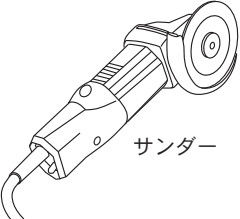
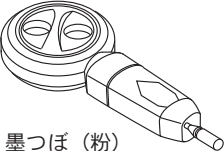
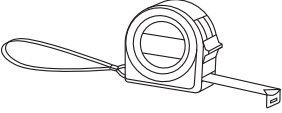


この全国積雪分布図は、気象庁編集による一般財団法人気象業務支援センターが発行した「メッシュ気候値2000」をもとにアイジ工業株が独自に作成したものです。

適用区分	年間平均最深積雪量
一 般 地 域	標準仕様にて施工可
準 一 般 地 域	積雪地区対応仕様にて施工可（最寄りの営業所へお問い合わせください）
施工不可地域	おおむね30cm以上の積雪地域、沖縄県及び離島

事故防止のため
取り扱いのお願い
アイジールーフを美しく保つために
アイジールーフ適用地域一覧
施工に必要な工具
本体・部材規格
改修物件の調査・確認
工法の確認
下書き材・留め具の選定
直張工法
合板下地工法（カバ）
合板下地工法（書き替え）
積算方法
改修物件チェックシート
免責事項

施工に必要な工具

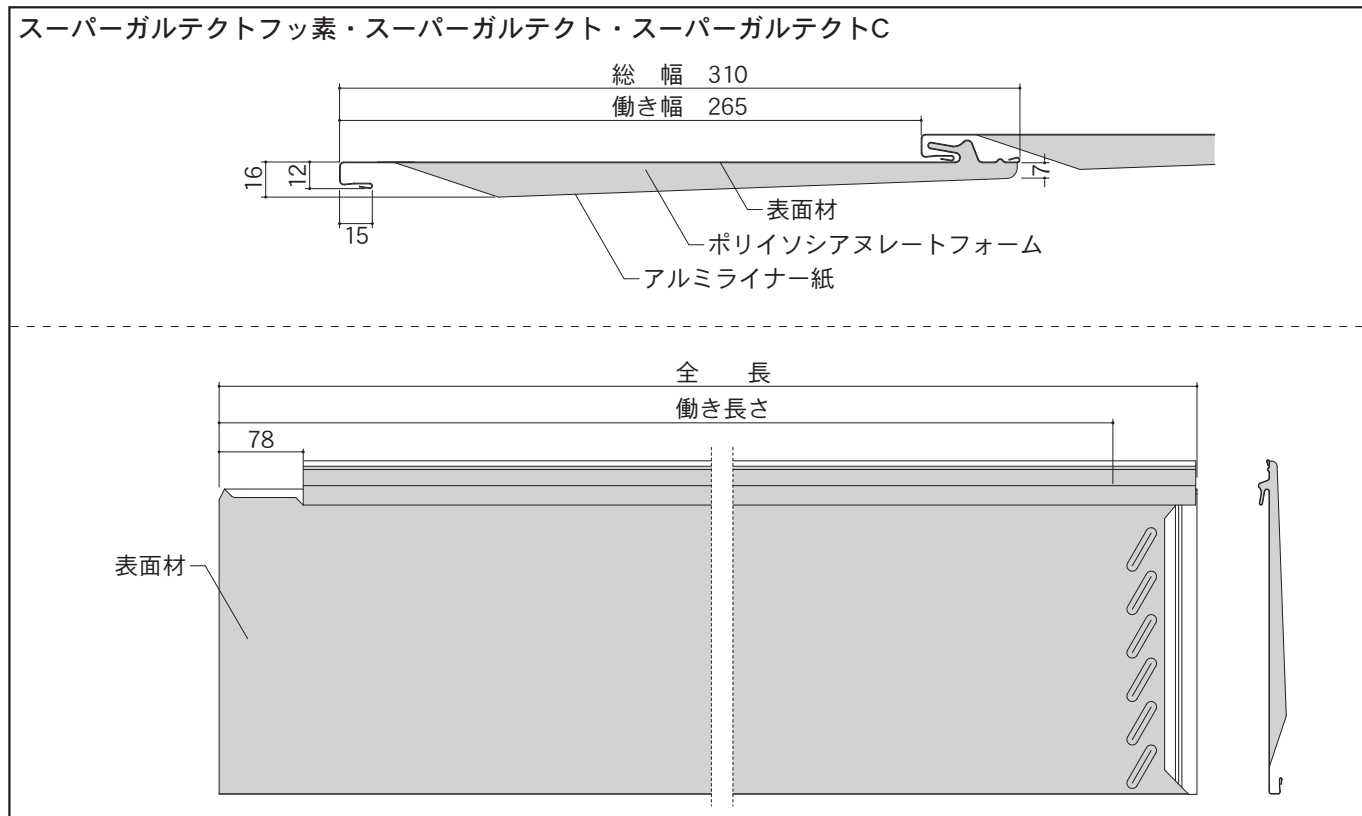
切断工具類			折り曲げ工具類
			
電動丸のこ	防塵丸のこ	はさみ	つかみ
取り付け工具類			
		 	 
インパクトドライバー	ハンマー	釘抜き 釘しめ	タッカー リベッター
その他の工具類			
			
			
コーキングガン	スクレーパー	サンダー	保護めがね
			
水系	墨つぼ(粉)	スケール	

- ⚠切断工具、穴あけ工具、ブロワーなどを使用する場合は必要に応じて保護眼鏡などの保護具を使用してください。
- 上記の工具は代表的な工具であり、施工状況に合わせて他の工具が必要になる場合があります。
- 屋根の上では、丸のこを使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、近隣への飛散を防止し、屋根についた切粉は完全に取り除いてください。

本体・部材規格

本体断面形状図

単位：mm



本体規格

商品名	働き長さ	全長	入り数面積	入り数	働き幅	総幅	厚さ	重量
スーパーガルテクトフッ素 スーパーガルテクト	2,960mm	3,038mm	4.71m ²	6枚	265mm	310mm	最大16mm	5.0kg/m ²
スーパーガルテクトC	1,820mm	1,898mm	2.90m ²					

商品名	表面材
スーパーガルテクトフッ素	エンボス加工遮熱性フッ素樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35)
スーパーガルテクト	エンボス加工遮熱性ポリエステル樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35)
スーパーガルテクトC	

超高耐久ガルバは、2%マグネシウム-55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板です。

物性表

項目	性能値	試験方法	試験体仕様
しん材熱伝導率	0.032W/mK (0.028kcal/mh℃)	JIS A 1412-2	
熱貫流率	1.19W/m ² K (1.02kcal/m ² h℃)	JIS A 1420	下地条件：アスファルトルーフィング940 住宅屋根用化粧スレート アスファルトルーフィング940 構造用合板12mm、たる木（間隔：455mm）
水密性	平均圧力 750Pa (76kgf/m ²)	JIS A 1414	下地条件：アスファルトルーフィング940 構造用合板12mm たる木（間隔：455mm）
耐風圧性	正圧：4,000Pa(407kgf/m ²)以上 負圧※1：5,500Pa(560kgf/m ²)	空気圧による 等分布荷重	本体留め具※2：ルーフ用ビス4×55 下地条件※3：構造用合板12mm たる木（間隔：455mm）
加工性	2T（塗膜剥離しないこと）	-	
耐食性	1,000時間	JIS Z 2371 塩水噴霧試験	

■上記物性データは性能参考値です。環境によって異なった数値になる場合があります。

※1 耐風圧データの負圧の数値は破壊値です。設計に際しては、十分な安全率を見込んでください。

※2 くぎでの性能値は、別途お問い合わせください。

※3 防水のため、下葺き材を施工してください。

本体・部材規格

部材一覧

単位：mm

商品名	改修用唐草D	改修用唐草SB	改修用一体唐草16	改修用一体唐草29	唐草G50
商品図					
	L=2,727	L=2,727	L=2,727	L=2,727	L=2,727
梱包単位	5本／包	5本／包	5本／包	5本／包	5本／包
商品名	ケラバ水切	ケラバ水切エンド	ケラバ水切100エンド(左)	改修用ケラバ水切100	ケラバ水切100エンド(右)
商品図					
	L=2,727			L=2,727	
梱包単位	5本／包	50個／箱	30個／箱	5本／包	30個／箱
商品名	棟・隅棟包みD	棟巴	差し棟キャップD3寸	差し棟下地N	差し棟キャップD5寸
商品図		 スーパーガルテクト・スーパーガルテクトCのみ	 2.5寸～4.5寸勾配用	2024年7月1日発売 L=2,727	 5寸～6寸勾配用
梱包単位	5本／包	15個／箱	20個／箱	5本／包	20個／箱
商品名	剣先	剣先120	谷樋D(Ⅱ)	改修用谷止縁	改修用壁押えD(Ⅱ)
商品図	 2.5寸～4.5寸勾配用				
			L=2,727	L=2,727	L=2,727
梱包単位	5本／箱	5本／箱	1本／包	4本／包	5本／包
商品名	壁押えD(Ⅱ)	改修用壁押えカバー	換気棟	換気棟用エンドキャップ	換気棟L
商品図			 下地・捨水切同梱 2.5寸～10寸勾配用	 2.5寸～10寸勾配用	 下地・捨水切同梱 2.5寸～10寸勾配用
	L=2,727	L=2,727			
梱包単位	5本／包	5本／包	1セット／箱	2個／箱	1セット／箱

本体・部材規格

部材一覧

単位：mm

商品名	片流れ用棟包み ^(注1)	片流れ換気用水切 ^(注1)	片流れ用換気棟	C型捨板	L型捨板
商品図					
梱包単位	5本／包	5本／包	1セット／箱	4本／包	5本／包
商品名	雪止めGT(Ⅲ)ハネタイプ	ジョイント下地 ^(注2)	ケラバ面戸	平型面戸	段付面戸D
商品図					
梱包単位	50個／箱	30個／箱	100個／箱	50本／箱	50個／箱
商品名	10MコイルD	防水テープ	防水テープD	ルーフ用ビス 4×55	タッチアップペイント
商品図					
梱包単位	1本／箱	—	—	300本／箱	—
商品名	エコシーリング	エコシーリングホルダー			
商品図					
梱包単位	10本／箱	2本／箱			

- ・スーパーガルテクトフッ素用部材の材質は遮熱性フッ素樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35 mm) です。
- ・スーパーガルテクト、スーパーガルテクトC用部材の材質は遮熱性ポリエステル樹脂塗装超高耐久ガルバ (t=0.35 mm) です。
- ・超高耐久ガルバは、2%マグネシウム-55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板です。
- ・タッチアップペイントと商品は塗料タイプが異なりますので、色や艶などに多少の差異が発生する場合があります。あらかじめご了承ください。
- ・スーパーガルテクトフッ素素にタッチアップペイントを使用する場合は目荒らしが必要です。
- (注1)・片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつないで施工する場合は、片流れ用棟包みと片流れ換気棟用水切を併用して施工してください。
- (注2)・合板下地工法で施工する 3.5 寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください。

改修物件の調査・確認

改修物件の事前調査・確認、及びお客様との打ち合わせは、確実に効率のよい加工をする上で大切なことですので十分に行ってください。

既存の屋根用スレートの解体、破碎などを行う場合は、石綿障害予防規則に従って作業を行ってください。なお、関係法規や工事の届け出、廃棄物の処理方法などにつきまして不明な場合は、所轄する労働基準監督署や自治体の担当窓口へ相談してください。

既存屋根

改修対象の既存屋根材を確認してください。

既存屋根材：住宅屋根化粧スレート／アスファルトシングル／鉄板平葺き／和瓦など

下地の確認

屋根の破損状況、反り、腐朽などを確認し、下地のくぎの保持力を確認してください。小屋裏より雨漏りの有無や腐朽の程度を確認してください。反りや腐朽のひどい場合は施工できません。漏水を確認した場合は、対策を講じてください。

屋根面を歩行した場合の浮き沈み、あるいは、屋根面の屋根面の波うちなどの不具合がないことを確認してください。

勾配と流れ長さ

施工可能な勾配と流れ長さの制限があります。

勾配と流れ長さを測定し、下表の数値以内であることを確認してください。

勾配	流れ長さの制限
2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下
3.5 寸以上	20m以下

雨どい

取り替えることをお勧めします。

施工範囲および 障害物の確認

バルコニー、テレビアンテナ、エアコンディショナー、太陽熱温水器まわりの施工箇所を確認してください。場合により、別途工事が必要となります。

留め付け方

本体の留め付けは、たる木留めを推奨します。たる木の位置を確認してください。

やむを得ずたる木に留め付けられない場合は、野地板留めでの施工を選択してください。

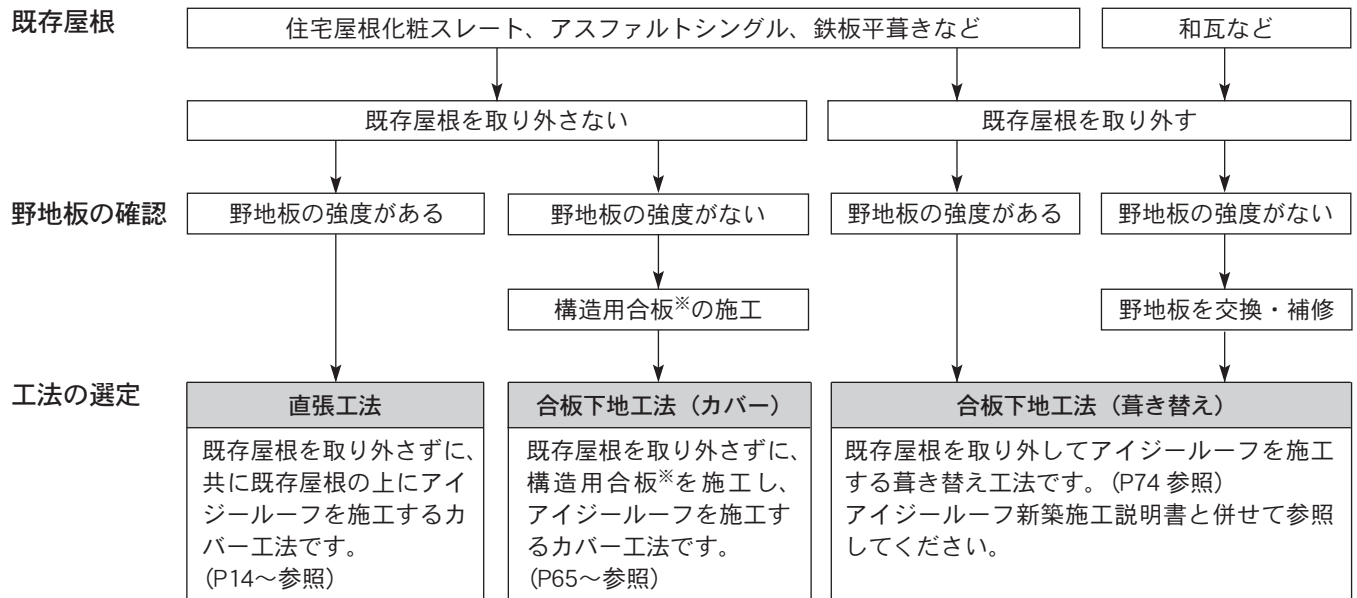
下葺き材の選定

屋根の勾配、工法や留め付け方法により、対応できる下葺き材が異なります。

施工する工法と、留め具を確認してください。

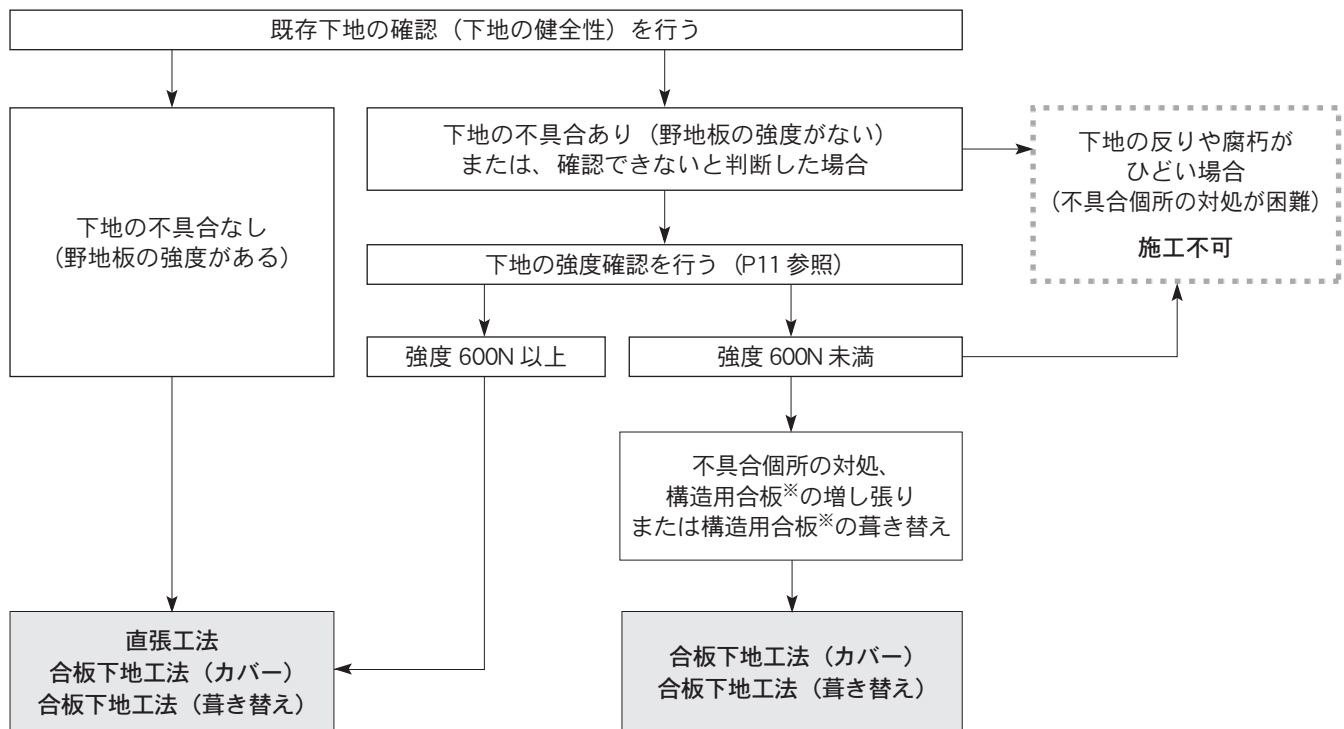
工法の確認

●既存屋根による工法の選定



●既存下地の状態による工法の選定

- ・既存下地の状態を確認してから工法を選定してください。
- ・改修用物件チェックシート（P77参照）を併せて確認してください。



※ 構造用合板 特類 2 級（厚さ 12 mm）

新規合板が既存下地（たる木、母屋など）に適正に留め付けられる前提とします。

既存のたる木や母屋などに不具合がある場合、不具合の対処を行ってから選定した工法で施工してください。

●下地強度の測定試験方法（推奨）

1. 測定試験方法

1) 測定箇所

- ・水が集まりやすい軒先部、ケラバ部、主棟部、隅棟部、谷部（ある場合）また、施工する上で下地の劣化が不安な箇所を選定し、実施してください。

2) 留め具

- ・既存屋根葺き材が化粧スレート、アスファルトシングルの場合、くぎまたはビスを選定し、使用してください。施工時に使用する留め具を用いて試験を行ってください。また、既存屋根葺き材が瓦等の場合、合板下地工法（葺き替え）に該当します。その場合、新築用施工説明書をご参照ください。

3) 保持力試験機



保持力試験機（例）

サンコーテクノ株式会社「テクノテスターKT-6」

- ・基本的な試験機の使用法については、メーカーの取扱説明書に従ってください。
- ・施工時に使用予定の留め具を保持力試験で使用してください。

4) 試験手順（保持力試験機仕様の場合）

- ①保持力測定箇所の既存屋根葺き材に、使用する留め具より一回り大きな下穴をあける。

注意：下穴が既存下地に到達しないようにしてください。

- ②下地に留め具を留め付ける。

- ③保持力試験機を使用し、測定する。

5) 必要保持力

- ・600N／本以上の場合：直張工法または、合板下地工法（カバー）いずれかを選択。
- ・600N／本未満の場合：合板下地工法（カバー）または、合板下地工法（葺き替え）いずれかを選択。

注意：十分な安全率を見込んだ数値になっています。

2. 測定試験後の既存屋根葺き材の対処

- ・試験により既存屋根葺き材にあいた穴、測定作業中に割れ、欠けなどが発生した場合は、シーリング処理など十分な補修を行ってください。また、測定試験後に屋根の施工を行わない場合は、下葺き材を含め試験箇所の補修を再度行ってください。

●ジョイント下地の施工について

- ・合板下地工法で施工する3.5寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部すべてにジョイント下地を施工してください。
- ・ジョイント下地の施工手順は、P68を参照してください。

	勾配	流れ長さの制限	ジョイント下地
直張工法	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	不要
	3.5 寸以上	20m以下	
合板下地工法（カバー） 合板下地工法（葺き替え）	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	ジョイント下地を施工
	3.5 寸以上	20m以下	不要

下葺き材・留め具の選定

●たる木留めの場合（標準施工）

- ・本体の留め付けは、たる木留めを推奨します。
- ・対象工法や勾配により、指定の下葺き材の施工が必要です。
- ・下の表を参照して選択してください。

・工法と勾配による下葺き材の選定

	勾配	流れ長さの制限	下葺き材
直張工法	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	粘着層付き改質アスファルトルーフィング※1
	3.5 寸以上	20m以下	アスファルトルーフィング 940 以上
合板下地工法（カバー） 合板下地工法（葺き替え）	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	粘着層付き改質アスファルトルーフィング※1
	3.5 寸以上	20m以下	改質アスファルトルーフィング※2

※1 指定下葺き材①もご使用いただけます。（P13参照）

※2 指定下葺き材②もご使用いただけます。（P13参照）

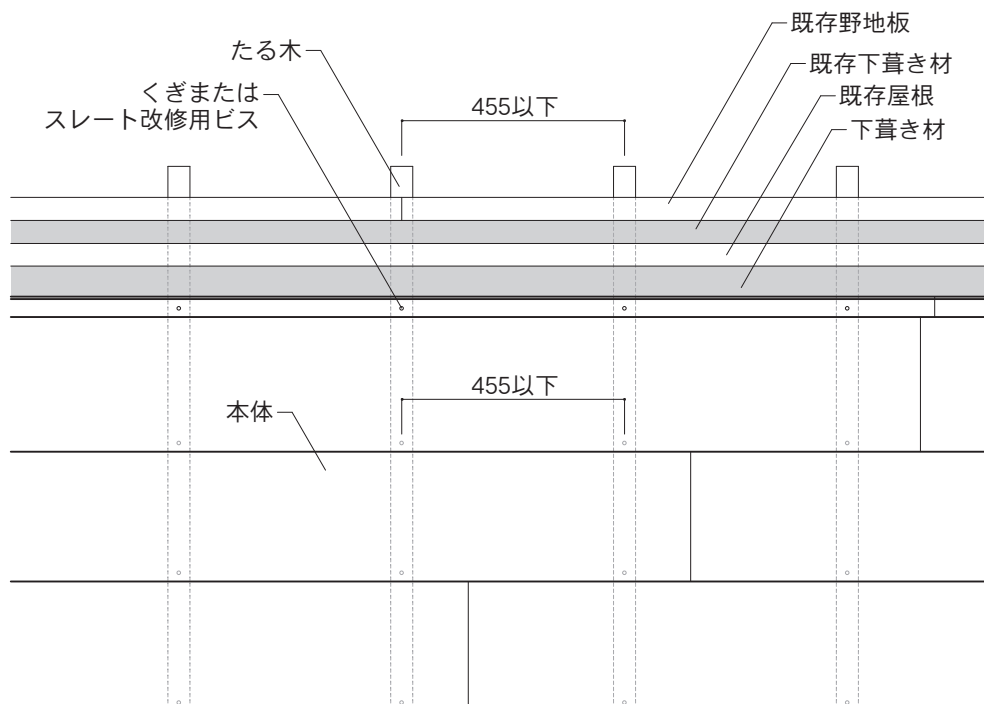
・留め具

工法により留め具の長さが異なりますので、下の表を参照して選定してください。

工法	名称	材質	サイズ
直張工法	くぎ	ステンレスまたは鉄（亜鉛めっき）	長さ 65 mm以上
	スレート改修用ビス	鉄（亜鉛めっき）	長さ 50 mm以上
	ルーフ用ビス 4×55	ステンレス（ディスゴ処理）	長さ 55 mm
合板下地工法（カバー）	くぎ	ステンレスまたは鉄（亜鉛めっき）	長さ 75 mm以上
	スレート改修用ビス	鉄（亜鉛めっき）	長さ 65 mm以上
合板下地工法（葺き替え）	くぎ	ステンレスまたは鉄（亜鉛めっき）	長さ 50 mm以上
	木ビス	鉄（亜鉛めっき）	長さ 50 mm以上
	ルーフ用ビス 4×55	ステンレス（ディスゴ処理）	長さ 55 mm

・たる木留めの施工位置（直張工法の場合）

指定の長さの留め具を使用し、たる木に本体を留め付けてください。



●野地板留めの場合

- ・やむを得ずたる木に留め付けられない場合は、野地板留めでの施工を選定してください。
- ・野地板留めは、指定下葺き材と指定ビスでの施工が必須となります。
- ・屋根の勾配により下葺き材の種類が異なります。指定下葺き材の表を確認し、選定してください。

・工法と勾配による指定下葺き材の選定

	勾配	流れ長さの制限	下葺き材の指定カテゴリー
直張工法	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	指定下葺き材①
	3.5 寸以上	20m以下	指定下葺き材①②
合板下地工法（カバー） 合板下地工法（葺き替え）	2.5 寸～ 3.5 寸未満	7m以下	指定下葺き材①
	3.5 寸以上	20m以下	指定下葺き材①②

・指定下葺き材のメーカー名と商品名

指定カテゴリー	メーカー名	商品名	仕様
指定下葺き材①	田島ルーフィング株式会社	タディスセルフカバー タディスセルフ	粘着層付き改質アスファルトルーフィング
	ガムスター株式会社	SEタックⅡ	
	日新工業株式会社	カスタムライト	
	七王工業株式会社	エコタック	
指定下葺き材②	田島ルーフィング株式会社	ニューライナールーフ タディスホワイト	改質アスファルトルーフィング
	常裕パルプ工業株式会社	サンライト G	
	七王工業株式会社	モラサン2号	
	田島ルーフィング株式会社	PカラーEX+	改質アスファルトルーフィング (ARK-04s 規格適合品)
	常裕パルプ工業株式会社	レギュラー	
	ガムスター株式会社	ニュースタANDARD	
	日新工業株式会社	カップバ 23	

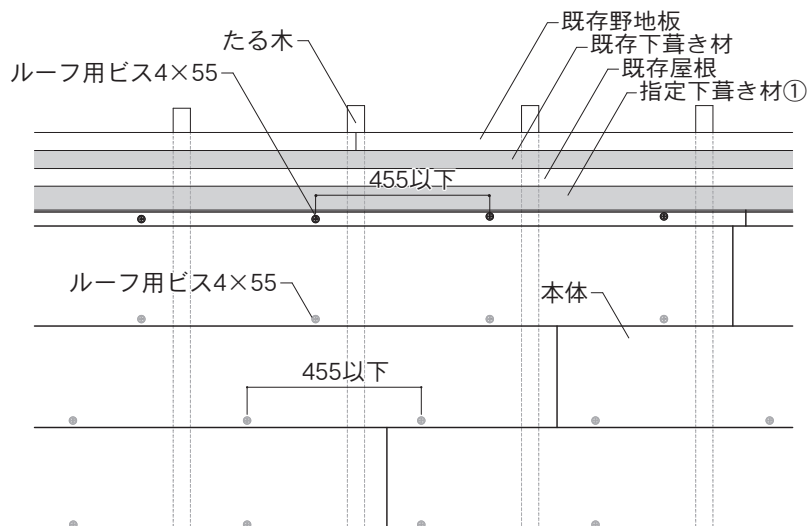
・留め具

当社指定ビスを使用してください。現場調達品は使用できません。

工法	名称	材質	サイズ
直張工法 合板下地工法（カバー） 合板下地工法（葺き替え）	ルーフ用ビス 4×55	ステンレス（ディスゴ処理）	長さ 55 mm

・野地板留めの施工位置（直張工法の場合）

野地板に本体を留め付けてください。必ず指定の下葺き材とルーフ用ビス4×55を施工してください。



直張工法 施工の手順

下地の確認

- ・ 既存屋根
住宅屋根化粧スレート、鉄板平葺き、アスファルトシングルなど。
- ・ 野地板
強度がある。
- ・ 改修用物件チェックシート（P77）を併せて確認してください。



下地の調整

既存部材の取り外しと加工



改修用唐草の取り付け



下葺き材の施工



ケラバの施工



墨出し

- ・ 既存棟包み、既存隅棟包みを取り外してください。
- ・ 既存ケラバ水切を加工してください。（改修用ケラバ水切100を使用する場合は不要）
- ・ 既存雨押えを加工してください。
- ・ 改修用唐草を水平に施工するために、墨出しを行ってください。本体の仕上がりに影響します。
- ・ 改修用唐草（改修用唐草D、改修用唐草SB、改修用一体唐草16、改修用一体唐草29）を取り付けてください。
- ・ 下葺き材は、全面に施工してください。
- ・ 留め具と勾配によって使用する下葺き材が異なります。詳しくは、P12～13を参照してください。
- ・ ケラバ水切、改修用ケラバ水切100を取り付けてください。
- ・ たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。
- ・ 本体の働き幅で墨出しを行ってください。



各部の納まり

- ・ P18 ～を参照してください。
- ・ 各部の施工及び納め方は、各部の納まり（直張工法）を確認し、適切に行ってください。
- ・ 本体及び部材の留め付け間隔は 455 mm以下としてください。



検査（補修）クリーニング

- ・ 表面材のキズの補修やクリーニングについては、取り扱い時のお願い、アイジールーフを美しく保つためにを確認し、適切に行ってください。

事故防止のため

取り扱い時のお願い

アイジールーフを美しく保つために

アイジールーフ適用地域一覧

施工に必要な工具

本体・部材規格

改修物件の調査・確認

工法の確認

下葺き材・留め具の選定

直張工法

合板下地工法（カバ）

合板下地工法（葺き替え）

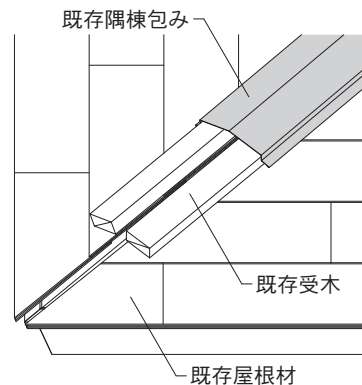
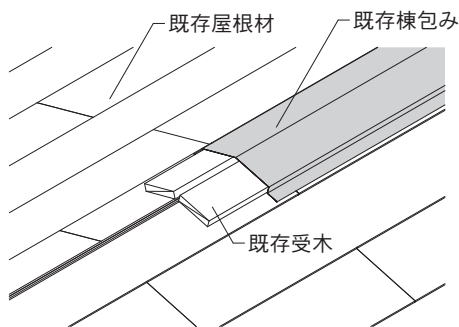
積算方法

改修物件チェックシート

免責事項

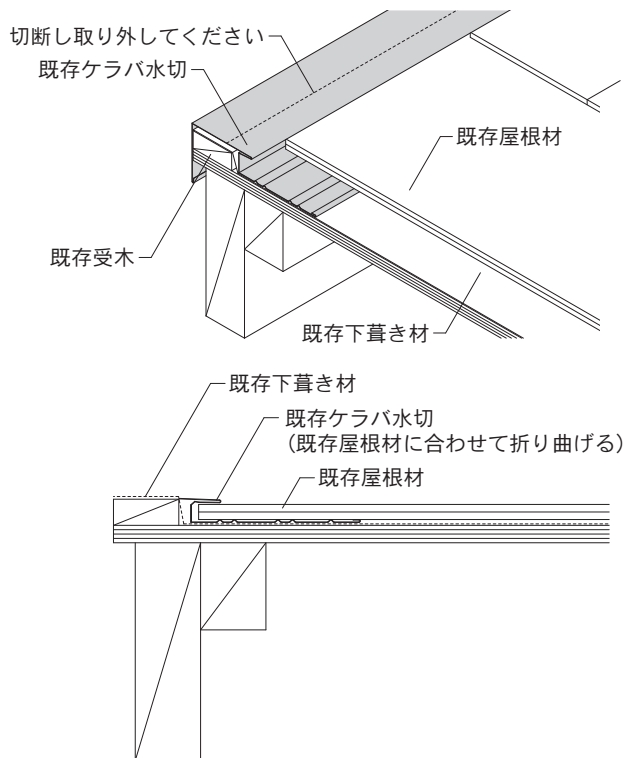
直張工法 下地の調整

○既存棟包み、既存隅棟包みの取り外し



○既存の棟包み、隅棟包み、受木をすべて取り外してください。

○既存ケラバ水切の加工



○ケラバ水切を使用する場合

既存ケラバ水切は、切断し取り外してください。既存ケラバ水切の残った部分は、既存屋根材に合わせて折り曲げてください。

やむを得ず既存ケラバ水切を切断できない場合は、次の点を留意し施工してください。

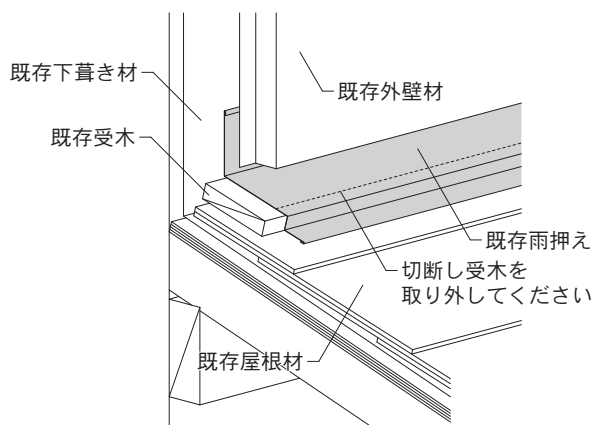
ケラバ部と本体の高さの違いにより、かん合がしにくくなる場合があります。

○改修用ケラバ水切100を使用する場合

見つけ幅が100mmあるため、既存ケラバ水切の切断と取り外しの必要がなくなりそのまま上からかぶせることができます。

軒先部の既存ケラバ水切は、改修用唐草を取り付けるため、切断してください。

○既存雨押えの加工

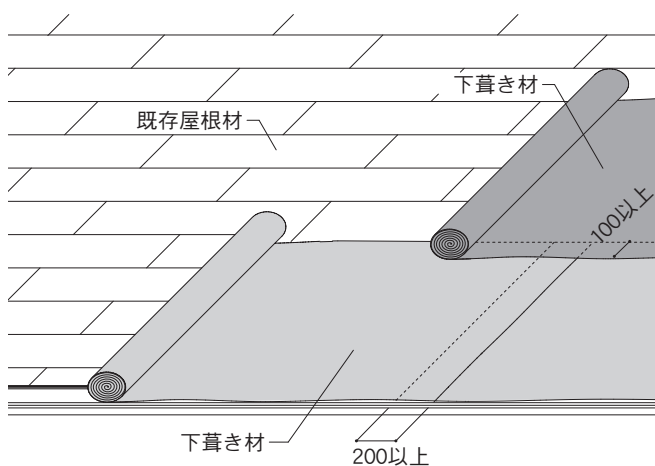


○既存雨押えの不要な部分を切断し、既存雨押えの受木を取り外してください。

○下葺き材の施工

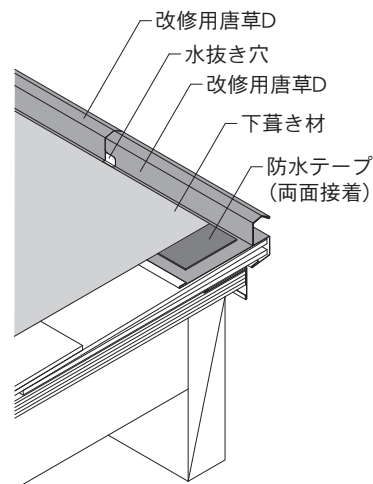
勾配と工法、留め具により下葺き材の種類が異なります。
詳細は、P12～を参照してください。

一般



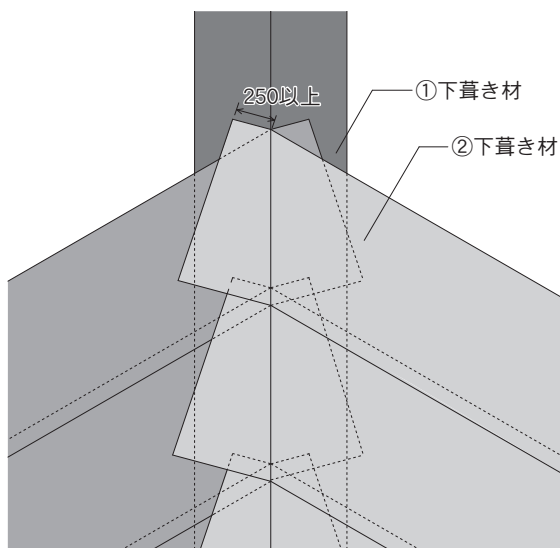
○流れ方向100mm以上、水平方向200mm以上重ねてください。

軒先



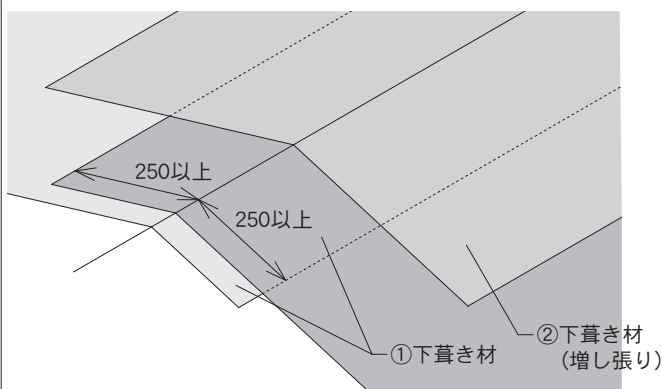
○改修用唐草のつなぎ部にある水抜き穴を、下葺き材でふさがないように注意してください。
○下葺き材を施工した後に、改修用唐草を施工する場合は、改修用唐草を留め付けるくぎ頭にシーリング材を施工してください。

谷



①谷の中心に合わせ、下葺き材を施工してください。
②下葺き材は、片側250mm以上ずつ重ねてください。

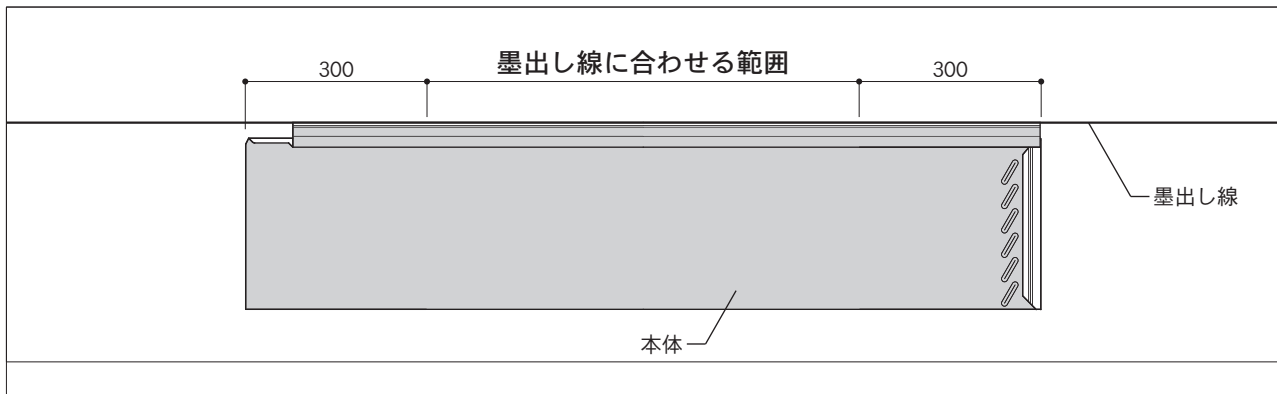
棟



①下葺き材は、片側250mm以上重ねて施工してください。
②下葺き材は、棟の頂点に合わせ増し張りを行ってください。

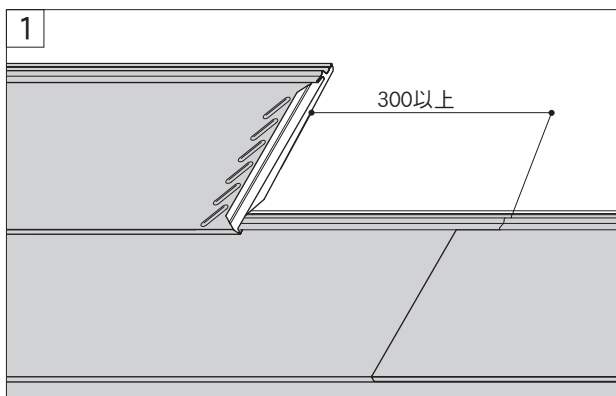
直張工法 本体の施工とポイント

墨出し線への合わせ方

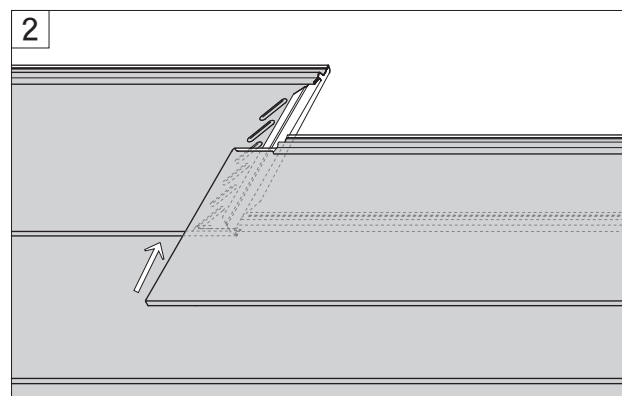


- 本体を施工する前に、改修用唐草が墨出し線に合わせて施工されている事を確認してください。
- 本体は、左右両端の300mm程度を除いた範囲を墨出し線に合わせて施工してください。

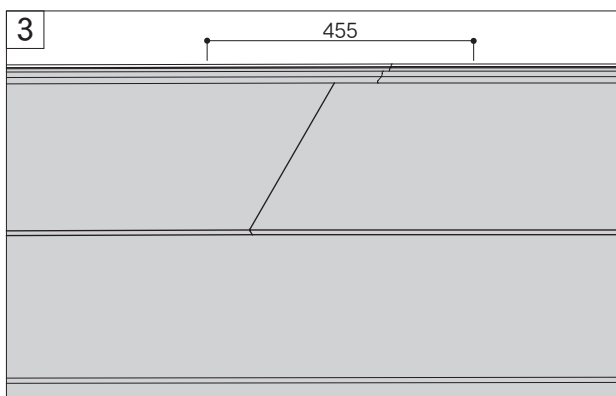
本体の施工



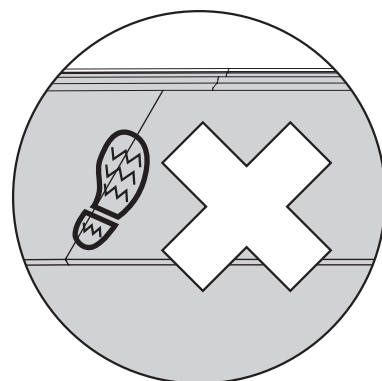
- 施工は必ず左から右へ行ってください。
- 横継ぎは必ず横ジョイント部で行ってください。
- 本体の横ジョイント部は上下で重ならないように**300mm以上**離して割り付けてください。



- 横ジョイントは、上図のようにはめ込んでください。
- 横ジョイントでは、表面鋼板の重なり代を確保するために、左右で数mm程度の段差が発生します。無理に押し込むと本体が歪むおそれがあります。墨出し線に合わせて施工されていることを確認してください。



- 本体は、455mm間隔以下でたる木に留め付けてください。留め付け方の詳細は、P12~を参照してください。



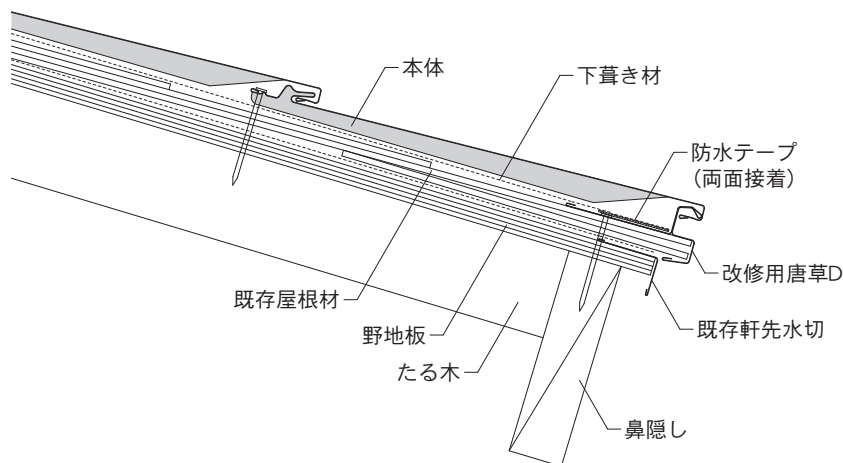
注意

横ジョイント部は、変形のおそれがありますので、上に乗ったり重量物を置いたりしないでください。

直張工法 各部の納まり

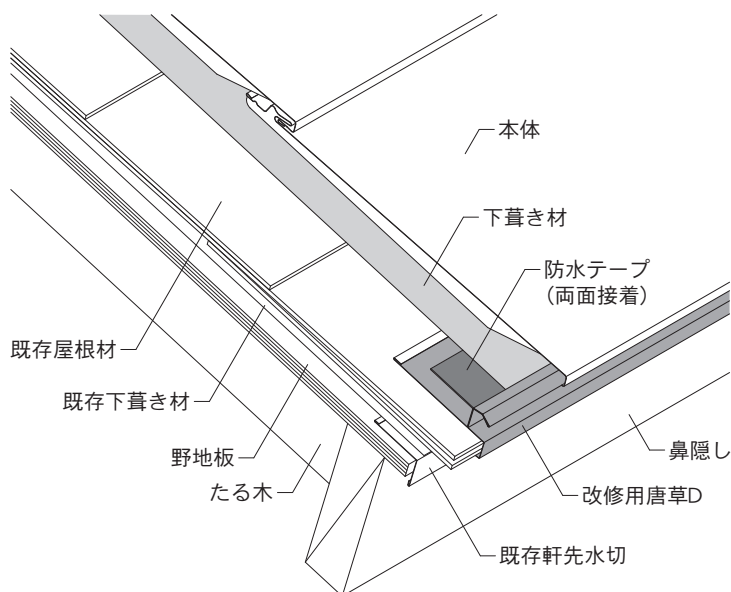
○軒先の納まり① 〈改修用唐草D〉

納まり図



○改修用唐草Dは、既存屋根と軒先の位置を変えることなく施工できますが、雨どいの取り換え、位置調整が必要となります。

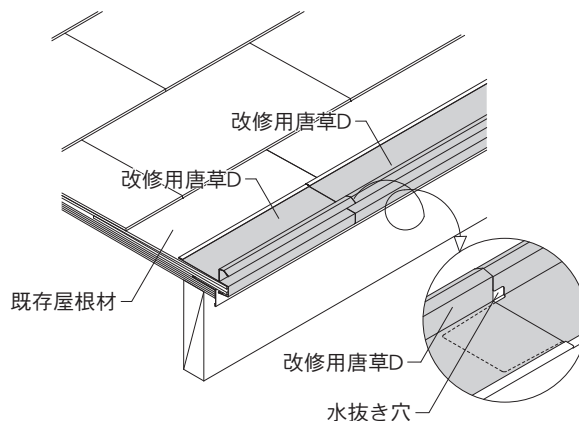
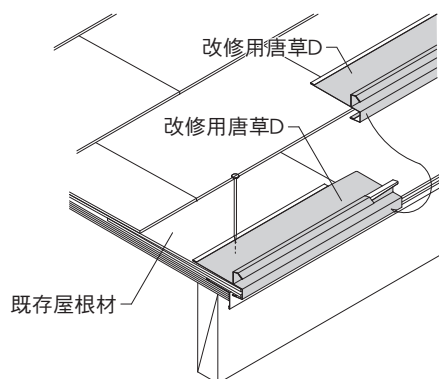
施工手順



○改修用唐草Dは、墨出しに合わせて施工してください。改修用唐草Dの施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。

○改修用唐草Dを既存屋根材の先端に引っかけて、取り付けてください。本体の施工方法は、P17を参照してください。

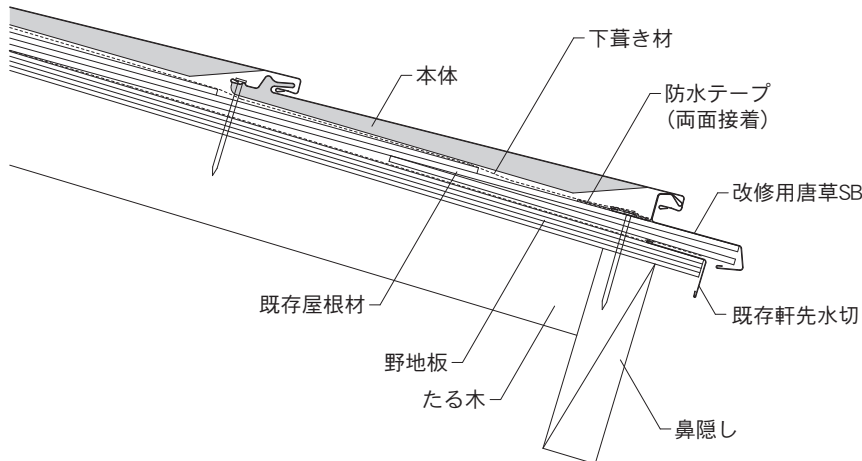
改修用唐草Dのつなぎ方



○改修用唐草Dの片側には、50mmの切り欠き加工がされています。つなぎ部には、水抜き穴ができますので、下葺き材でふさがないように注意してください。

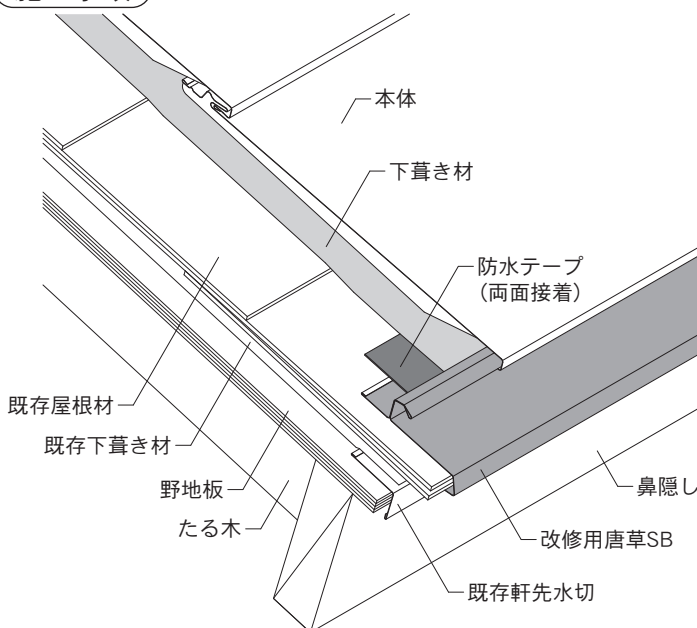
○軒先の納まり② 〈改修用唐草SB〉

納まり図



○改修用唐草SBは、既存屋根と軒先位置が変わりますが、雨どいの取り換えや取り付け位置の調整が必要なくなります。

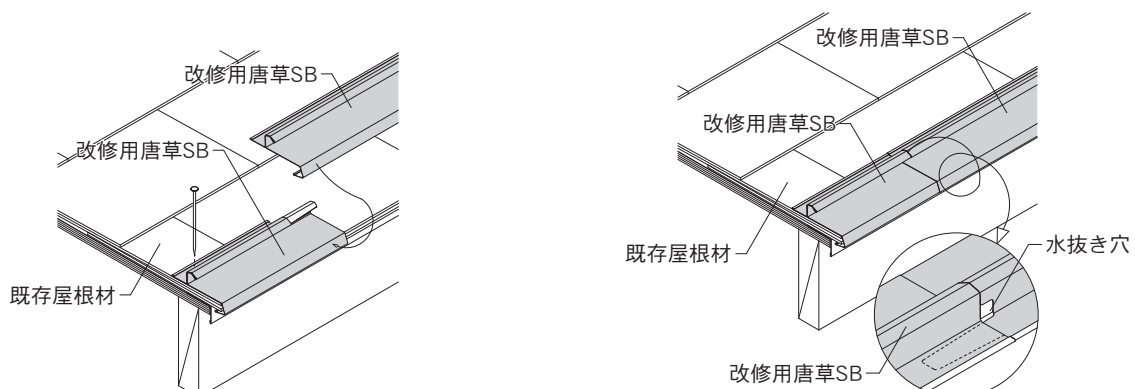
施工手順



○改修用唐草SBは、墨出しに合わせて施工してください。改修用唐草SBの施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。

○改修用唐草SBを既存屋根材の先端に引っかけて、取り付けてください。本体の施工方法は、P17を参照してください。

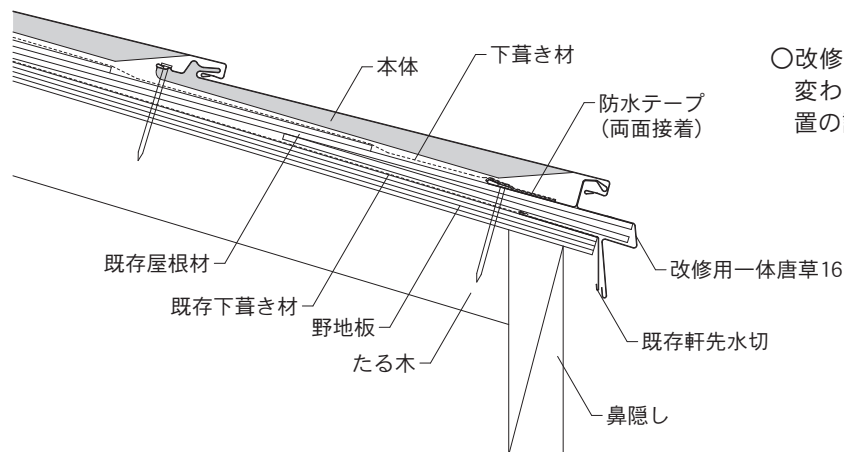
改修用唐草SBのつなぎ方



○改修用唐草SBの片側には、50mmの切り欠き加工がされています。つなぎ部には、水抜き穴ができますので、下葺き材でふさがないように注意してください。

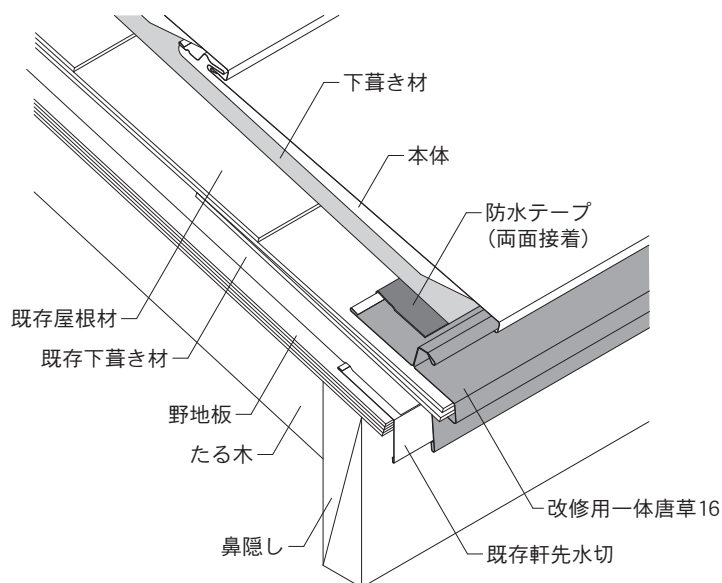
○軒先の納まり③ 〈改修用一体唐草16〉

納まり図



○改修用一体唐草16は、既存屋根と軒先の位置は変わりますが、雨どいの取り換えや取り付け位置の調整が不要になり、既存水切が隠れます。

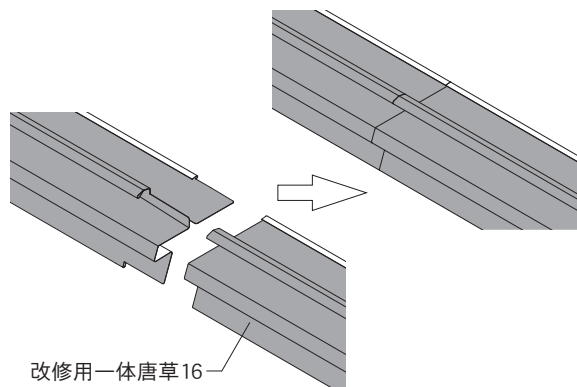
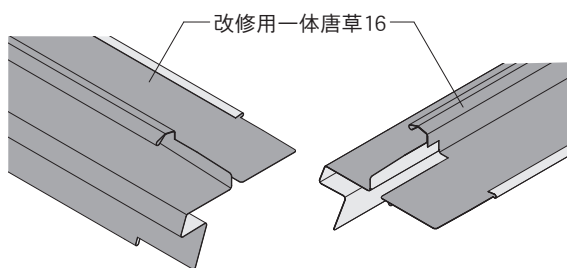
施工手順



○改修用一体唐草16は、墨出しに合わせて施工してください。改修用一体唐草16の施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。

○改修用一体唐草16を既存屋根材の先端に引っかけて、取り付けてください。本体の施工方法は、P17を参照してください。

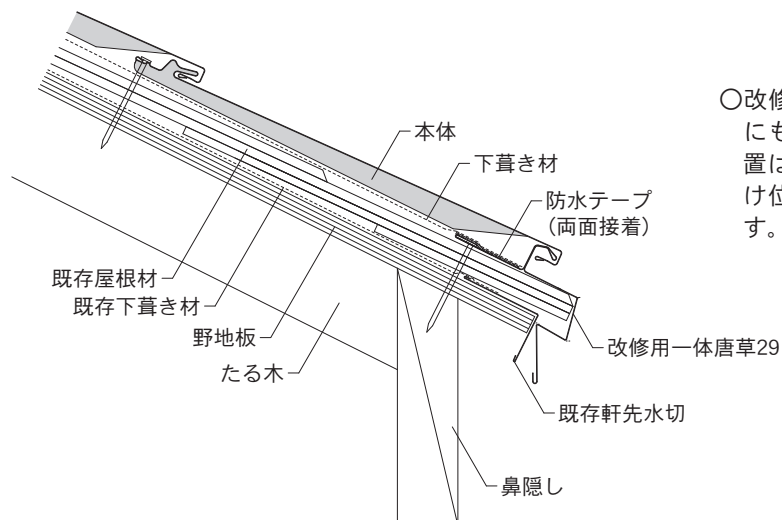
改修用一体唐草16のつなぎ方



○改修用一体唐草16には、50mmの切り欠き加工が施されています。つなぎ部には、水抜き穴ができますので、下葺き材でふさがないように注意してください。

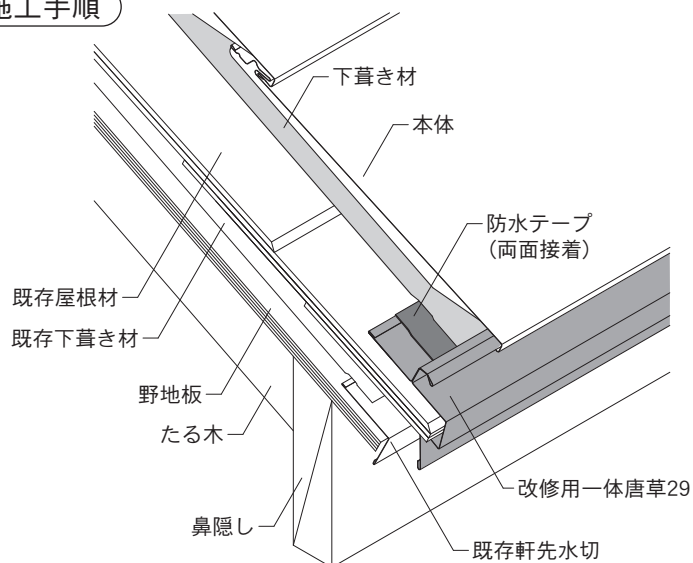
○軒先の納まり④ 〈改修用一体唐草29〉

納まり図



○改修用一体唐草29は、厚みのあるスレート屋根にもお使いいただけます。既存屋根と軒先の位置は変わりますが、雨どいの取り換えや取り付け位置の調整が不要になり、既存水切が隠れます。

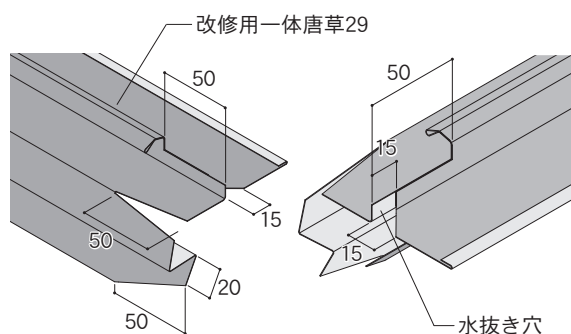
施工手順



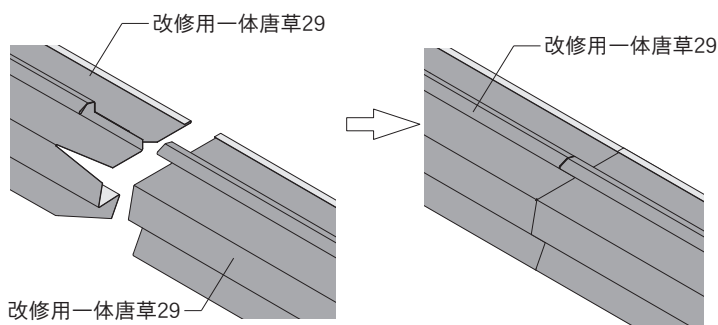
○改修用一体唐草29は、墨出しに合わせて施工してください。改修用一体唐草29の施工位置により、本体を施工した際の仕上がりに影響します。

○改修用一体唐草29を既存屋根材の先端に引っかけて、取り付けてください。本体の施工方法は、P17を参照してください。

改修用一体唐草29の加工とつなぎ方

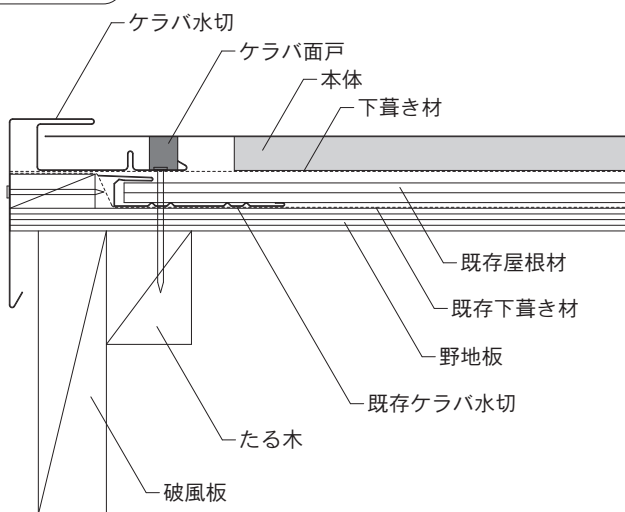


○改修用一体唐草29同士をつなぐ際は、図を参考に片側に50mmの切り欠き加工をしてから施工してください。



○ケラバの納まり①（推奨） 〈ケラバ水切・ケラバ面戸〉

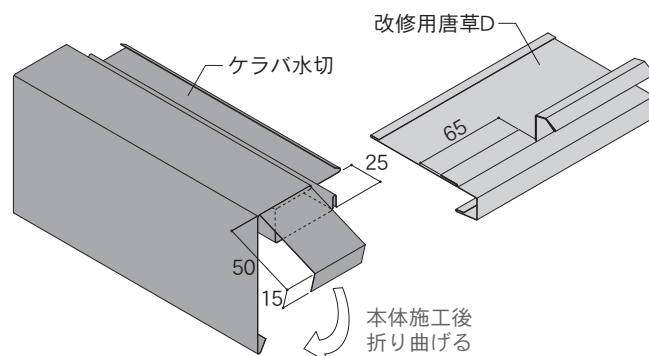
納まり図



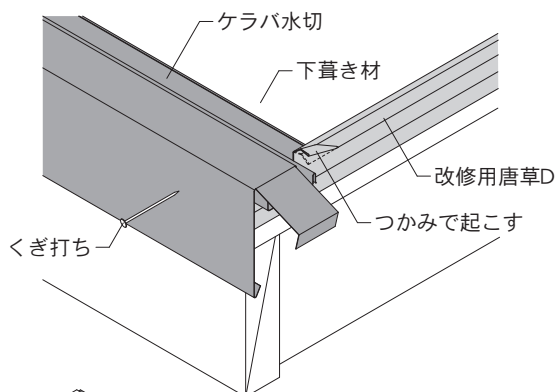
○ケラバ水切を使用する場合の、より防水性を高めるための推奨の納まりです。

施工手順

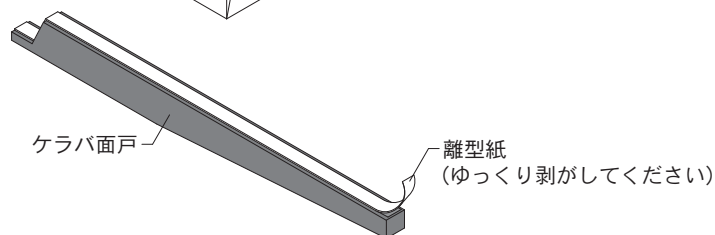
〈改修用唐草D、ケラバ面戸を使用する場合〉



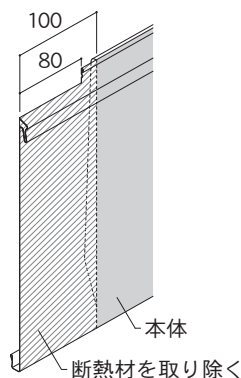
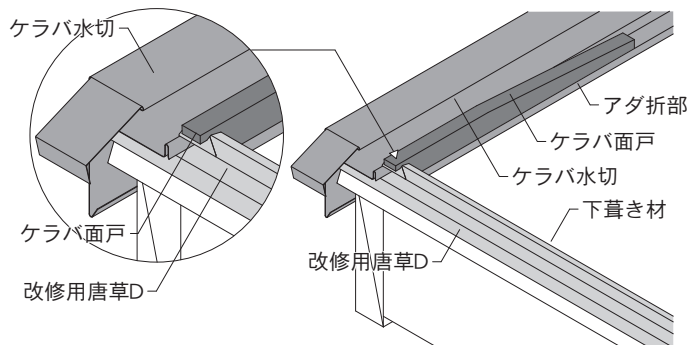
○改修用唐草Dとケラバ水切の取り合いは、左図のように加工して取り付けください。
○改修用唐草D→下葺き材→ケラバ水切の順序で施工してください。
○ケラバ水切の軒先は、本体施工後に折り曲げてください。
○ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P29を参照してください。



○改修用唐草D→下葺き材→ケラバ水切の順序で施工してください。

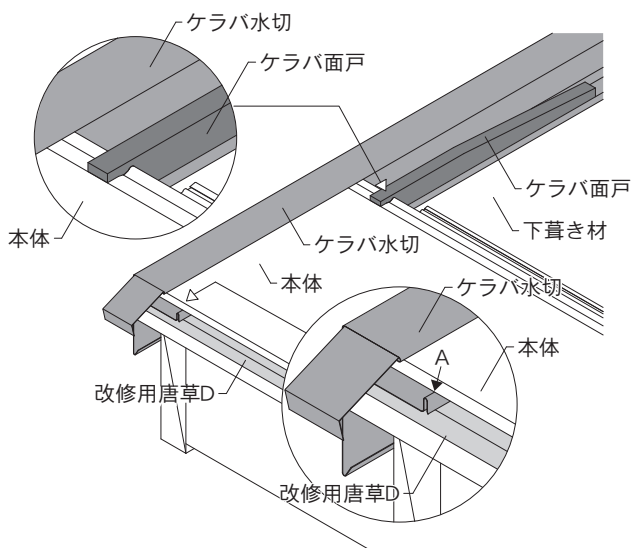


○ケラバ水切を施工する際は、ケラバ面戸を使用してください。
○ケラバ面戸は、離型紙が出ている側からゆっくり剥がして使用してください。

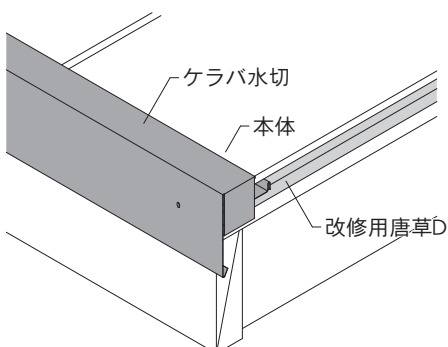


- ケラバ面戸は、改修用唐草Dの引っ掛け部から貼りはじめ、ケラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。引っ掛け部にも隙間がないように密着させてください。
- 他の改修用唐草を使用する場合も同様に貼り付けてください。

- 切断部から断熱材を100mm程度取り除き、くぎ打ち部を80mm程度切断してください。



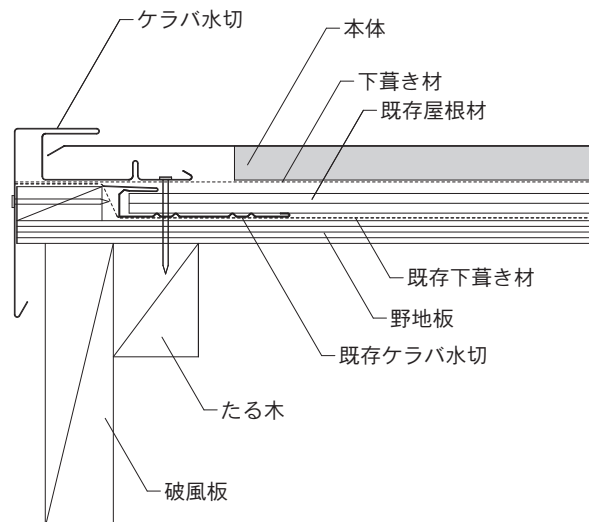
- 本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分に必ずのせてください。
- ケラバ面戸は、本体かん合部から貼りはじめ、ケラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。本体かん合部にも隙間がないように密着させてください。
- 二段目以降も同様に、ケラバ面戸を施工してから本体を施工してください。



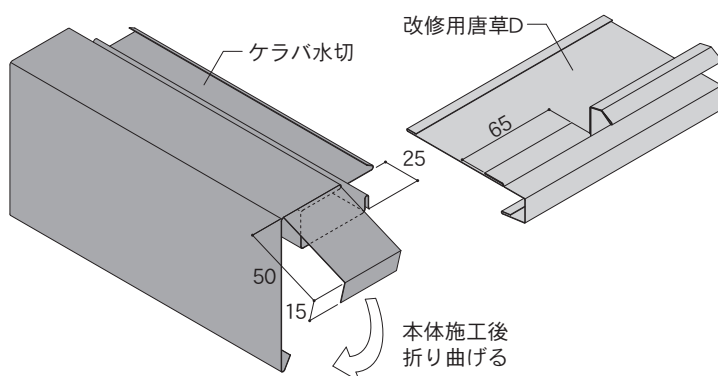
- 本体施工後に、ケラバ水切の軒先を折り曲げてください。
- ケラバ水切エンドを併用する場合、軒先の加工が不要になり施工性が向上します。

○ケラバの納まり② 〈ケラバ水切〉

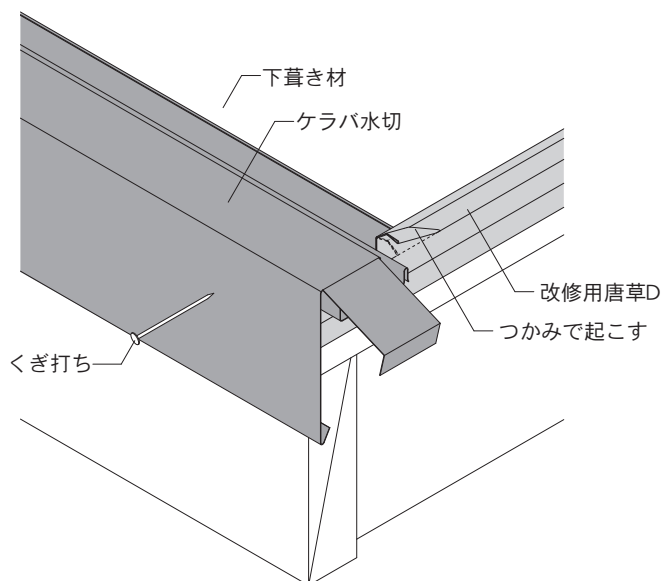
納まり図



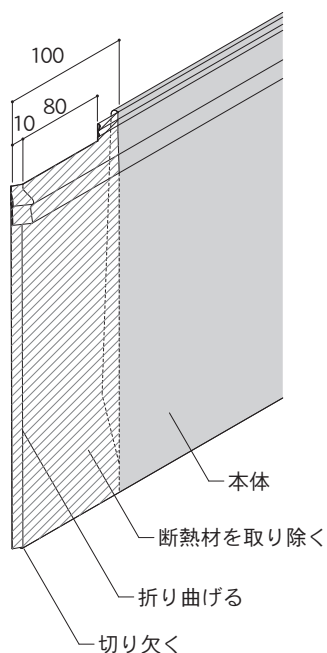
施工手順 1 〈改修用唐草Dを使用する場合〉



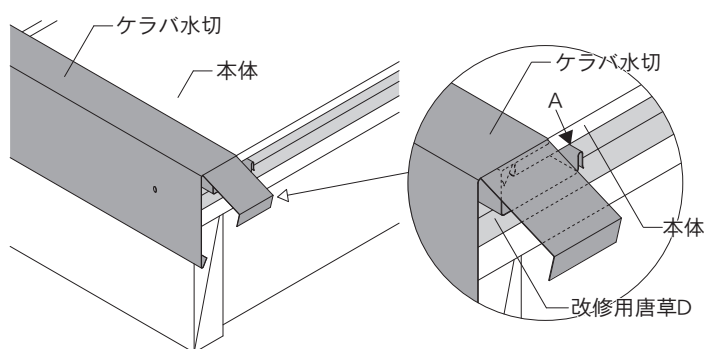
- 改修用唐草Dとケラバ水切の取り合いは、左図のように加工して取り付けてください。
- 改修用唐草D→下葺き材→ケラバ水切の順序で施工してください。
- ケラバ水切の軒先は、本体施工後折り曲げてください。
- ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P29を参照してください。



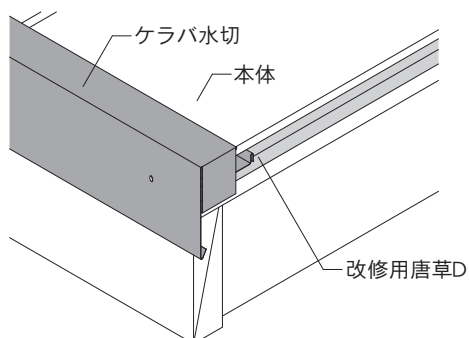
- 改修用唐草Dの端部を左図のようにつかみで起こしてください。



- 切断部から断熱材を100mm程度取り除き、くぎ打ち部を80mm程度切断してください。
- 本体の端部は、10mm程度折り曲げてください。

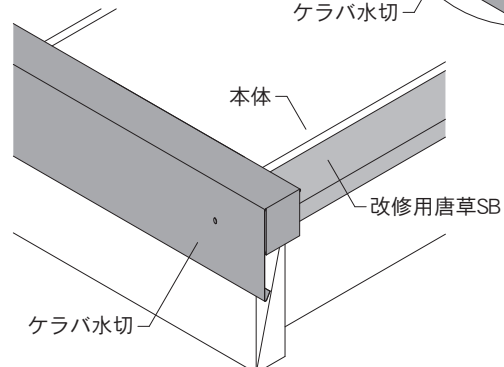
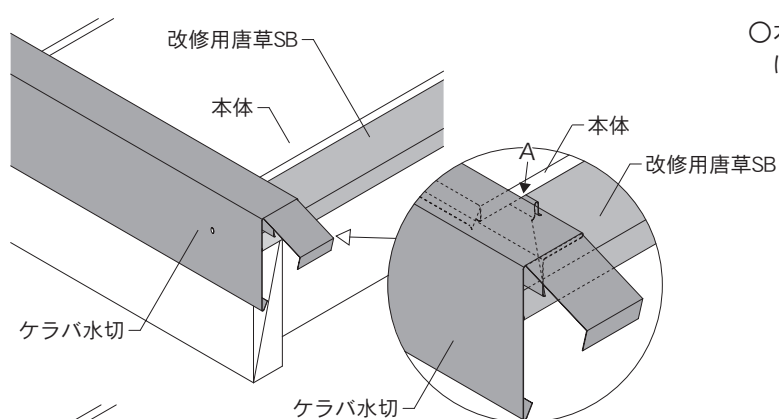
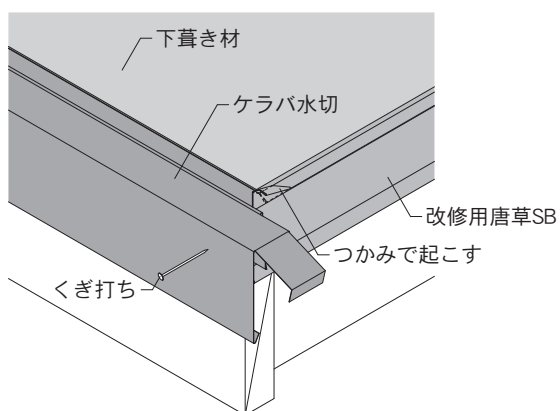
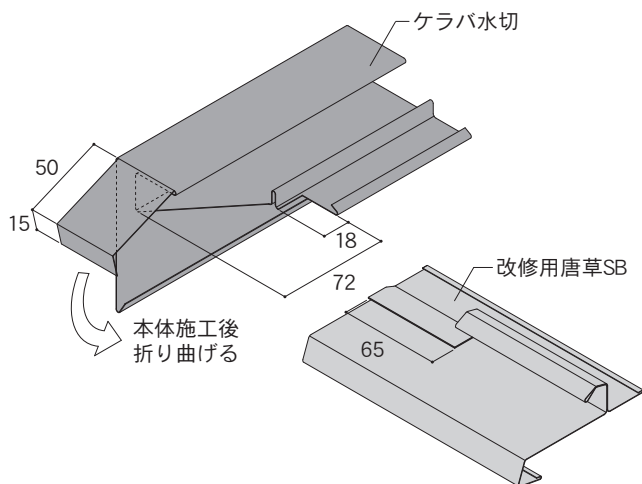


- 本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分に必ずのせてください。



- 本体施工後に、ケラバ水切の軒先を折り曲げてください。
- ケラバ水切エンドを併用する場合、軒先の加工が不要になり施工性が向上します。
(P28 参照)

施工手順 2 〈改修用唐草SBを使用する場合〉



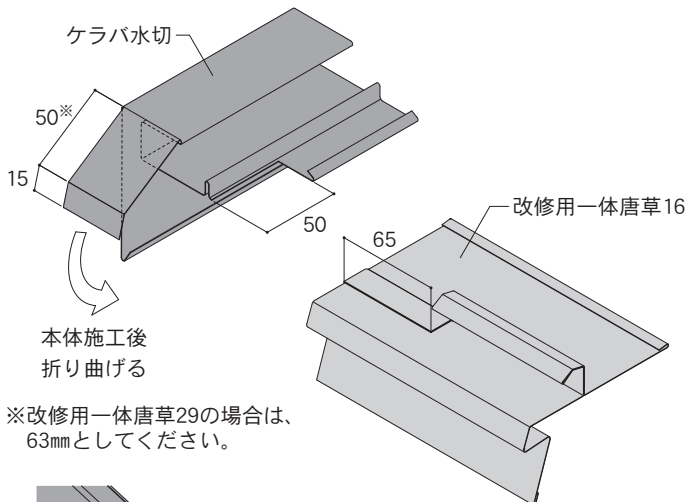
- 改修用唐草SBとケラバ水切の取り合いは、左図のように加工して取り付けてください。
- 改修用唐草SB→下葺き材→ケラバ水切の順序で施工してください。
- ケラバ水切の軒先は、本体施工後折り曲げてください。
- ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P29を参照してください。

○改修用唐草SBの端部を左図のようにつかみで起こしてください。

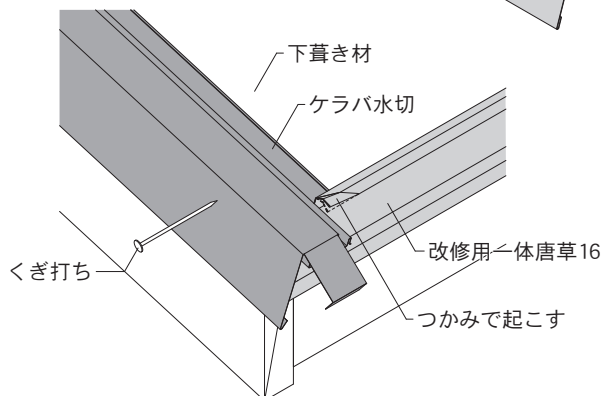
○本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草SBに引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分に必ずのせてください。

- 本体施工後に、ケラバ水切の軒先を折り曲げてください。
- ケラバ水切エンドを併用する場合、軒先の加工が不要になり施工性が向上します。(P28参照)

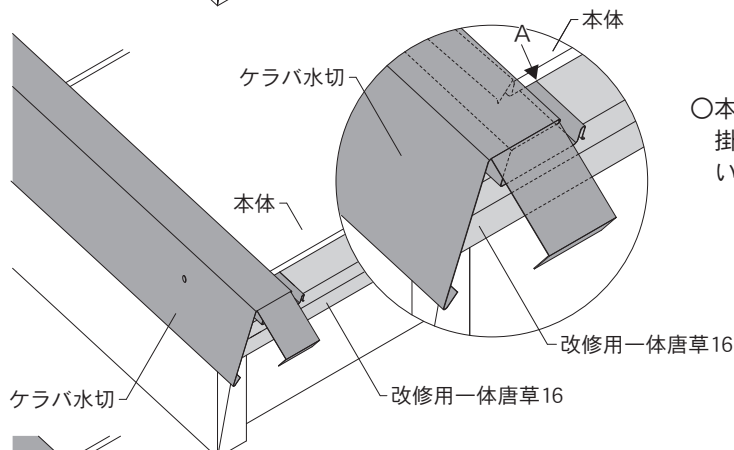
施工手順 3 〈改修用一体唐草16・改修用一体唐草29を使用する場合〉



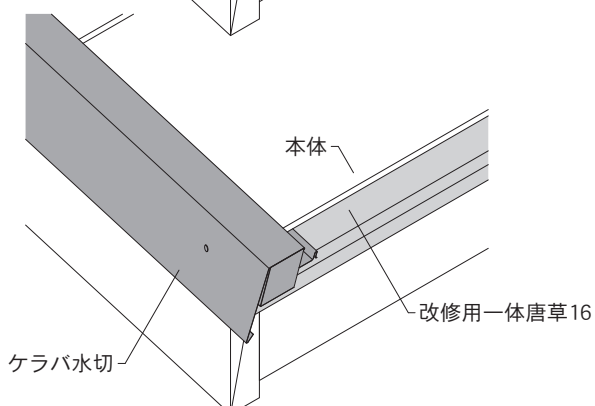
- 改修用一体唐草16、改修用一体唐草29とケラバ水切の取り合いは、左図のように加工して取り付けください。各図は、例として改修用一体唐草16で記載しています。
- 改修用一体唐草16又は改修用一体唐草29→下葎き材→ケラバ水切の順序で施工してください。
- ケラバ水切の軒先は、本体施工後折り曲げてください。
- ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P29を参照してください。



- 改修用一体唐草16の端部を左図のようにつかみで起こしてください。

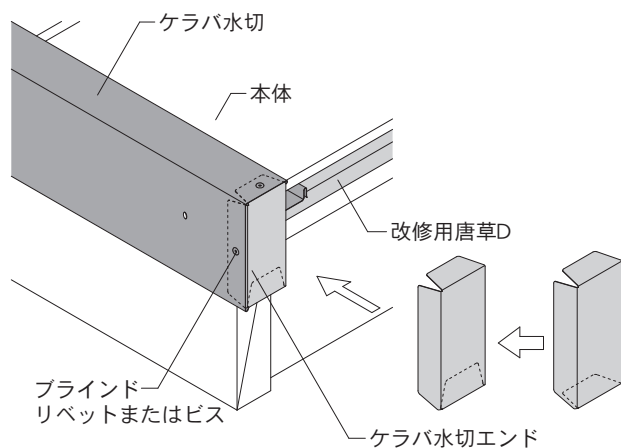
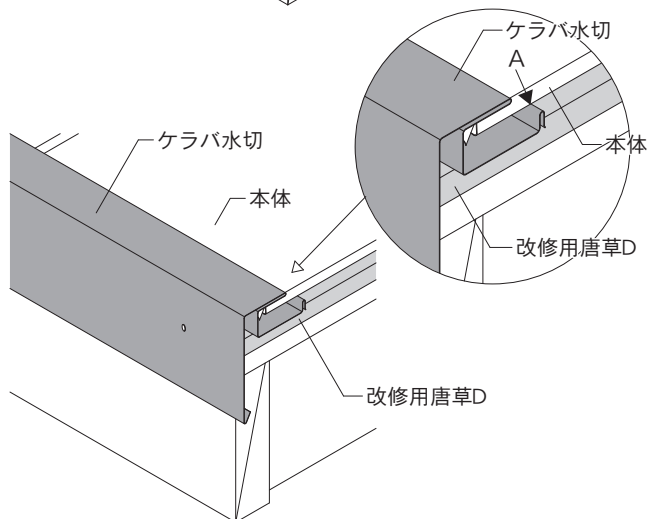
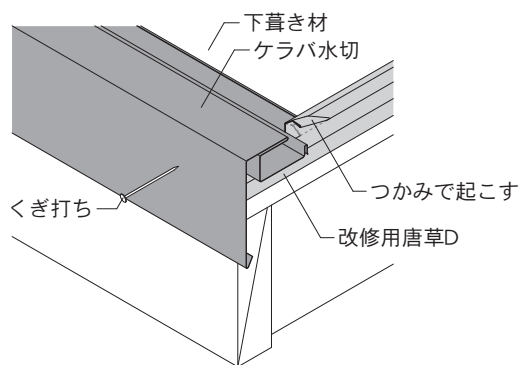
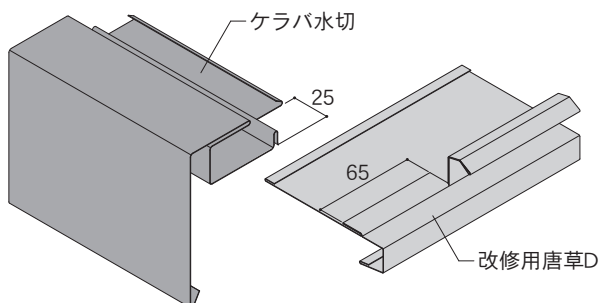


- 本体の一段目の下ハゼは、改修用一体唐草16に引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分に必ずのせてください。



- 本体施工後に、ケラバ水切の軒先を折り曲げてください。
- ケラバ水切エンドを併用する場合、軒先の加工が不要になり施工性が向上します。(P28参照)

施工手順 4 〈ケラバ水切エンドを併用する場合〉



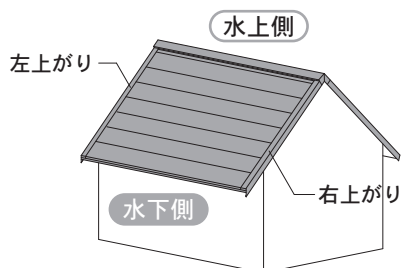
- 改修用唐草Dとケラバ水切の取り合いは、左図のように加工して取り付けてください。
- 改修用唐草D→下葺き材→ケラバ水切→本体→ケラバ水切エンドの順序で施工してください。
- ケラバ水切同士をつなぐ場合は、P29を参照してください。

○改修用唐草Dの端部を左図のようにつかみで起こしてください。

- 本体の加工方法は、P25を参照してください。
- 本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて、ケラバ水切のAの部分に必ずのせてください。

- ケラバ水切エンドの下部を、ケラバ水切の方向に合わせて折り曲げてください。
- ケラバ水切エンドをケラバ水切に差し込み、ブラインドリベットまたはビスで2カ所留め付けてください。
- ブラインドリベットまたはビスはタッチアップペイントで補修してください。

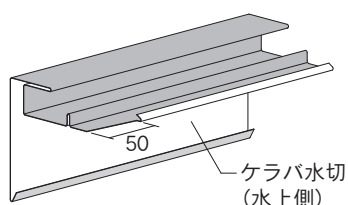
ケラバ水切同士のつなぎ方



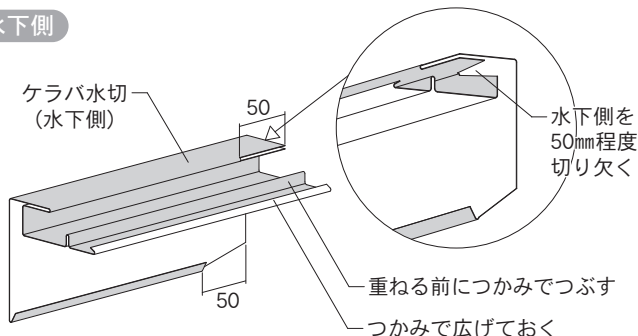
- ケラバ水切同士をつなぐ際は、50mm程度の切り欠き加工をしてください。
- 施工する方向により切り欠き加工が異なりますので、注意してください。

左上がりの加工

水上側

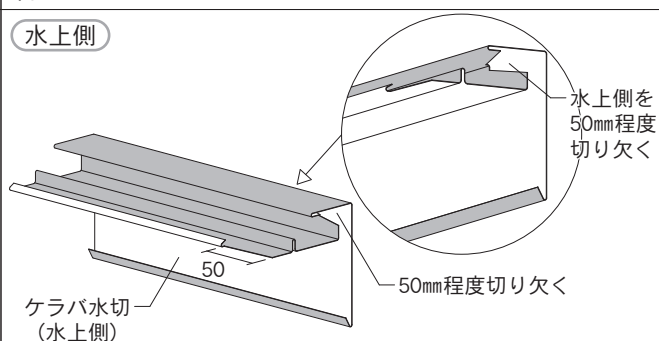


水下側

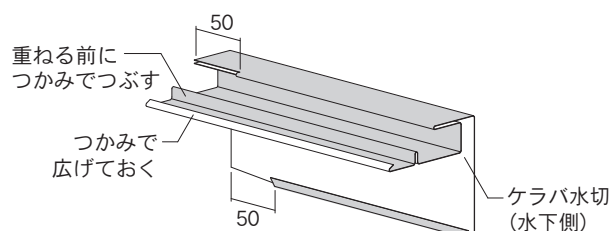


右上がりの加工

水上側

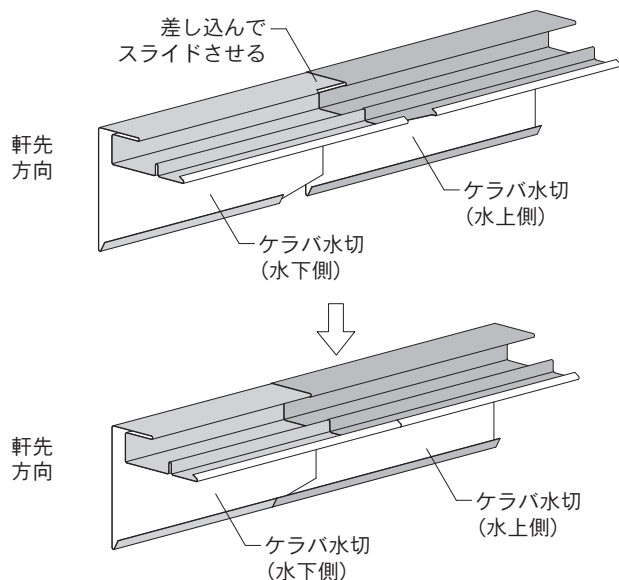


水下側



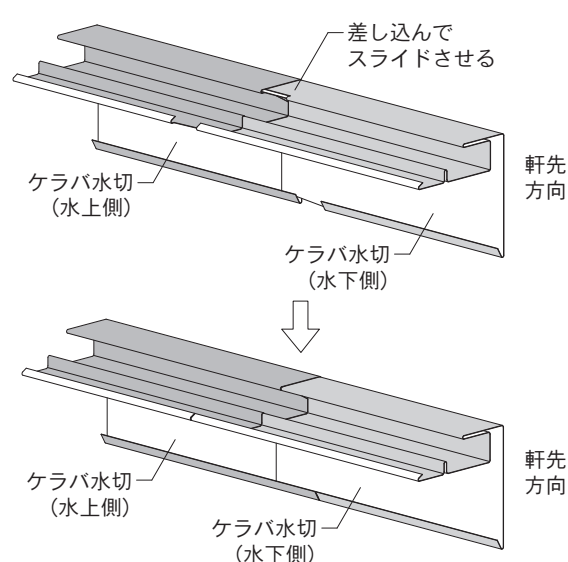
左上がりのつなぎ方

水下側のケラバ水切を下に施工してください。



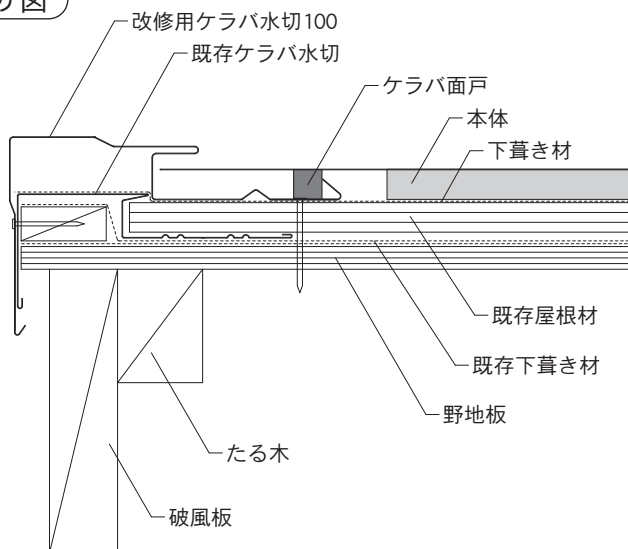
右上がりのつなぎ方

水下側のケラバ水切を下に施工してください。



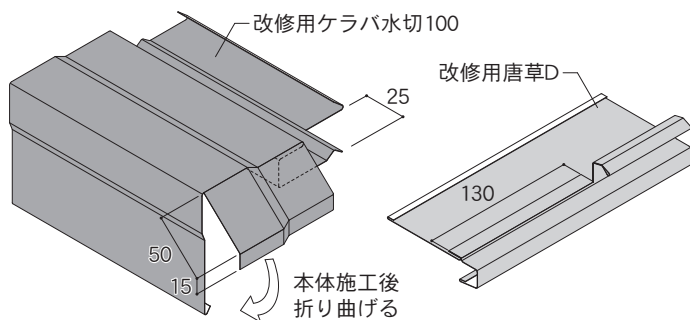
○ケラバの納まり③（推奨） 〈改修用ケラバ水切100・ケラバ面戸〉

納まり図

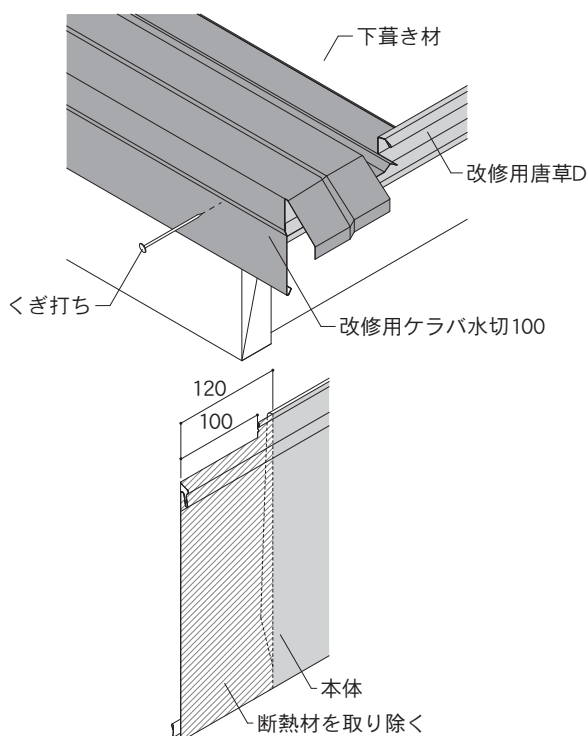


○改修用ケラバ水切100を使用する場合の、より防水性を高めるための推奨の納まりです。

施工手順 〈改修用唐草Dを使用する場合〉

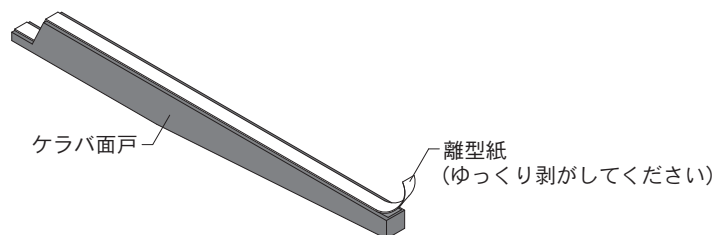


○改修用唐草Dと改修用ケラバ水切100の取り合いは、左図のように加工して取り付けてください。
○改修用唐草D→下葺き材→改修用ケラバ水切100の順序で施工してください。
○改修用ケラバ水切100の軒先は、本体施工後折り曲げてください。

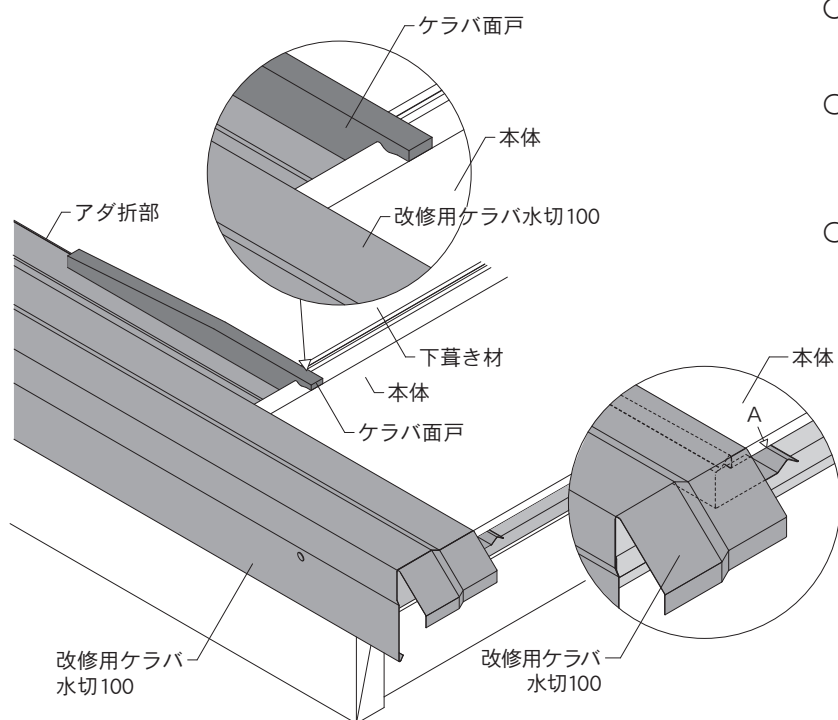


○軒先部の既存ケラバ水切は、改修用唐草を取り付けるため、切断してください。
○改修用ケラバ水切100の側面を留め付ける際は、リップを目安にしてください。

○切断部から断熱材を120mm程度取り除き、くぎ打ち部を100mm程度切断してください。



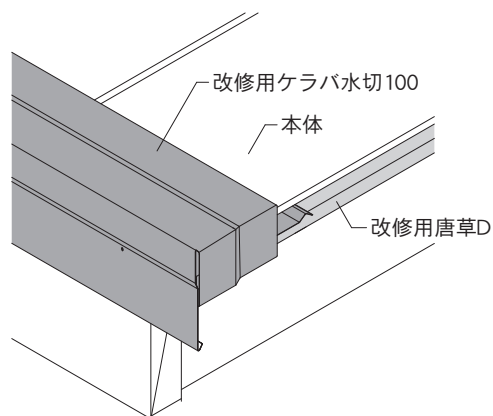
○ケラバ面戸は、離型紙が出ている側からゆっくり剥がして使用してください。



○本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて、改修用ケラバ水切100のAの部分に必ずのせてください。

○ケラバ面戸は、本体かん合部から貼りはじめ、ケラバ水切のアダ折りに沿って貼り付けてください。本体かん合部にも隙間がないように密着させてください。

○二段目以降も同様に、ケラバ面戸を施工してから本体を施工してください。

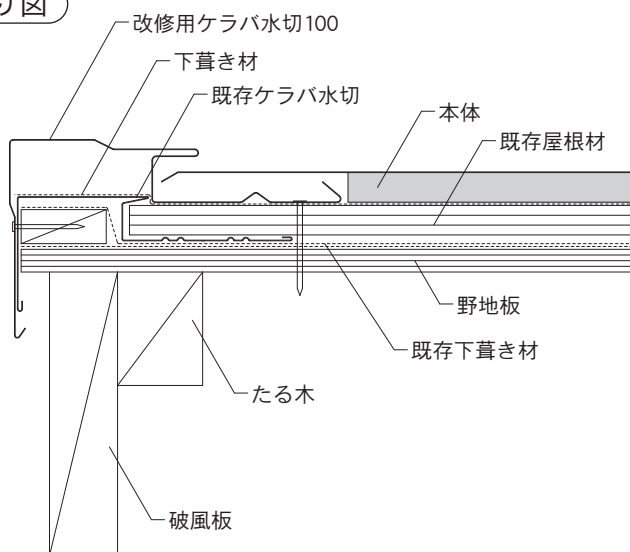


○本体施工後に、改修用ケラバ水切100の軒先を折り曲げてください。

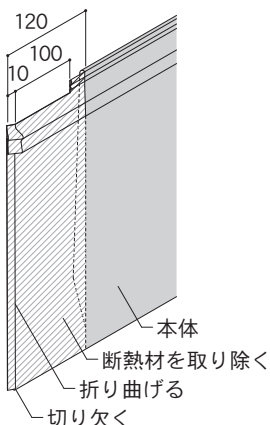
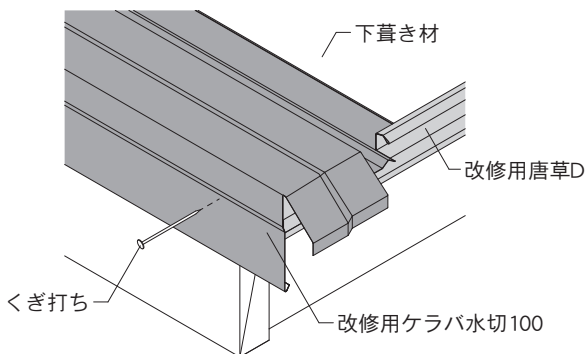
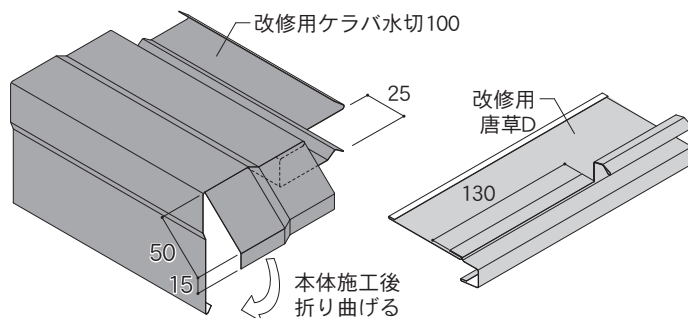
○ケラバ水切100エンド(左)(右)を併用する場合は、軒先の加工が不要となり施工性が向上します。(P34参照)

○ケラバの納まり④ 〈改修用ケラバ水切100〉

納まり図



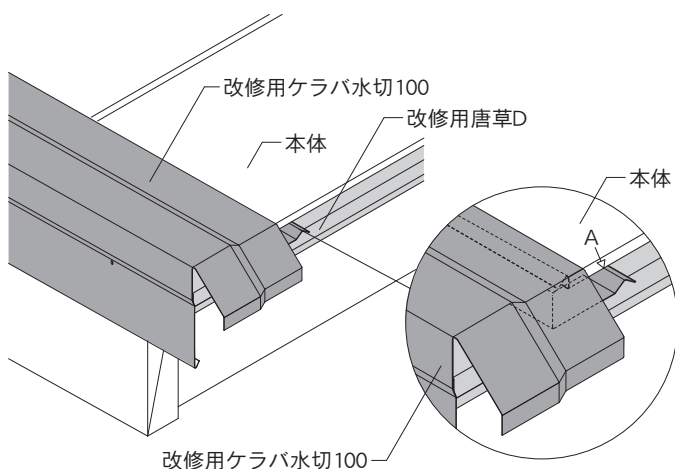
施工手順 〈改修用唐草Dを使用する場合〉



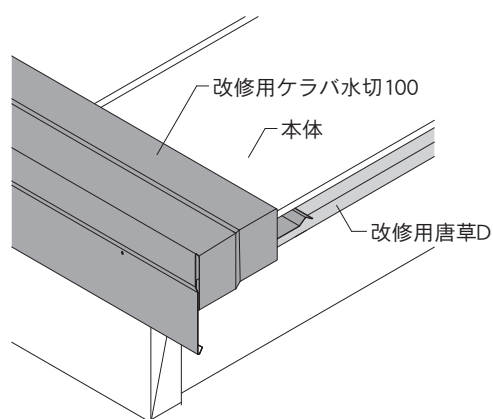
- 改修用唐草Dと改修用ケラバ水切100の取り合いは、左図のように加工して取り付けてください。
- 改修用唐草D→下葺き材→改修用ケラバ水切100の順序で施工してください。
- 改修用ケラバ水切100の軒先は、本体施工後折り曲げてください。

- 軒先部の既存ケラバ水切は、改修用唐草を取り付けるため、切断してください。
- 改修用ケラバ水切100の側面を留め付ける際は、リブを目安にしてください。

- 切断部から断熱材を120mm程度取り除き、くぎ打ち部を100mm程度切断してください。
- 本体の端部は、10mm程度折り曲げてください。



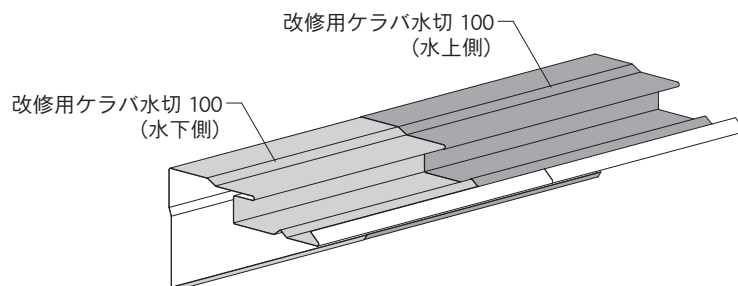
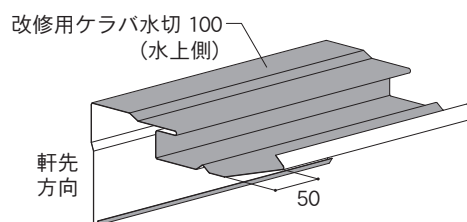
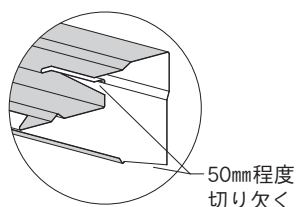
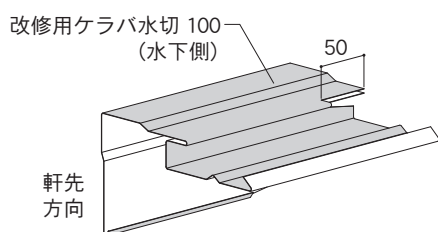
○本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて、改修用ケラバ水切100のAの部分に必ずのせてください。



○本体施工後に、改修用ケラバ水切100の軒先を折り曲げてください。

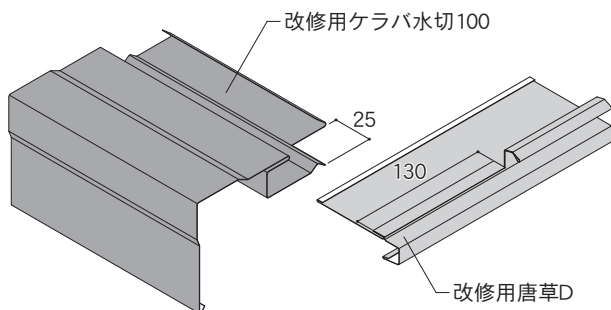
○ケラバ水切100エンド（左）（右）を併用する場合は、軒先の加工が不要となり施工性が向上します。（P34参照）

改修用ケラバ水切100のつなぎ方

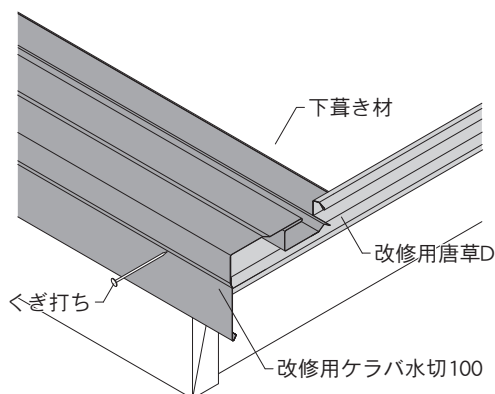


○水下側の改修用ケラバ水切100を下に施工してください。

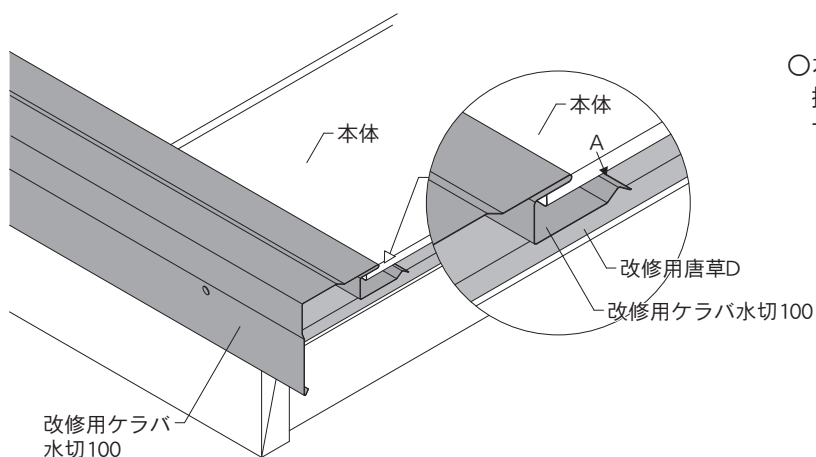
施工手順 2 〈改修用唐草D、ケラバ水切100エンドを併用する場合〉



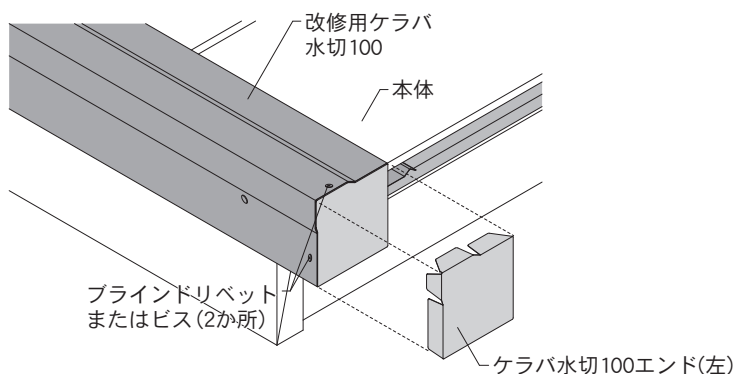
○改修用唐草Dと改修用ケラバ水切100の取り合いは、図のように加工して取り付けてください。



○改修用唐草D→下葺き材→改修用ケラバ水切100の順序で施工してください。
○軒先部の既存ケラバ水切は、改修用唐草Dを取り付けるため、切断してください。
○改修用ケラバ水切100の側面を留め付ける際は、リブを目安にしてください。



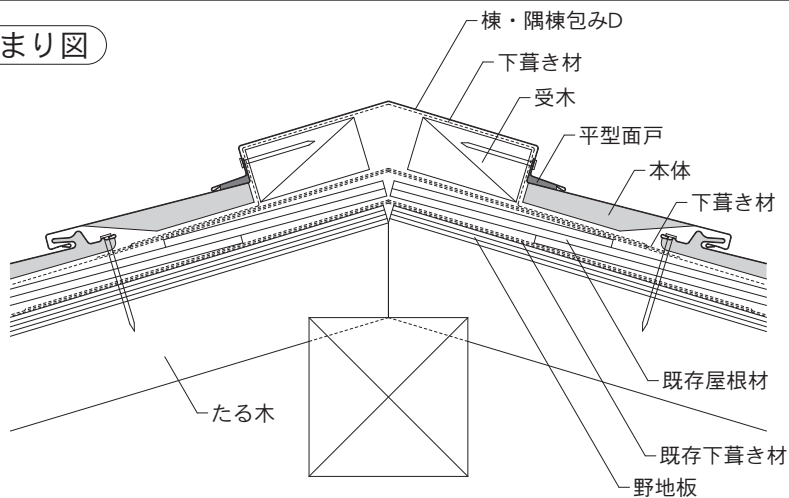
○本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて、改修用ケラバ水切100のAの部分に必ずのせてください。



○ケラバ水切100エンドは、左右で形状が異なります。取り付ける前に左右を確認してください。
○ケラバ水切100エンドを改修用ケラバ水切100に差し込み、ブラインドリベットまたはビスで2か所留め付けてください。留め付け位置は図を参考にしてください。
○ブラインドリベットまたはビスは、タッチアップペイントで補修してください。

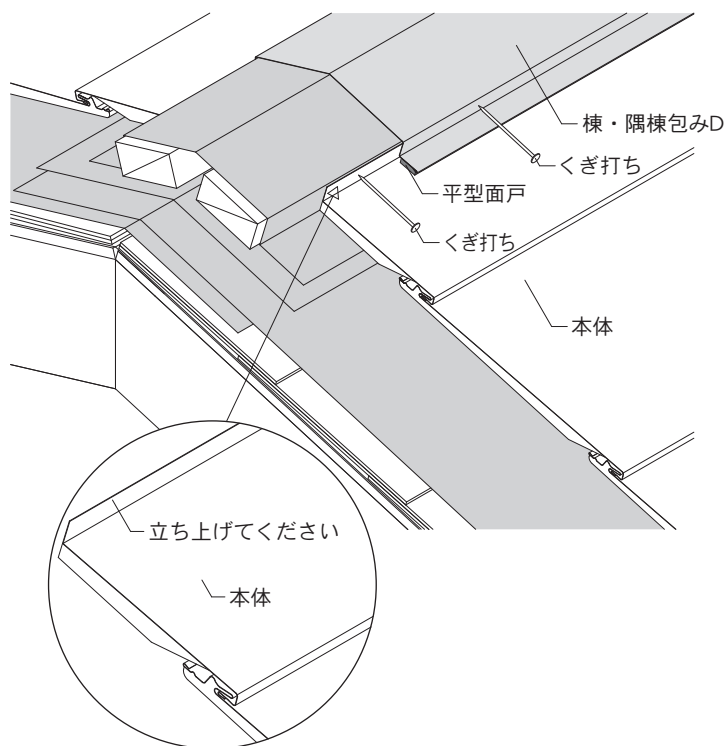
○棟の納まり① 〈棟・隅棟包みD〉

納まり図

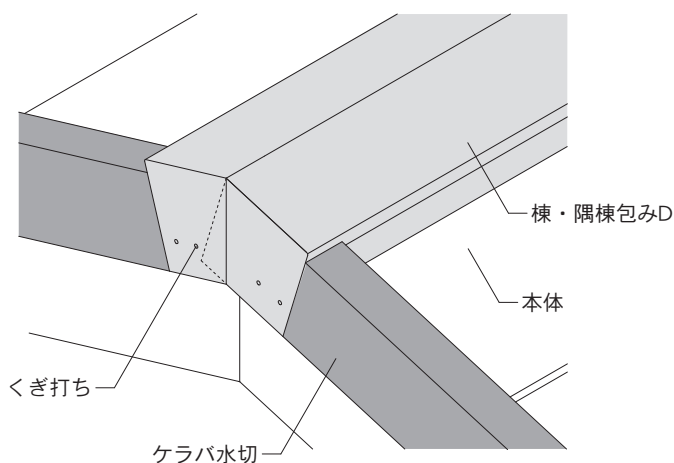


- 屋根の勾配に合わせ、受木は高さ36～45mm、幅60～80mmで選定してください。
- 幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
- 隅棟にC型捨板を使用する場合は、受木のサイズを合わせてください。
- 棟・隅棟包みDをつなぐ場合は、重ね代を150mm以上とり、捨てシーリングを施工し重ねてください。

施工手順1



- 受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、本体を立ち上げてください。
- 受木の勾配に合わせ、棟・隅棟包みDを取り付け、くぎ打ちしてください。
- 平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。



- 棟・隅棟包みDを左図のように加工して納め、くぎ打ちしてください。
- 棟巴を併用する場合、加工が不要になり施工性が向上します。(P36参照)

施工手順 2

棟巴を併用する場合

スーパーガルテクト・スーパーガルテクトCのみの仕様です。

○棟巴は、ケラバ部材の幅や勾配に合わせ切り欠いてください。棟巴はケラバ部材につかみ込んでください。

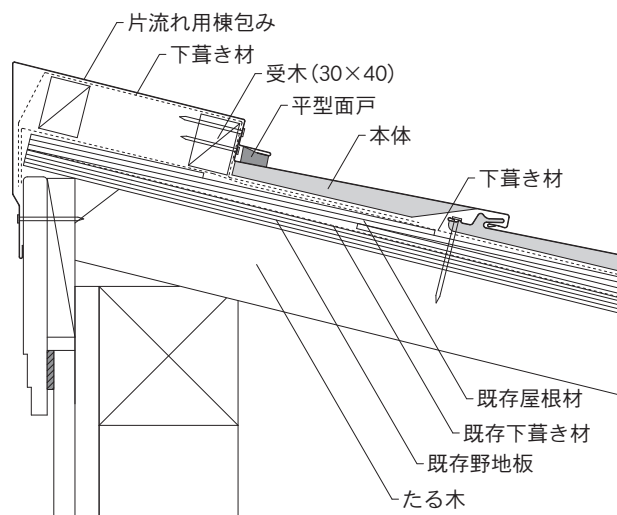
○平型面戸を貼り付け、捨てシーリングを施工してください。

○棟・隅棟包みDを施工し、くぎ打ちしてください。
○平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。

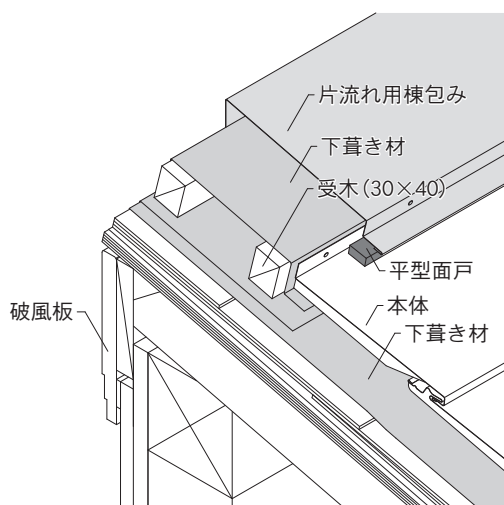
事故防止のため
取り扱いのお願い
アイジールーフを美しく保つために
アイジールーフ適用地域一覧
施工に必要な工具
本体・部材規格
改修物件の調査・確認
工法の確認
下葺き材・留め具の選定
直張工法
合板下地工法（カバー）
合板下地工法（葺き替え）
積算方法
改修物件チェックシート
免責事項

○棟の納まり② 〈片流れ用棟包み〉

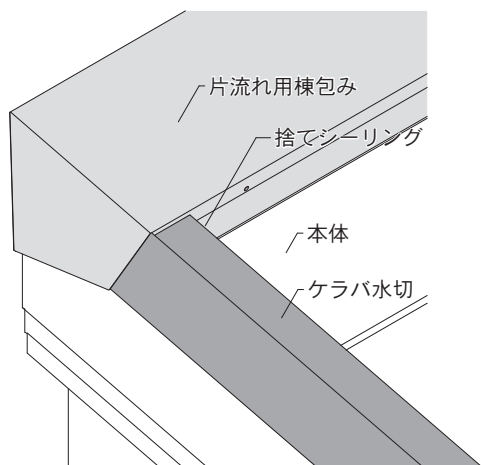
納まり図



施工手順



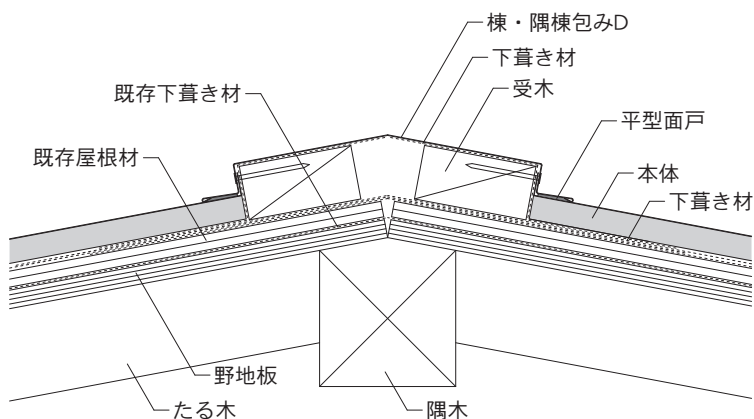
- 受木の位置に合わせて断熱材を取り除き、本体を立ち上げてください。
- 片流れ用棟包みを取り付け、くぎ打ちしてください。



- 片流れ用棟包みの端部は、左図のように加工し、ケラバ部材につかみ込んでください。

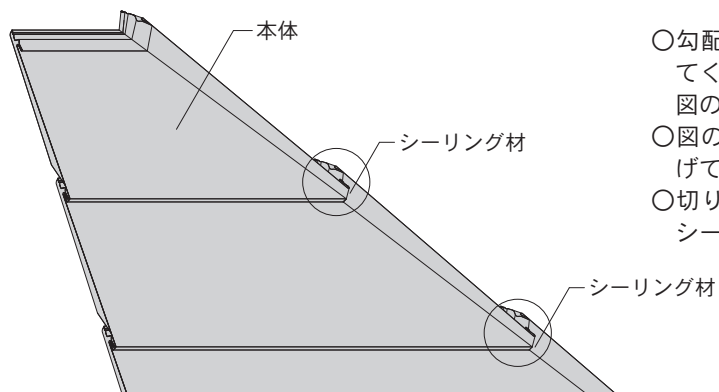
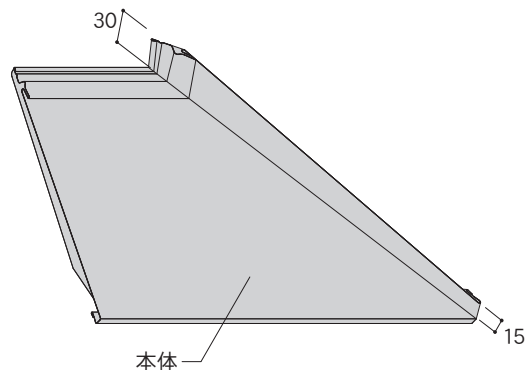
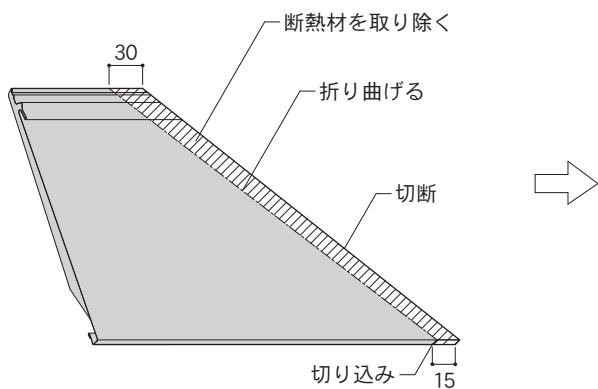
○隅棟の納まり① 〈棟・隅棟包みD〉

納まり図

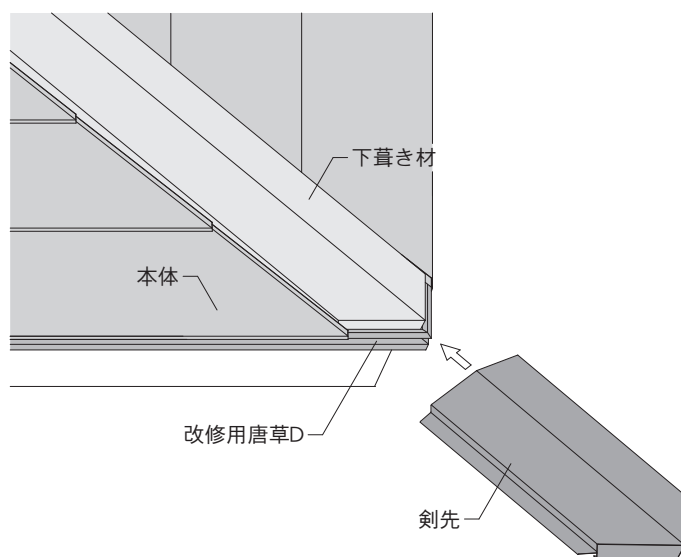


- 受木の勾配に合わせ、棟・隅棟包みDを折り曲げて取り付け、くぎ打ちしてください。
- 棟・隅棟包みDの中に納める本体の端部は、立ち上げてください。
- 受木は、高さ36～45mm、幅60～80mmを選定してください。幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。

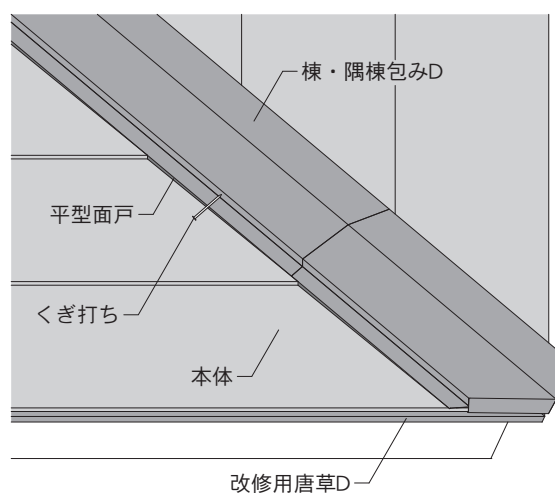
施工手順 1 〈剣先を併用する場合〉



- 勾配に合わせて本体を曲げる位置を決め切断してください。カッターとスクレーパーを使用し、図のように断熱材を取り除いてください。
- 図のようにかん合部に切り込みを入れ、立ち上げてください。
- 切り込みを入れたかん合部は、本体を施工後にシーリング材で防水処理をしてください。

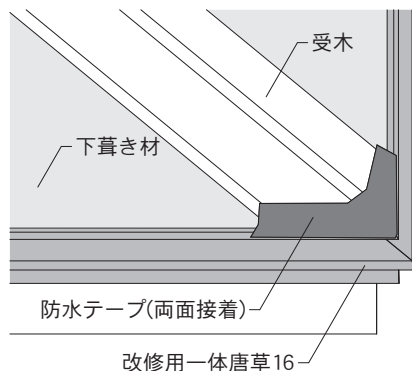


- 本体に、平型面戸を貼ってください。
- 剣先を施工してから、棟・隅棟包みDを上から重ねて施工してください。
- 剣先は、2.5寸～4.5寸勾配に対応しています。
- 図は、改修用唐草Dですが、他の改修用唐草も同様に施工できます。

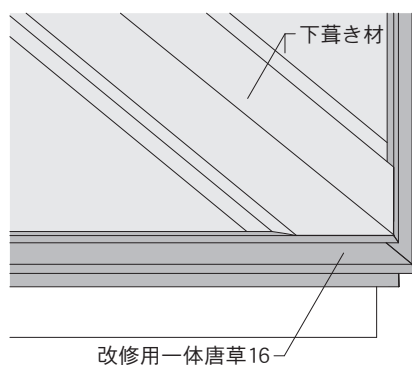


- 剣先と棟・隅棟包みDの重ね代は150mm以上とり、捨てシーリングを施工し重ねてください。

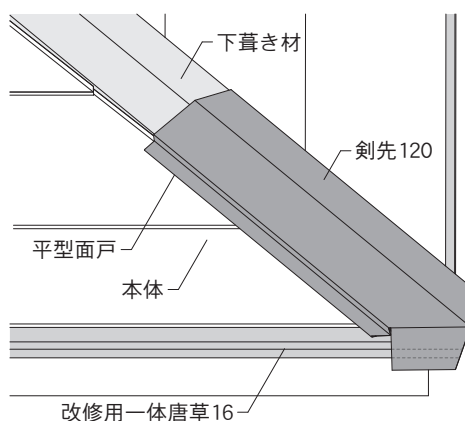
施工手順 2 〈剣先120を併用する場合〉



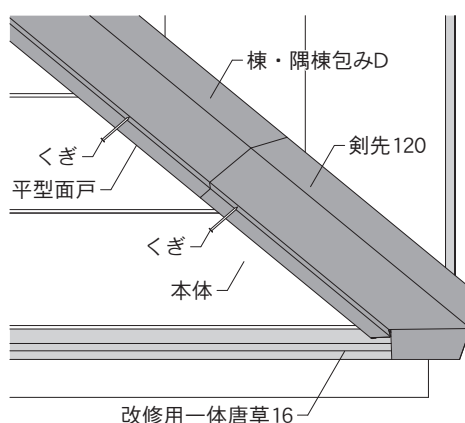
- 改修用一体唐草16と受木に防水テープ（両面）を施工してください。
- 図は、改修用一体唐草16ですが、他の改修用唐草も同様に施工できます。



- 改修用一体唐草16と受木に施工した防水テープ（両面接着）を、下葺き材と密着させてください。



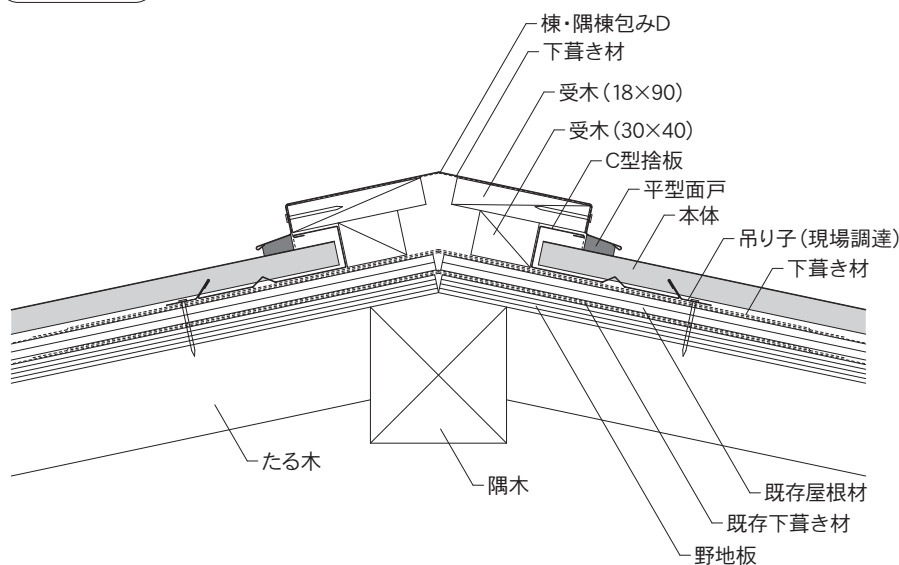
- 本体の加工方法と施工方法は、P38～39と合わせて確認してください。
- 本体に、平型面戸を貼ってください。
- 剣先120を施工してください。
- 剣先120の先端は、改修用一体唐草16のラインに合わせて切断またはつかみこんでください。



- 剣先120と、棟・隅棟包みDの重ね代は150mm以上とり、捨てシーリングを施工し重ねてください。

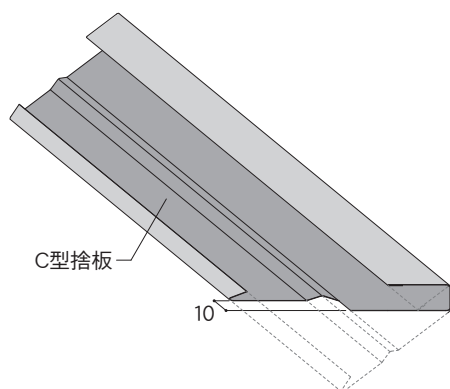
○隅棟の納まり② 〈棟・隅棟包みD・C型捨板〉

納まり図

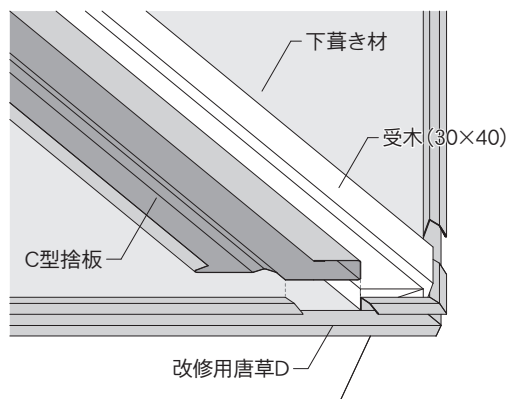


○C型捨板を施工することで、本体の立ち上げ加工を省くことができ、施工性と止水性が向上します。

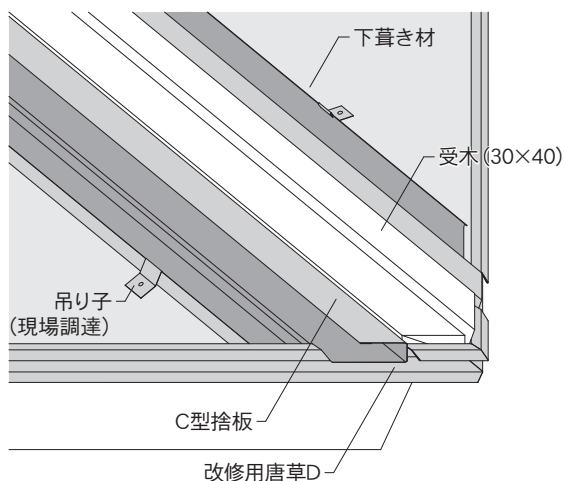
施工手順 1 〈剣先を併用する場合〉



○勾配に合わせてC型捨板を切断し、図のように10mm程度切り欠いてください。



○C型捨板の切り欠き部分に合わせ、改修用唐草Dを切り欠いてください。



○改修用唐草Dの切り欠いた部分にC型捨板を合わせ10mm程度改修用唐草Dの上に出してください。

○C型捨板は、吊り子（現場調達）を使用し留め付けてください。

80

切り欠く

本体

○勾配に合わせて本体を切断し、くぎ打ち部を80mm程度切り欠いてください。

本体

受木 (30×40)

C型捨板

受木 (30×40)

C型捨板

改修用唐草D

○本体は、C型捨板に差し込んで施工してください。

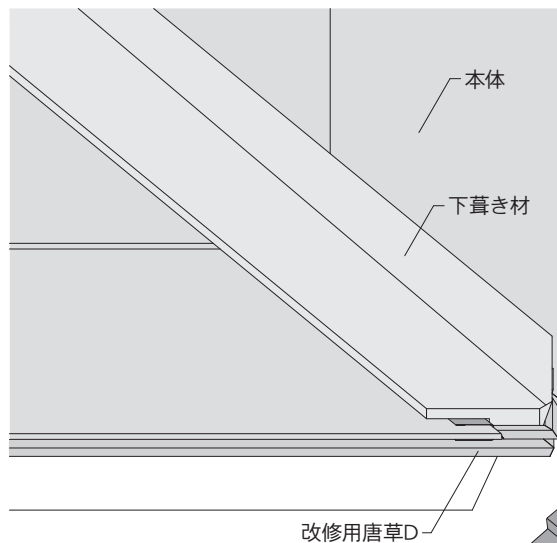
本体

受木 (18×90)

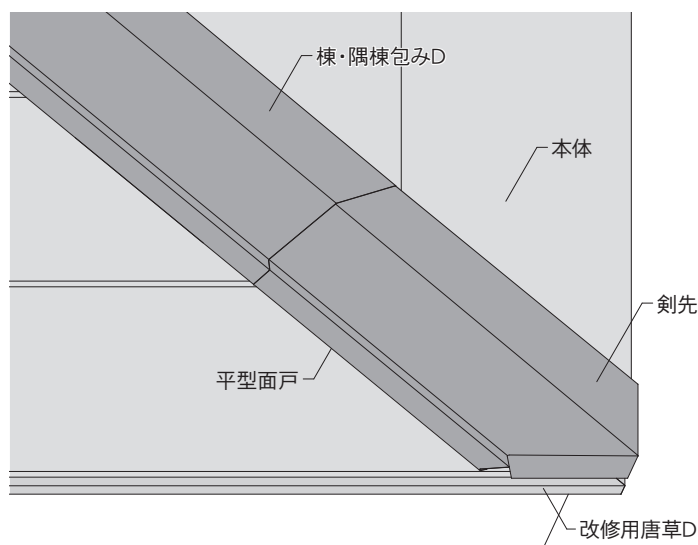
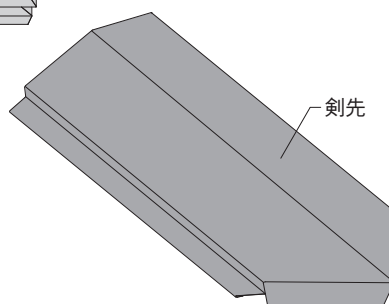
改修用唐草D

○本体を施工した後、受木（18×90）を軒先に合わせ施工してください。

事故防止のため
取り扱い時のお願い
アイジールーフを美しく保つために
アイジールーフ適用地域一覧
施工に必要な工具
本体・部材規格
改修物件の調査・確認
工法の確認
下葺き材・留め具の選定
直張工法
合板下地工法（カバ）
合板下地工法（葺き替え）
積算方法
改修物件チェックシート
免責事項

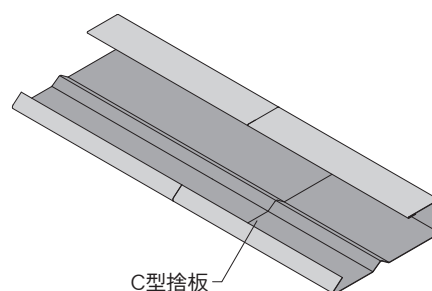
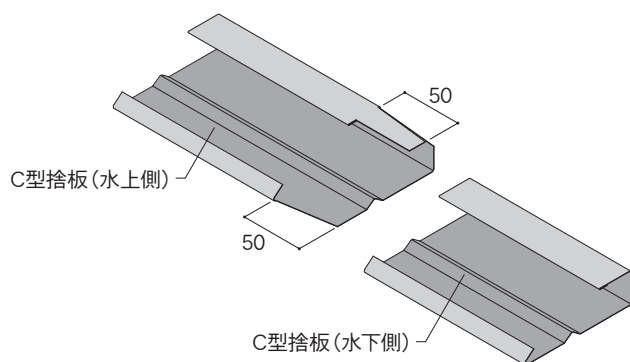


- 本体に、平型面戸を貼ってください。
- 剣先を施工してから、棟・隅棟包みDを上から重ねて施工してください。
- 剣先は、2.5寸～4.5寸勾配に対応しています。
- 図は、改修用唐草Dですが、他の改修用唐草も同様に施工できます。

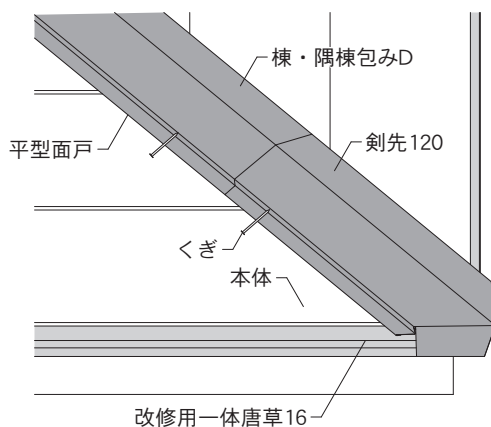
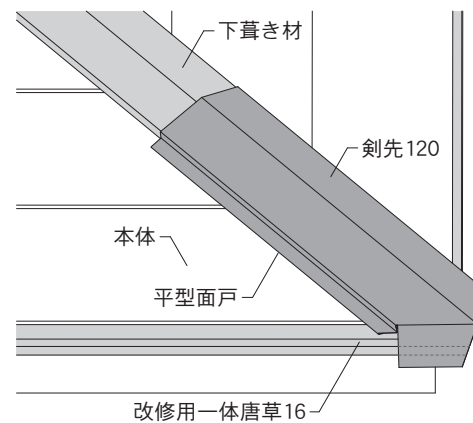
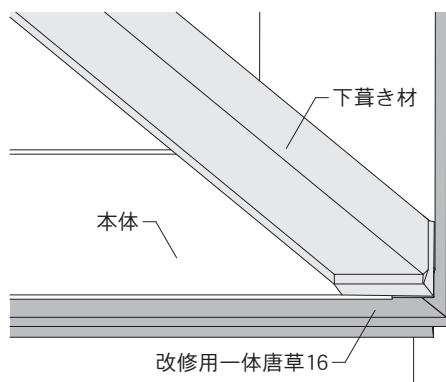
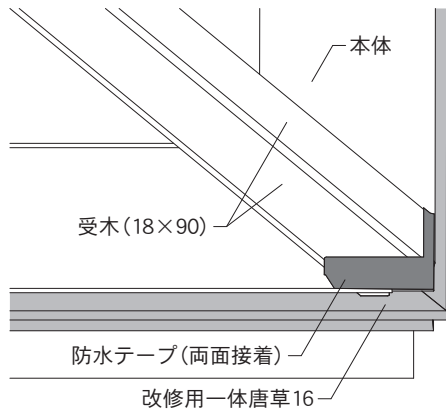


- 剣先と、棟・隅棟包みDの重ね代は150mm以上とり、捨てシーリングを施工し重ねてください。

C型捨板のつなぎ方



施工手順 2) 〈剣先120を併用する場合〉



- 本体の加工方法とC型捨板の施工方法は、P41～43と合わせて確認してください。図は、改修用一体唐草16ですが、他の改修用唐草も同様に施工できます。
- 本体を施工した後、受木（18×90）を軒先に合わせ施工してください。
- 改修用一体唐草16と受木に防水テープ（両面）を施工してください。

- 下葺き材を施工する際には、下葺き材と防水テープ（両面接着）を密着させてください。

- 本体に、平型面戸を貼ってください。
- 剣先120を施工してください。
- 剣先120の先端は、改修用一体唐草16のラインに合わせて切断またはつかみこんでください。

- 剣先120と、棟・隅棟包みDの重ね代は150mm以上とり、捨てシーリングを施工し重ねてください。

○隅棟の納まり③ 〈差し棟キャップD・差し棟下地N〉

納まり図

推奨ビス

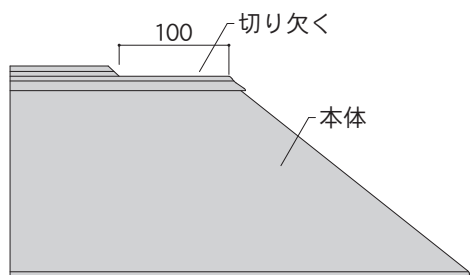
メーカー	品名	頭タイプ	サイズ
日本パワーファスニング(株)	MBシートテクス 4.5ミリ	シンワッシャー	4.5×13
(株)ヤマヒロ	トルネードポイント	トラス(シンワッシャー)	4×12
	ジャックポイント(ミニジャック)	トラス(シンワッシャー)	4×13
若井産業(株)	ダンパゼロ	シンワッシャー	4×14

施工手順

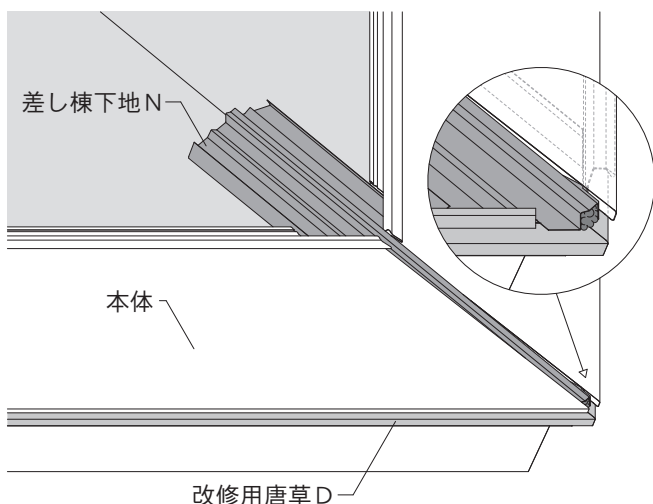
○左図のように、改修用唐草Dと差し棟下地Nを切り欠いてください。
差し棟下地Nの切り欠きは、差し棟キャップDからはみ出さないように現場で合わせて切り欠いてください。

○図は、改修用唐草Dですが、他の改修用唐草も同様に施工できます。

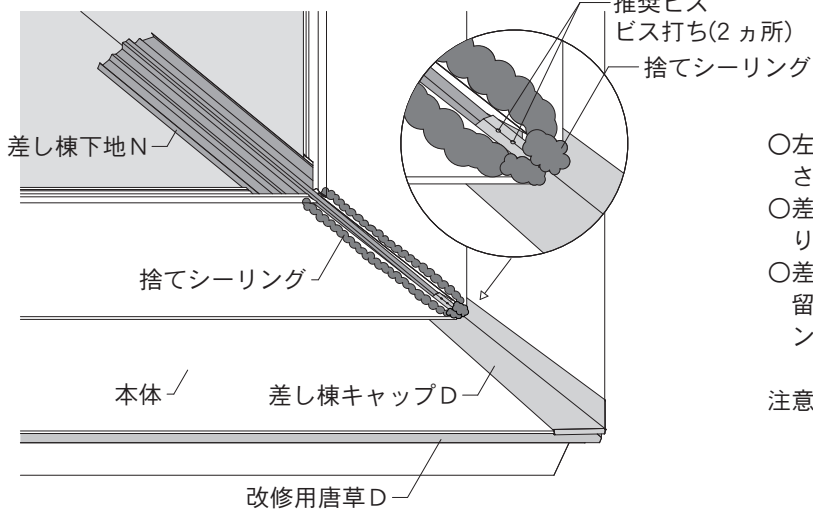
○吹き上げによる雨水の浸入を防止するため、Aの部分に捨てシーリングを施してください。



○勾配に合わせて本体を切断し、くぎ打ち部を100mm程度切り欠いてください。



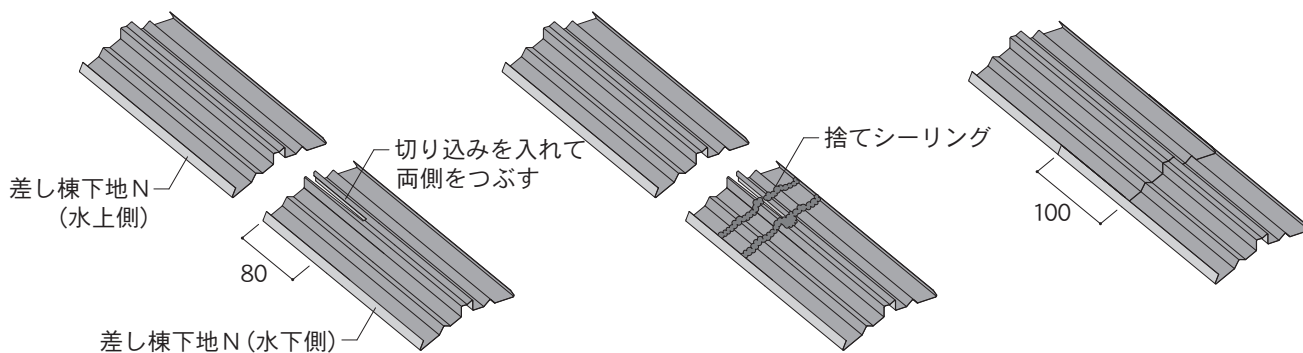
○本体の一段目の下ハゼは、改修用唐草Dに引っ掛けて取り付けてください。



○左図のように、捨てシーリングを施工してください。
○差し棟キャップDは、本体の通りを合わせて取り付けてください。
○差し棟キャップDを推奨ビスで差し棟下地Nに留め付けてください。ビス頭には、捨てシーリングを施工してください。

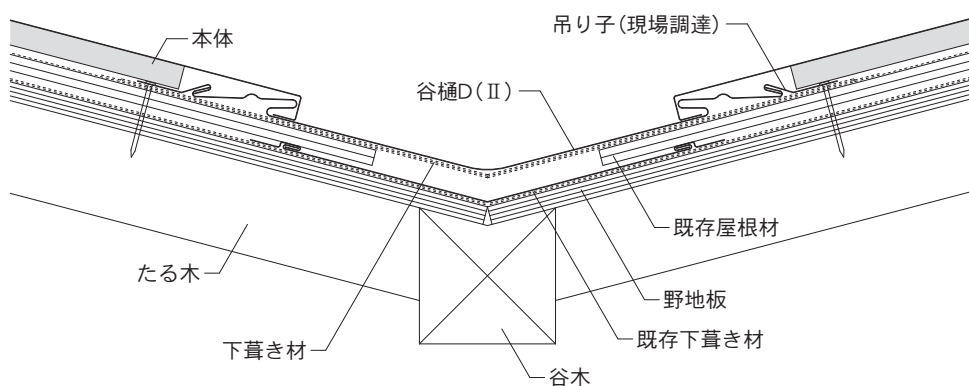
注意：ビスの締めすぎ、空回りには十分に注意してください。

差し棟下地Nのつなぎ方

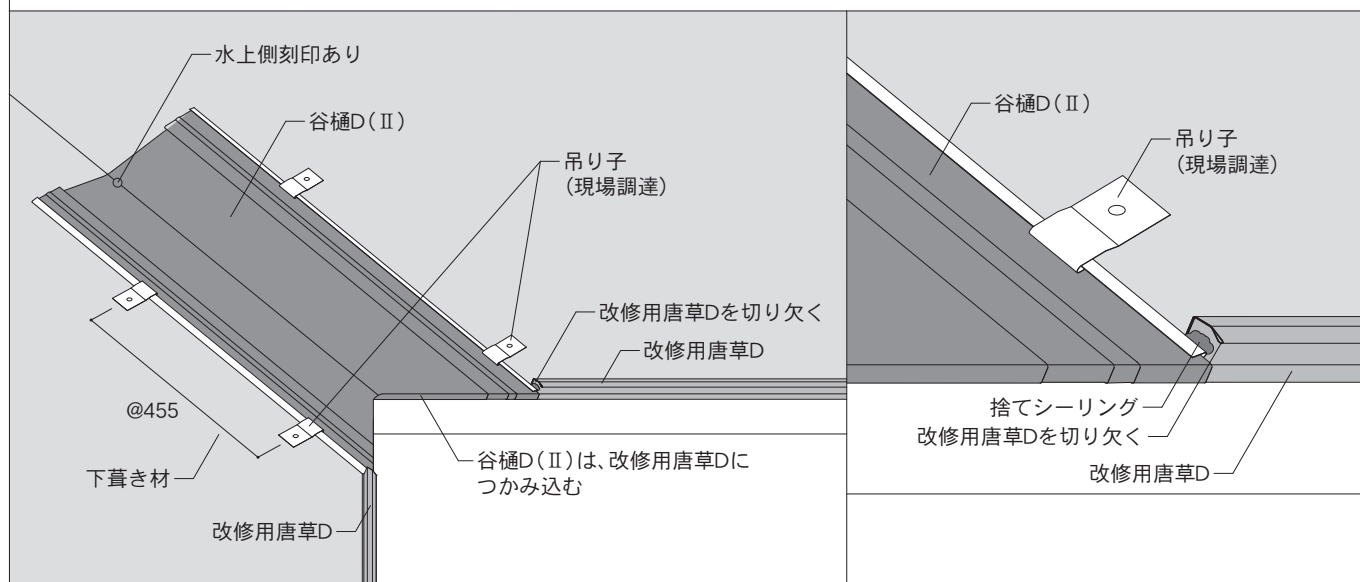


○谷の納まり① 〈谷樋D(Ⅱ)〉

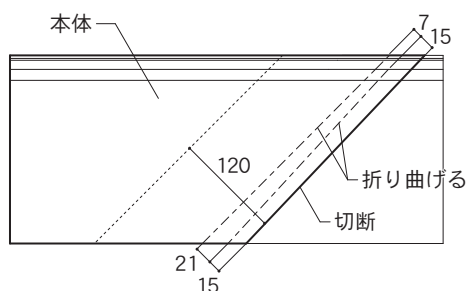
納まり図



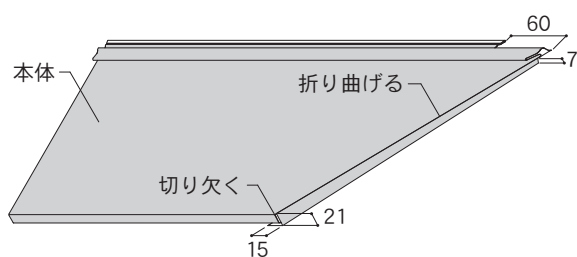
施工手順



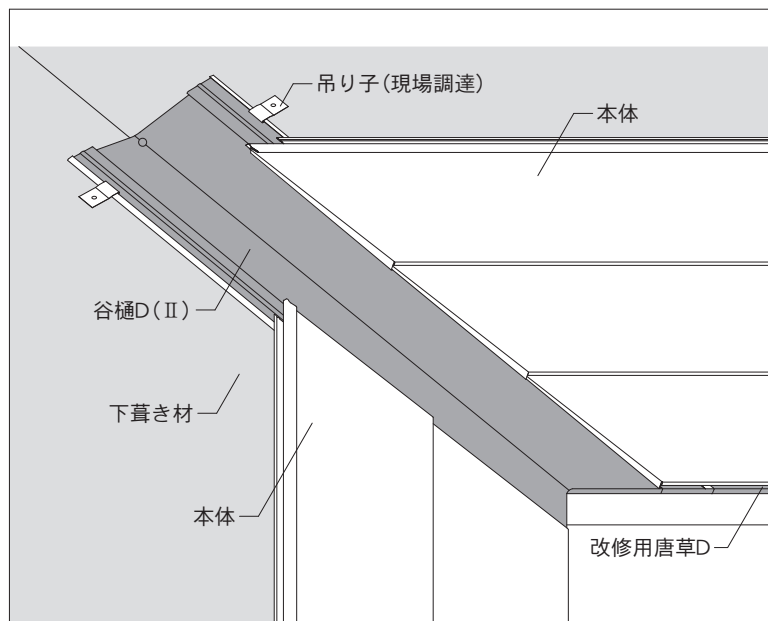
- 谷樋D(Ⅱ)の幅に合わせて、改修用唐草Dを加工し、谷樋D(Ⅱ)を改修用唐草Dにつかみ込んでください。
- 谷樋D(Ⅱ)は、吊り子を使用し、455mmの間隔で固定してください。
- 改修用唐草Dと谷樋D(Ⅱ)の取り合いには、本体を施工する前に捨てシーリングを施工してください。
- 図は、改修用唐草Dを使用した場合の納まりですが、他の改修用唐草を使用した場合も同様に施工できます。



○断熱材は、切断部から120mm程度取り除いてください。

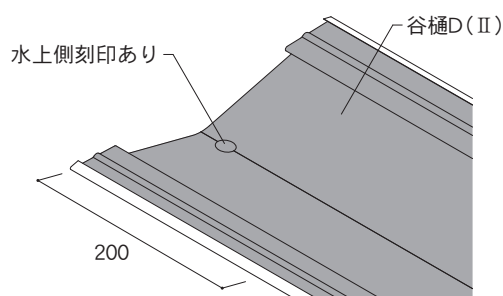


○くぎ打ち部を60mm程度切断してください。かん合部を切り欠き、折り曲げてください。

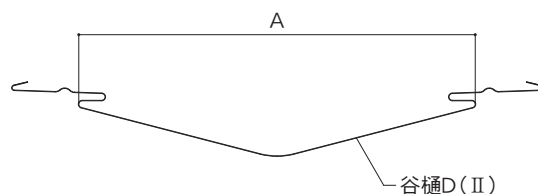


○本体は、谷樋D(II)のハゼに引っかけて施工してください。

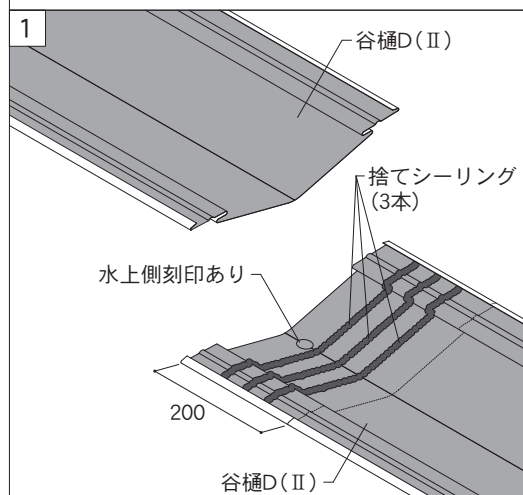
谷樋D(II)同士のつなぎ方



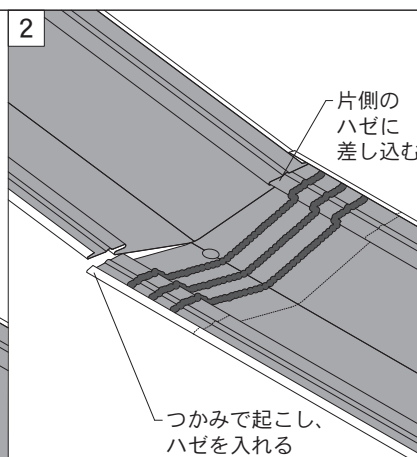
○谷樋D(II)は、刻印がある方を水上側にして施工してください。



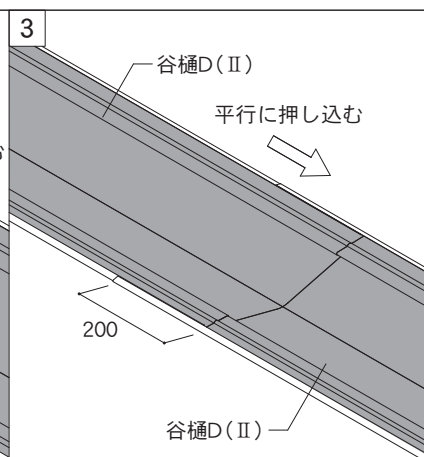
○谷樋D(II)同士をつなぐ際は、必ず刻印がある箇所を下にしてつないでください。刻印がある方は、Aの部分広がっており、つなぎやすくなっています。



○谷樋D(II)は、刻印がある方に、φ8mm程度(鉛筆の太さ程度)の捨てシーリングを3本施工してください。



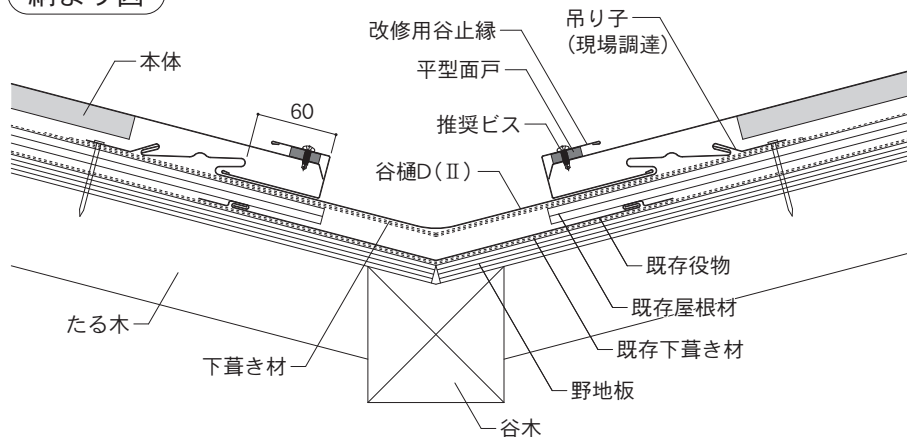
○片側のハゼを入れてから、もう片方のハゼを入れます。



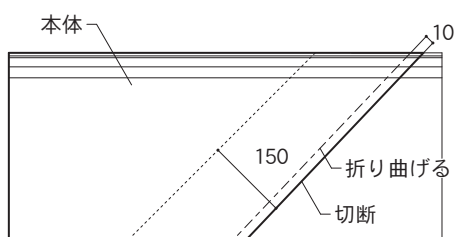
○はみ出した捨てシーリングは、除去してください。

○谷の納まり② 〈谷樋D(Ⅱ)・改修用谷止縁〉

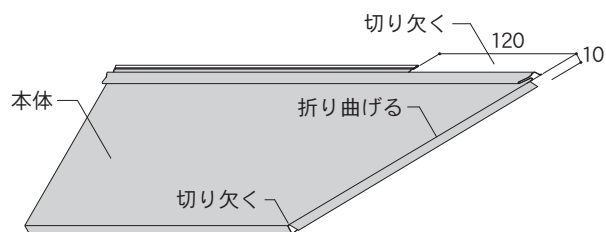
納まり図



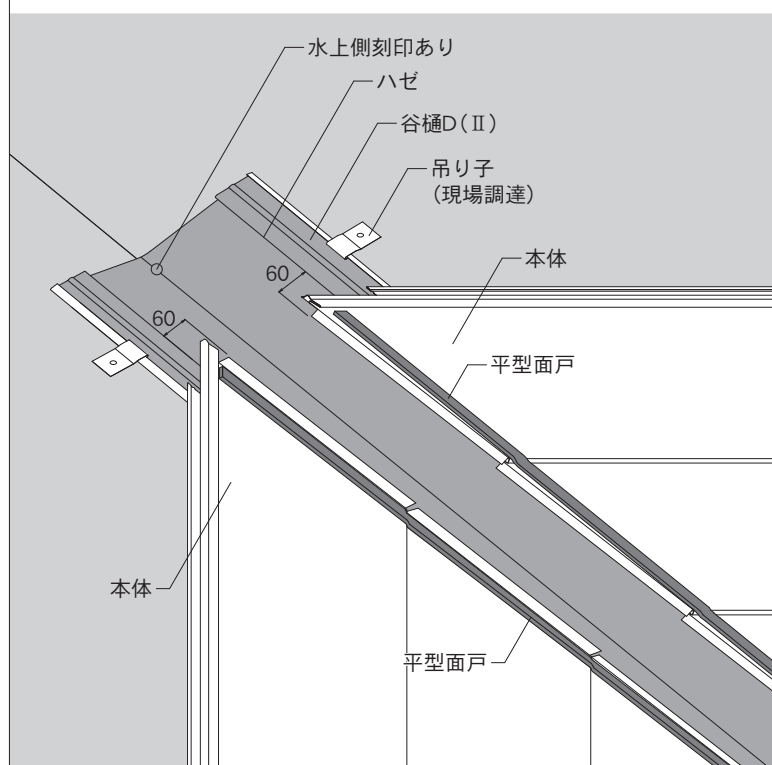
施工手順



○断熱材は、切断部から150mm程度取り除いてください。



○くぎ打ち部を120mm程度切断してください。本体のハゼとかん合部を、10mm程度切り欠き立ち下げてください。

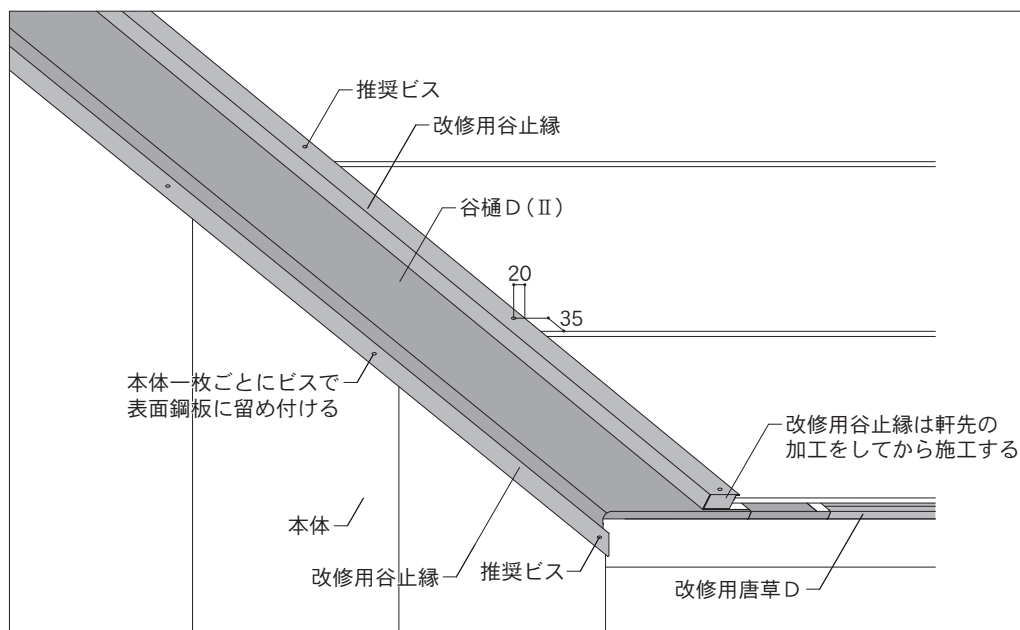


○谷樋D(Ⅱ)は、吊り子を使用し、455mmの間隔で固定してください。軒先部は、改修用唐草Dにつかみ込んでください。(P47参照)

○谷樋D(Ⅱ)同士のつなぎ方はP48を参照してください。

○谷樋D(Ⅱ)のハゼから60mmの位置に本体の端部を合わせて施工してください。

○本体の端部には、平型面戸を施工してください。

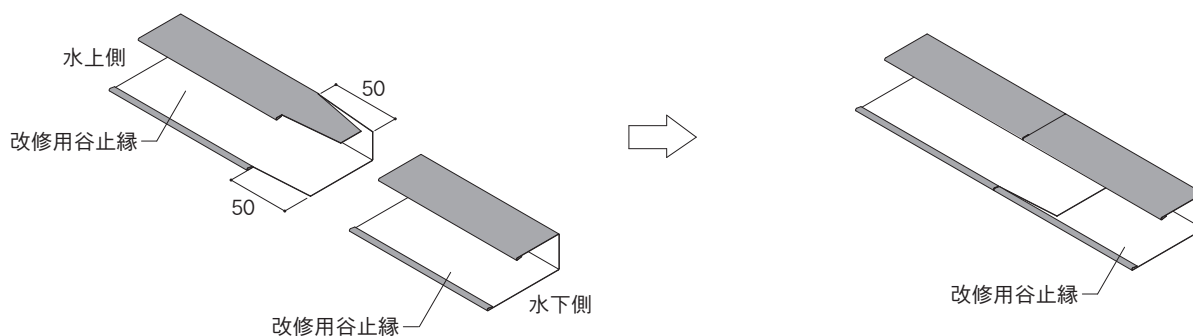


- 改修用谷止縁の軒先部は、あらかじめ本体に合わせて加工してください。
- 改修用谷止縁は、本体に差し込み、本体一枚ごとに、推奨ビスで表面鋼板に留め付けてください。留め付ける位置は、図を参照し位置を守って留め付けてください。
- 注意：ビスの締めすぎ、空回りには十分に注意してください。
- ビス頭には、シーリング材を施工してください。
- 図は、改修用唐草Dを使用した場合の納まりですが、他の改修用唐草を使用した場合も同様に施工できます。

推奨ビス

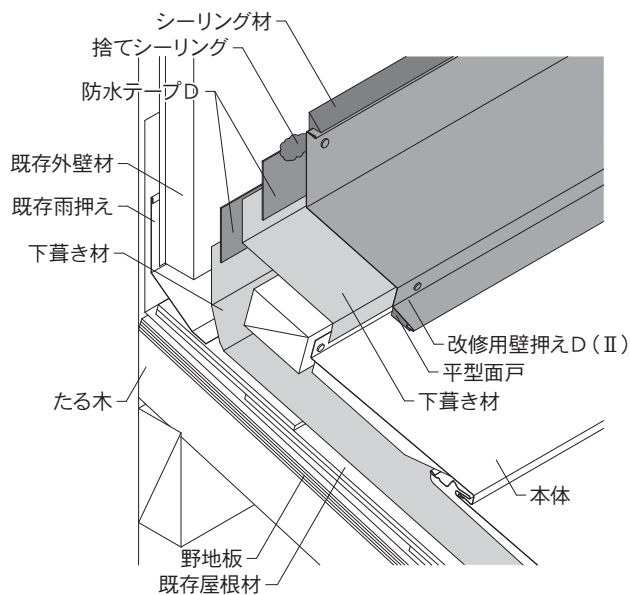
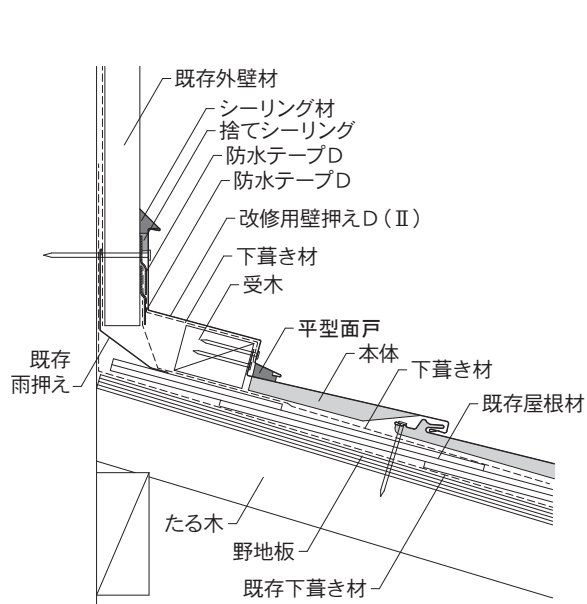
メーカー	品名	頭タイプ	サイズ
日本パワーファスニング㈱	MBシートテクス 4.5ミリ	シンワッシャー	4.5×13
㈱ヤマヒロ	トルネードポイント	トラス (シンワッシャー)	4×12
	ジャックポイント (ミニジャック)	トラス (シンワッシャー)	4×13
若井産業㈱	ダンバゼロ	シンワッシャー	4×14

改修用谷止縁のつなぎ方

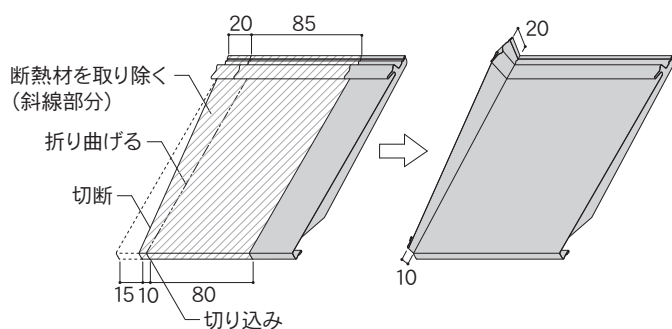
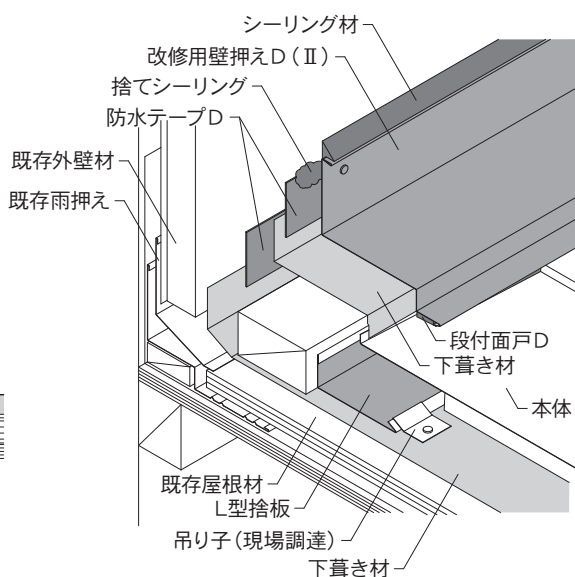
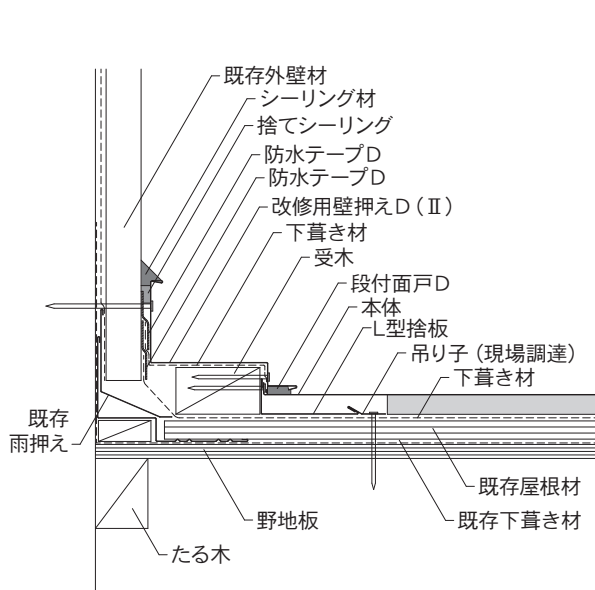


○壁との納まり① 〈改修用壁押えD(Ⅱ)・L型捨板〉

〈流れと垂直な壁との納まり〉

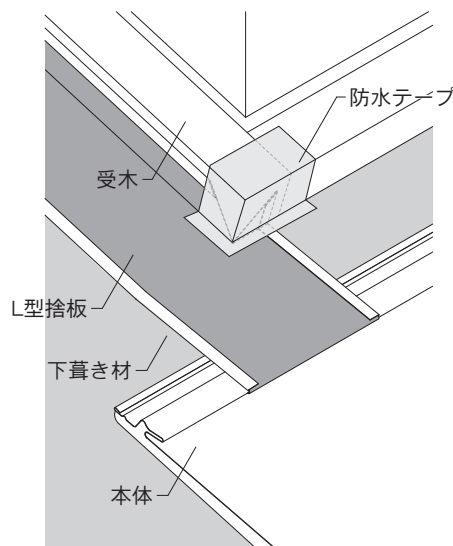
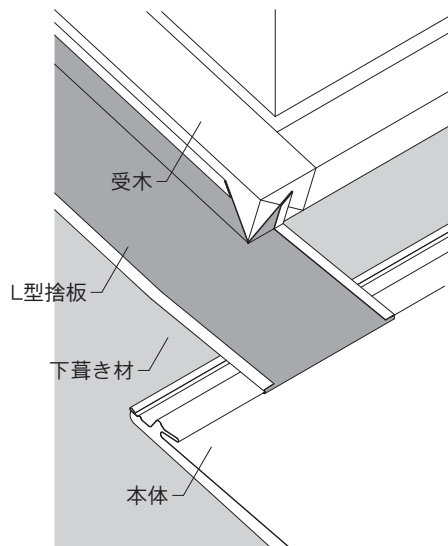


〈流れと平行な壁との納まり〉

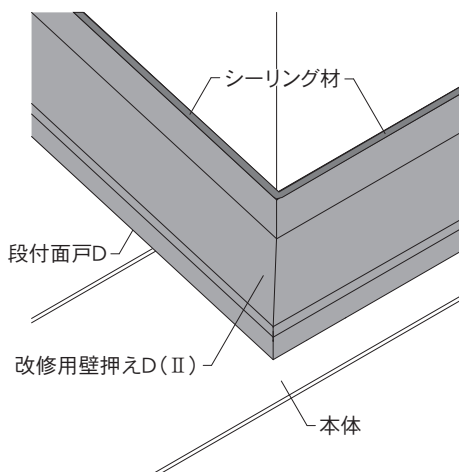
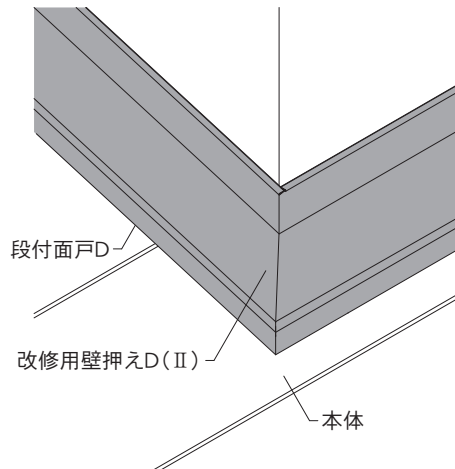
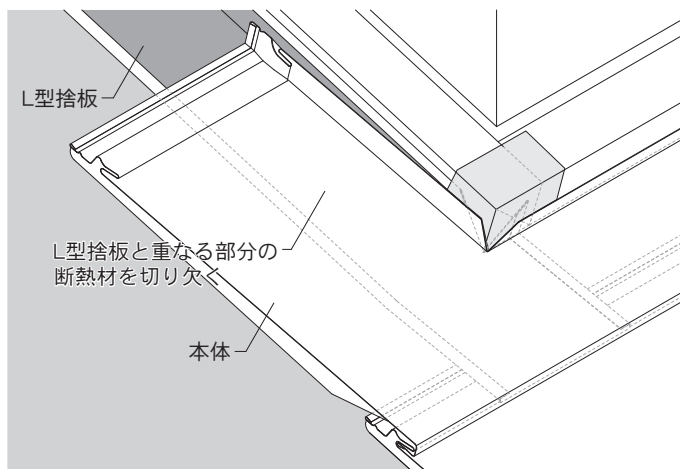


- 本体の端部は、断熱材を取り除き立ち上げてください。
- 切り込みを入れたかん合部は、本体を施工後にシーリング材で防水処理をしてください。
- 平型面戸、段付面戸Dは、改修用壁押えD(Ⅱ)と本体の間に入れてください。
- 受木の高さは36～45mmとし、幅は60～80mmを選定してください。幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。

〈コーナー部分の壁との納まり〉



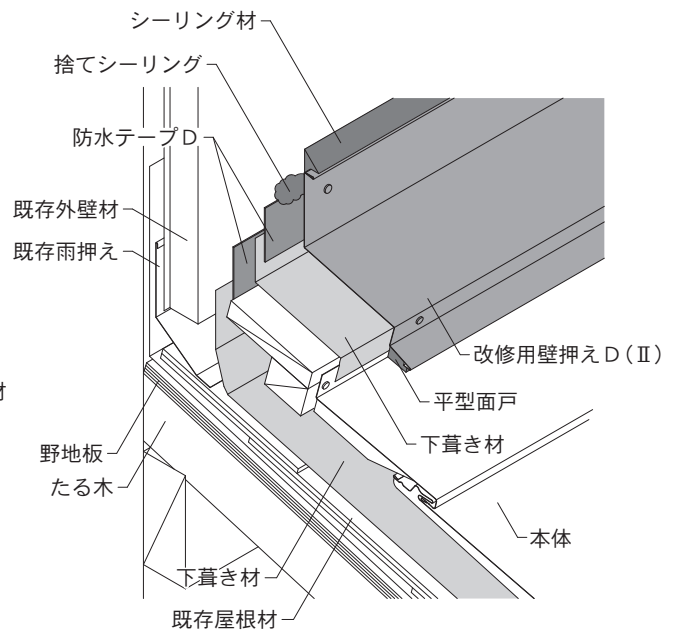
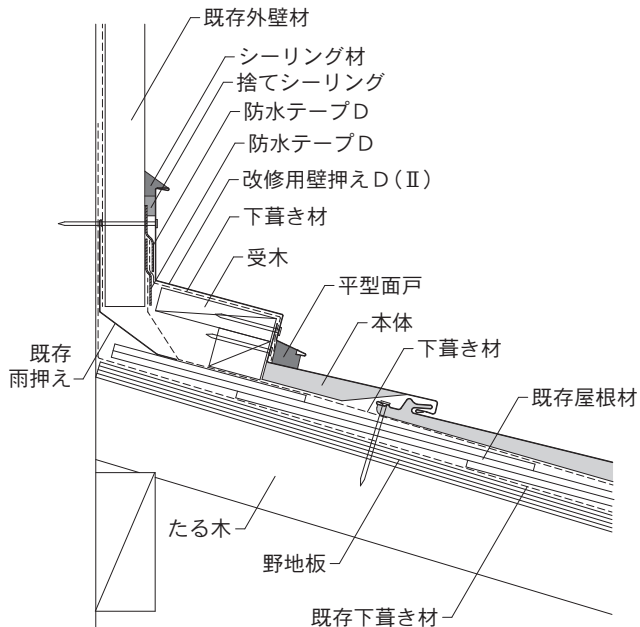
- L型捨板を下の段の本体に引っ掛けるように取り付けてください。
- コーナー部には、防水テープを施工してください。



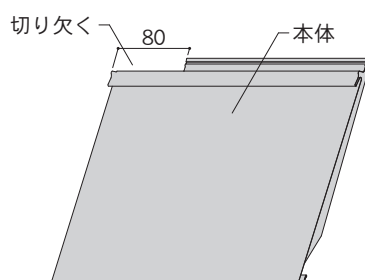
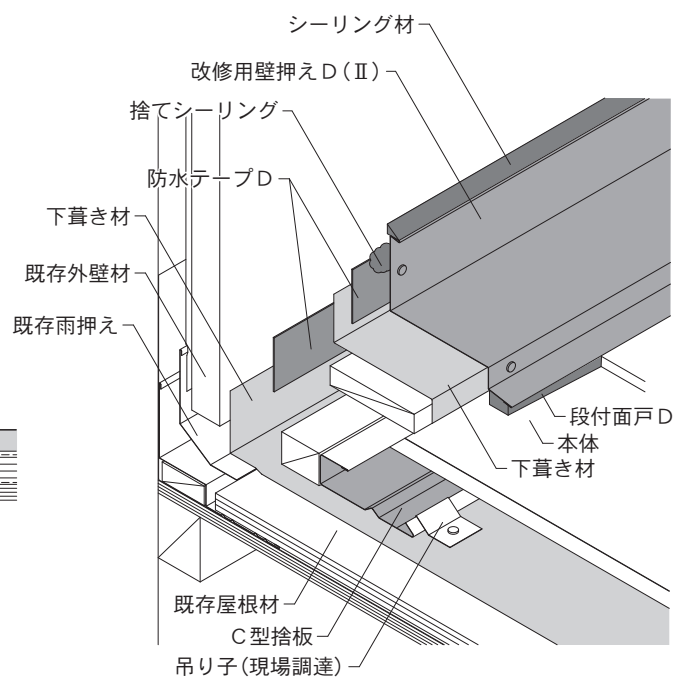
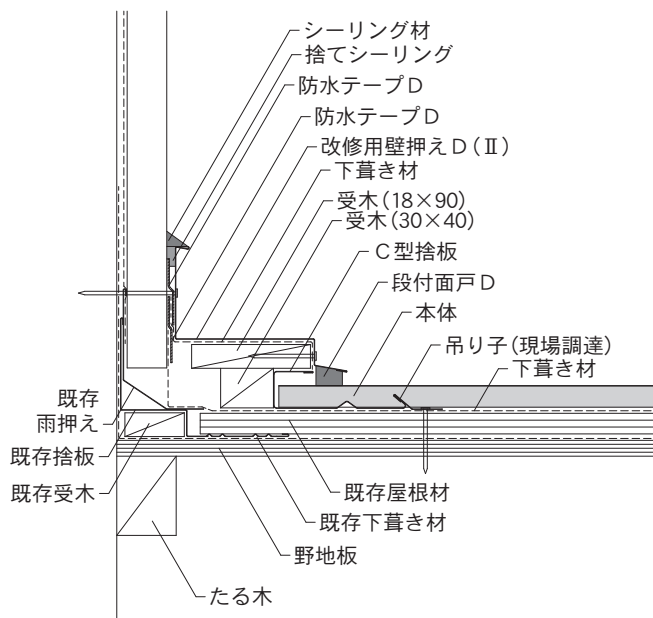
- コーナー部の位置に合わせて本体を切り欠き、L型捨板の幅に合わせて断熱材を取り除いてください。
- 本体の端部を立ち上げて施工してください。
- 既存壁と改修用壁押えD(Ⅱ)の間にはシーリング材を施工してください。

○壁との納まり② 〈改修用壁押えD(Ⅱ)・C型捨板〉

〈流れと垂直な壁との納まり〉

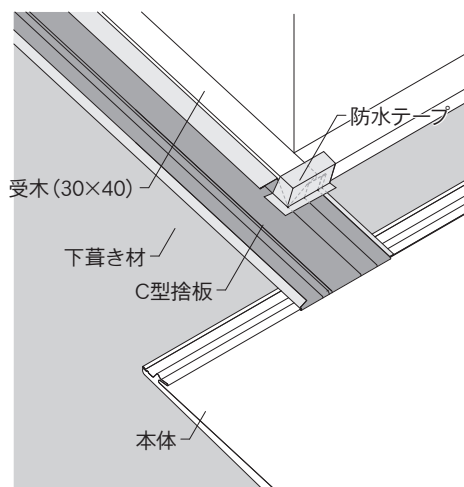
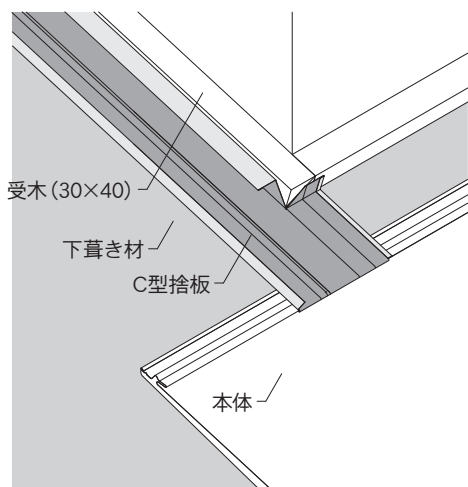


〈流れと平行な壁との納まり〉

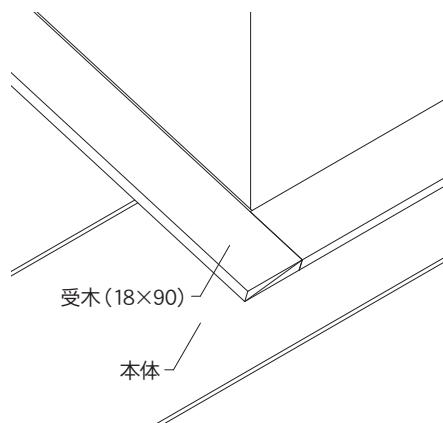
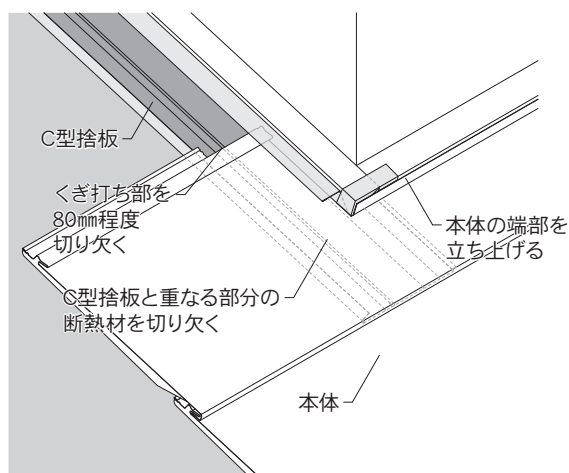


- 既存雨押えの不要な部分を切断し、既存雨押えの受木を取り外してください。
- C型捨板は吊り子を使用し、留め付けてください。
- 流れと垂直な壁との取り合いがある場合は、受木のサイズを合わせてください。
- 本体の端部のくぎ打ち部は、80mm程度切断してください。
- C型捨板は、壁押えD(Ⅱ)との組み合わせでも施工いただけます。

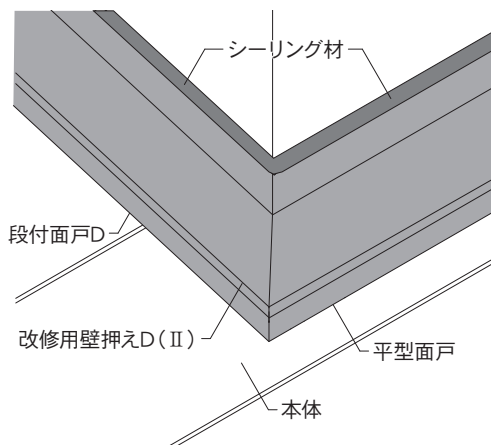
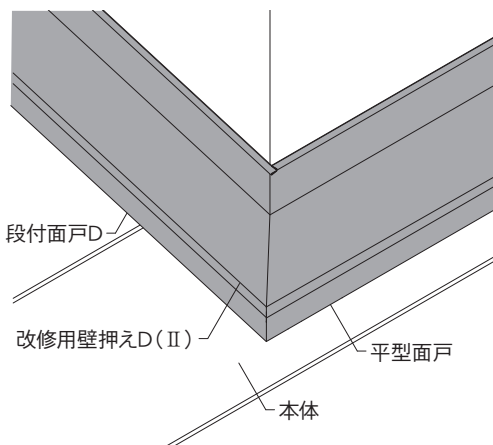
〈コーナー部分の壁との納まり〉



- C型捨板を下の段の本体に引っ掛けるように取り付けてください。
- コーナー部には、防水テープを施工してください。



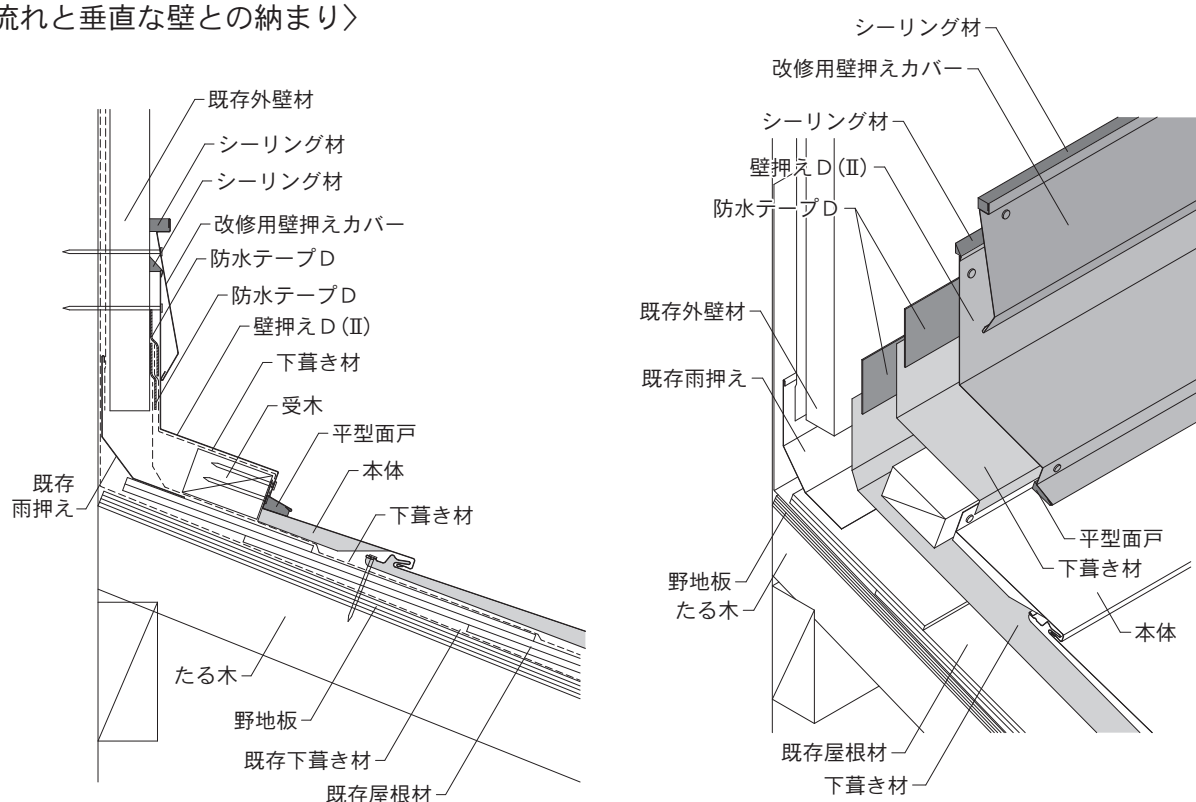
- コーナー部の位置に合わせて本体を切り欠き、C型捨板の幅に合わせて断熱材を取り除いてください。



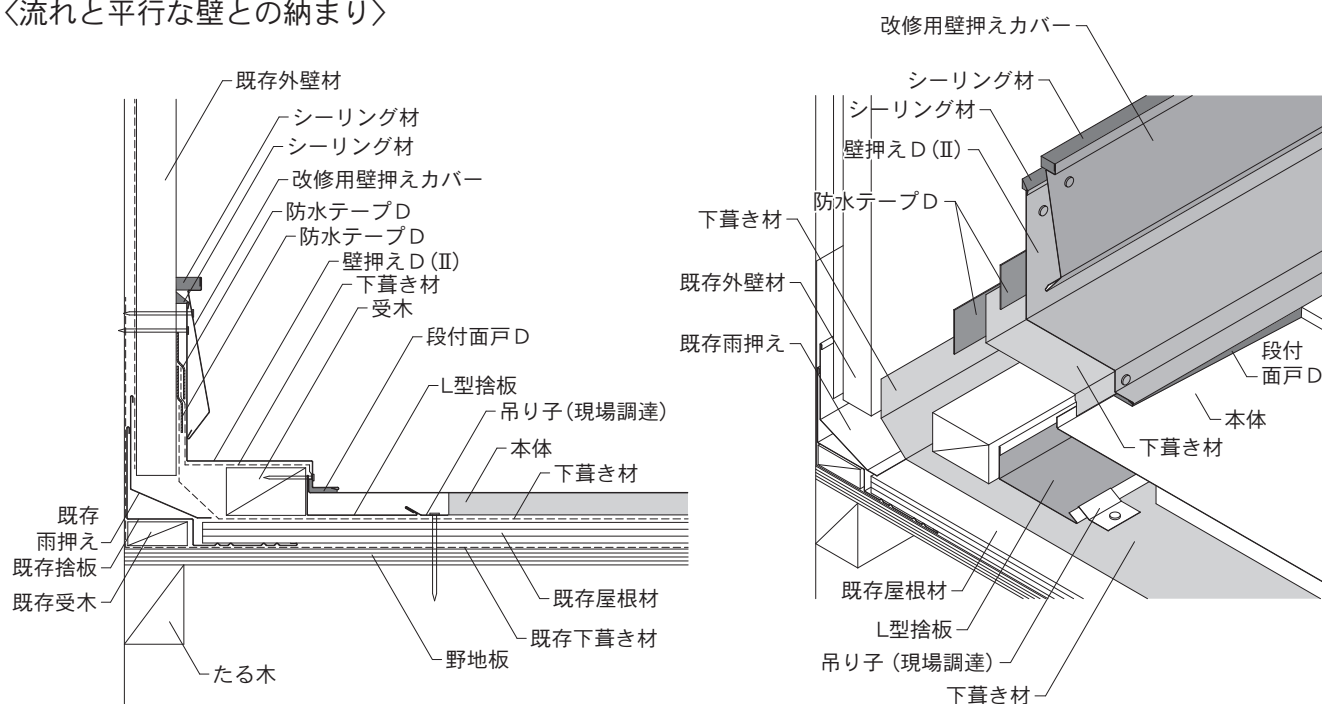
- 既存外壁材と改修用壁押えD(Ⅱ)の間にはシーリング材を施工してください。

○壁との納まり③ 〈壁押えD(Ⅱ)・改修用壁押えカバー・L型捨板〉

〈流れと垂直な壁との納まり〉



〈流れと平行な壁との納まり〉



○既存雨押えの不要な部分を切断し、既存雨押えの受木を取り外してください。

○受木は、高さ36～45mm、幅60～80mmを選定してください。幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。

○本体を受木に合わせて立ち上げ、不要な部分は切り取ってください。

○壁押えD(Ⅱ)を既存外壁に留め付け、シーリング材を施工した後、改修用壁押えカバーを施工してください。

○平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。

○換気棟の納まりについて

適用勾配

換気棟／換気棟Lは、屋根勾配2.5寸～10寸に施工できます。
片流れ用換気棟は、屋根勾配2.5寸～6寸に施工できます。

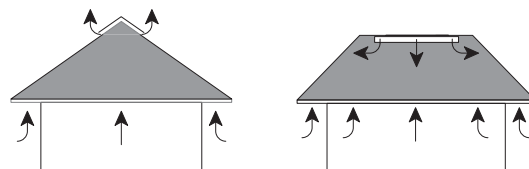
有効開口面積

	有効開口面積 (m ² /セット)	適応天井面積 (m ² /セット)
換気棟	0.017	27.2
換気棟L	0.028	44.8
片流れ用換気棟	0.016	25.6

各換気棟の
設置基準について

住宅金融支援機構 木造住宅工事仕様書に記載の基準に基づく小屋裏換気を行ってください。
軒裏吸気、棟排気に該当します。施工本数は、施工する部材の有効換気面積および適応天井面積
に応じて必要長さを算出してください。

軒裏吸気孔：1／900以上
棟排気孔：1／1,600以上



商品図

商品名	商品図	換気棟／換気棟L 併用商品	
		商品名	商品図
換気棟		換気棟用エンドキャップ (別売)	
換気棟L			

・換気棟と換気棟Lの1セットには、換気棟本体の他に下地（2本）、捨水切（2本）が同梱されています。換気棟または換気棟Lと棟・隅棟包みDとつなぐ場合には、換気棟用エンドキャップを併用してください。

商品名	商品図	片流れ用換気棟 併用商品	
		商品名	商品図
片流れ用 換気棟		片流れ用棟包み (別売)	
		片流れ換気用水切 (別売)	

・片流れ用換気棟1セットには、片流れ用換気棟本体のほかに、片流れ換気用水切（1本）、捨水切（1本）、固定ビス（6本）が同梱されています。
・片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつなぐ場合、片流れ換気棟用水切を施工してください。

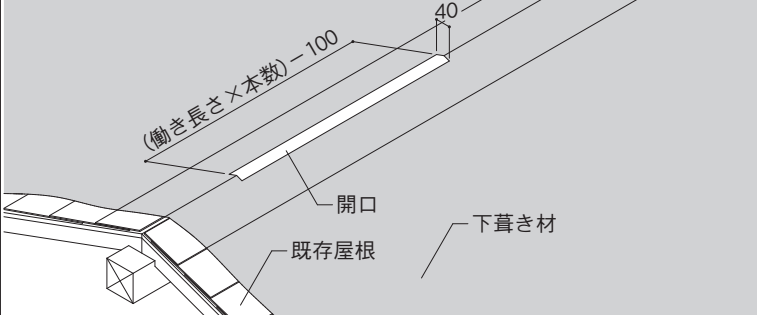
○換気棟の納まり① 〈換気棟／換気棟L〉

納まり図

○換気棟と換気棟Lの1セットには、換気棟本体の他に下地（2本）、捨て水切（2本）が同梱されています。

〔施工手順〕 〈図は換気棟です。換気棟Lも同様に施工いただけます〉

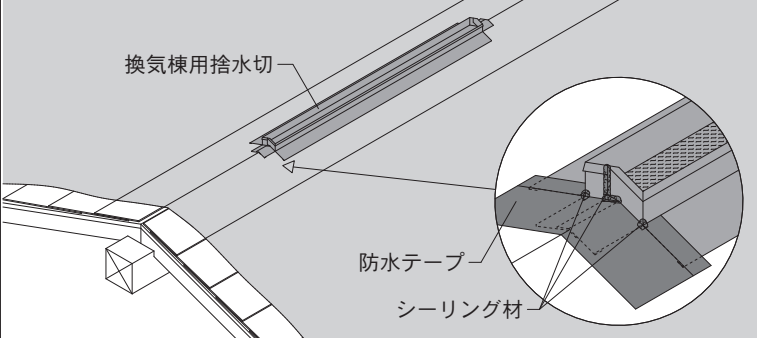
1. 開口をあける



○棟部に左図の寸法で開口を設けてください。

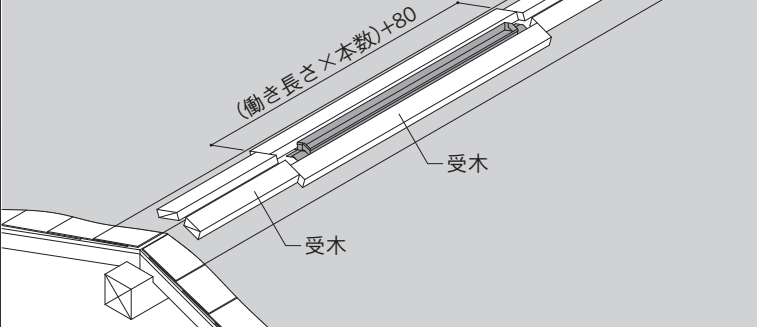
	換気棟	換気棟L
働き長さ (mm)	1,050	1,750
商品長さ (mm)	1,130	1,830
対応勾配 (寸)	2.5～10	

2. 換気棟用捨て水切の施工



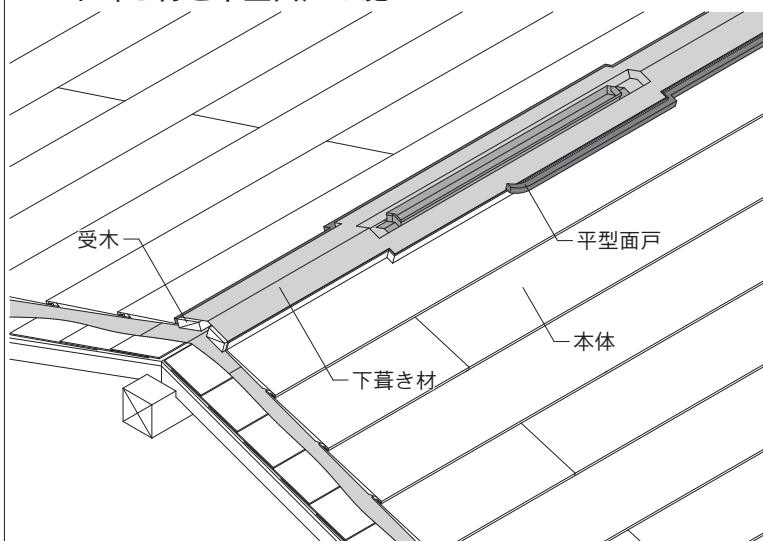
- 開口に合わせて換気棟用捨て水切を取り付けてください。
- 換気棟用捨て水切の加工部はシーリング材で防水処理をしてください。
- 換気棟用捨て水切と下葺き材とのすき間は防水テープDで防水処理をしてください。

3. 受木の取り付け



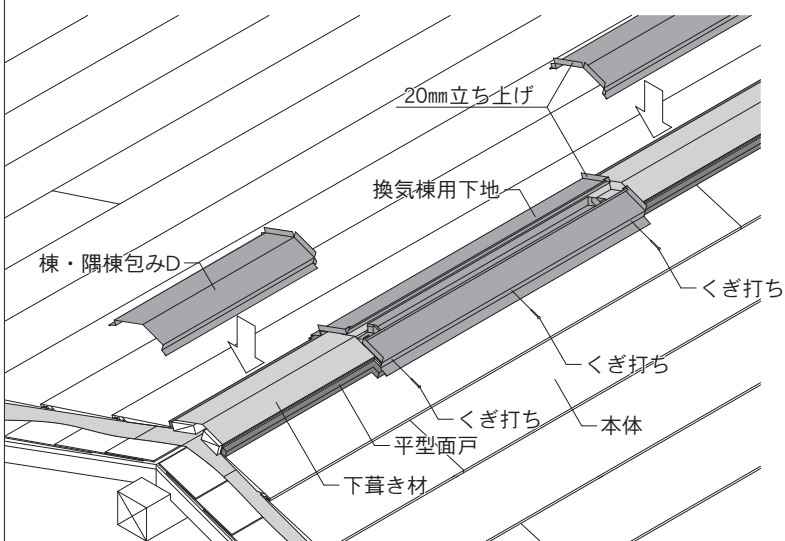
- 棟・隅棟包みDと換気棟の取り付け位置に合わせて、受木を取り付けてください。
- 受木は、高さ36～45mm、幅60～80mmを選定してください。幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
- 換気棟を取り付ける受木の長さは左図の寸法で取り付けてください。

4. 下葺き材と平型面戸の施工



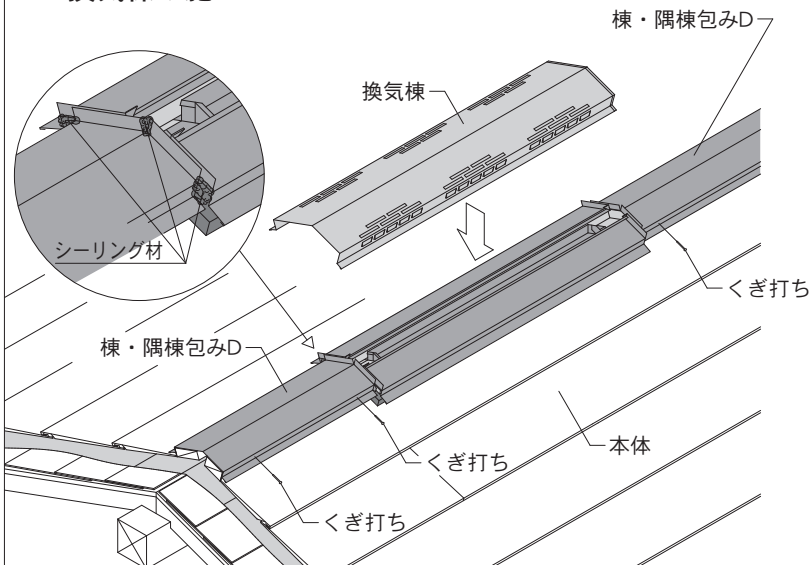
- 受木の上に下葺き材を張ってください。
- 受木まで本体を張り上げ、平型面戸を貼り付けてください。

5. 換気棟用下地と棟・隅棟包みDの施工



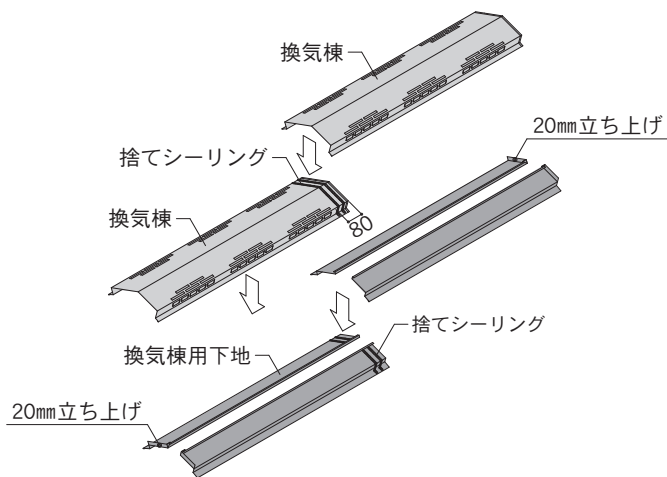
- 換気棟用下地と棟・隅棟包みDを20mm立ち上げ加工し取り付け、くぎ打ちしてください。
- 図は、換気棟で掲載しています。
- 平型面戸は半分以上圧縮して施工してください。

6. 換気棟の施工



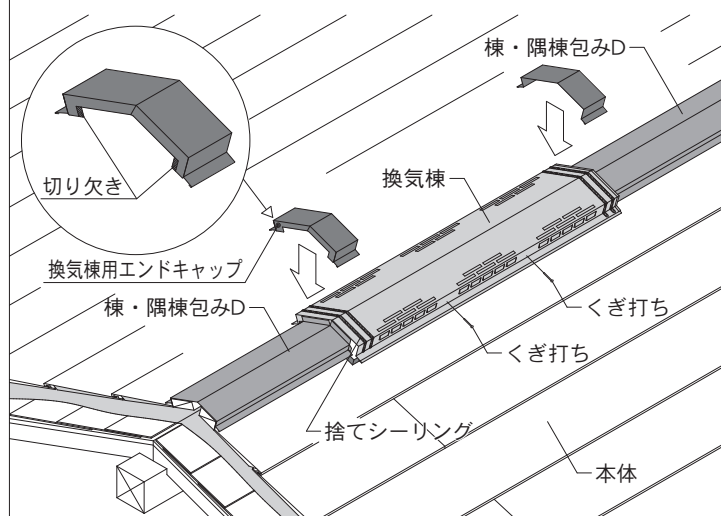
- 換気棟用下地に換気棟をかぶせて取り付けてください。

7. 連続施工時の加工方法

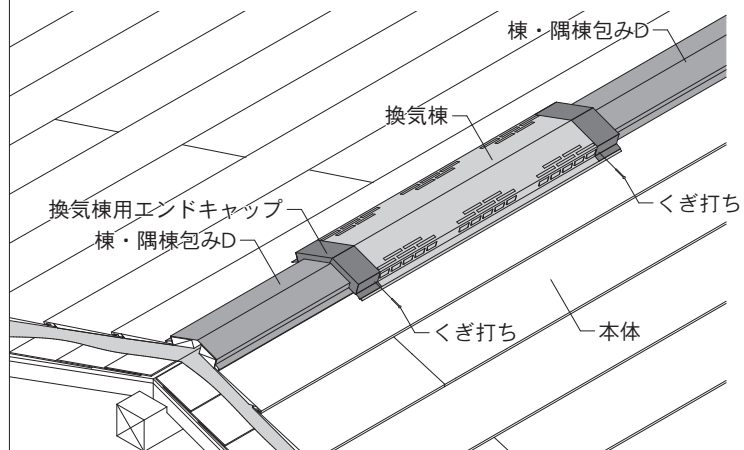


○換気棟を2本以上つなぐ場合は、左図のように捨てシーリングを施工し重ねてください。

8. 換気棟用エンドキャップの施工

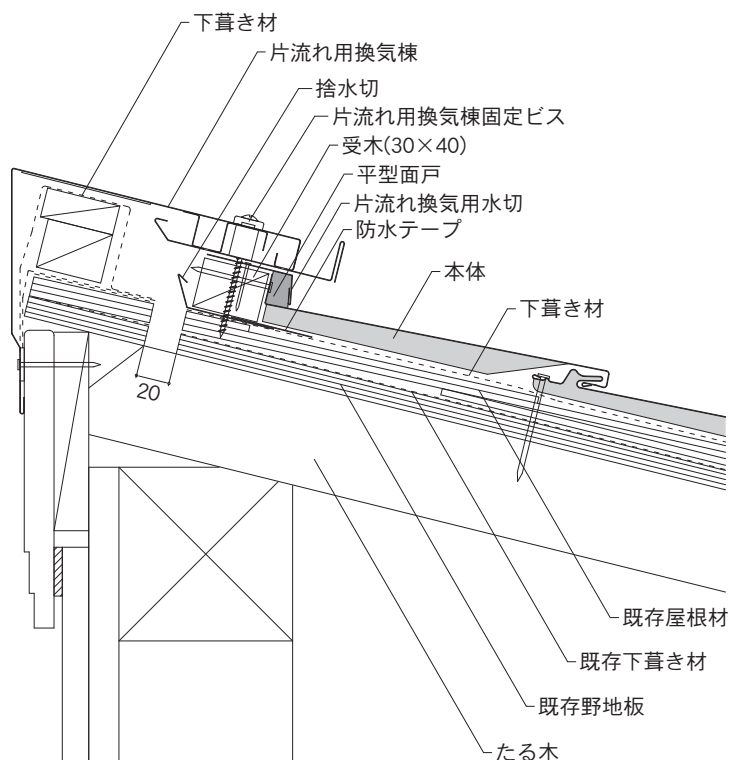


○換気棟用エンドキャップの取り付けの際は、左図の部分を勾配に合わせて切り欠いてください。



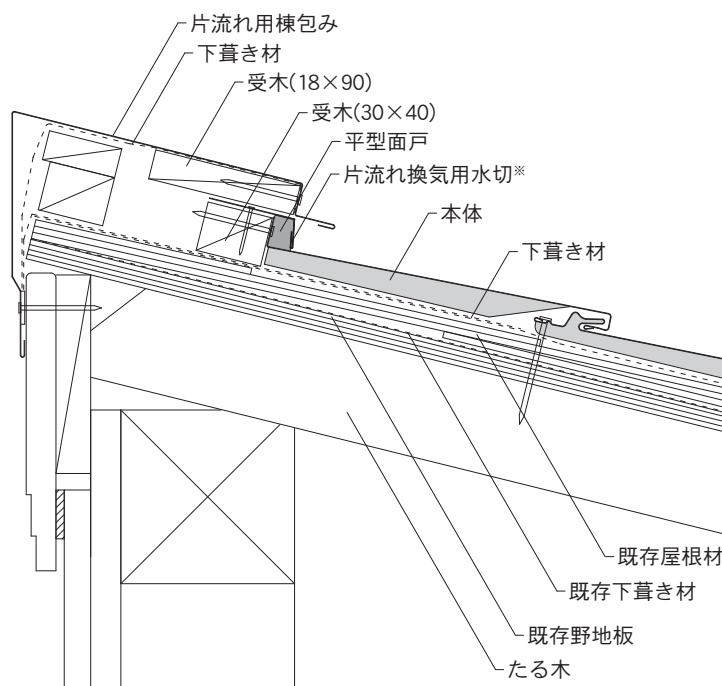
○換気棟の納まり② 〈片流れ用換気棟・片流れ用棟包み・片流れ換気用水切〉

納まり図



○片流れ用換気棟1セットには、片流れ用換気棟本体のほかに、片流れ換気用水切（1本）、捨て水切（1本）、固定ビス（6本）が同梱されています。

〈片流れ用棟包み〉片流れ換気棟とつなぐ場合

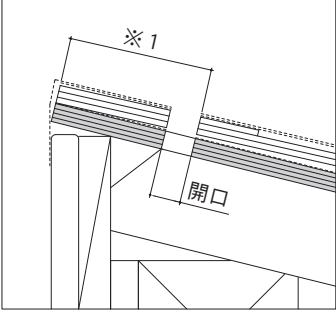


○片流れ用棟包みは、片流れ用換気棟とつなぐため、片流れ換気用水切と併用して施工してください。
※片流れ用棟包みには、片流れ換気用水切が同梱されておりませんので注意してください。

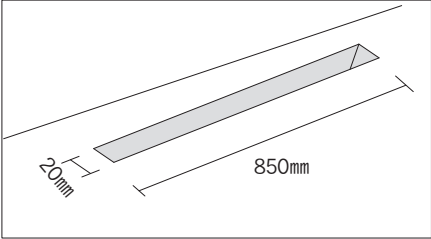
施工手順

1. 開口をあける

開口位置を決めます。（下図参照）

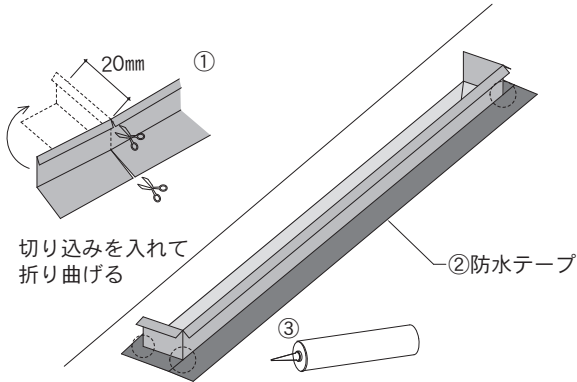


寸法	99mm	寸法	86mm
2.5 寸	99mm	4.5 寸	86mm
3 寸	95mm	5 寸	82mm
3.5 寸	93mm	5.5 寸	79mm
4 寸	89mm	6 寸	76mm



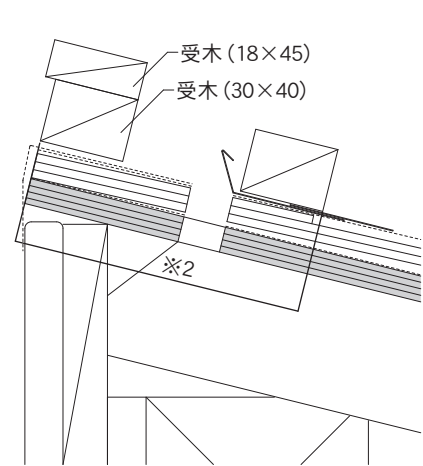
○屋根表面だけでなく小屋裏の構造も考慮に入れて取付位置を決めてください。
○決めた位置に上記の寸法で開口を開けます。開口後、下葺き材を張ります。連続で施工する場合は、P62を参照してください。

2. 捨水切の施工



①捨水切は開口より両端20mm余幅をとっておきます。
②折り曲げ加工をして開口の三方を囲みくぎで留め付け、捨水切加工部とルーフィングとの境界部に防水テープを貼ってください。（図参照）
③ピンホールなどにはシーリング材を施工してください。

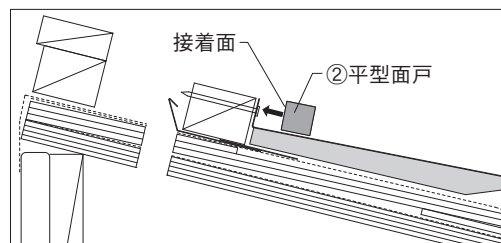
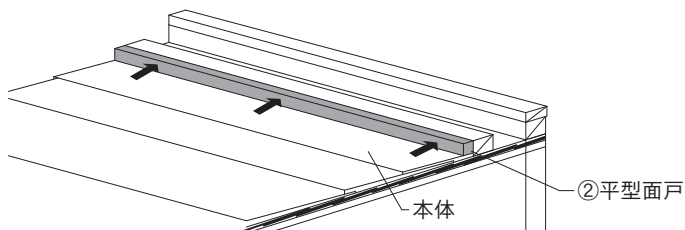
3. 受木の取り付け



受木を施工します。（図参照）
※2の寸法は寸法対応表を確認してください。

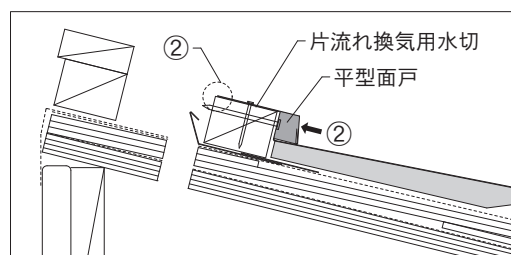
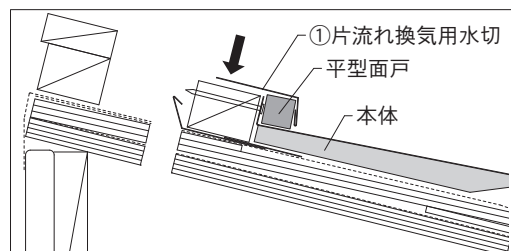
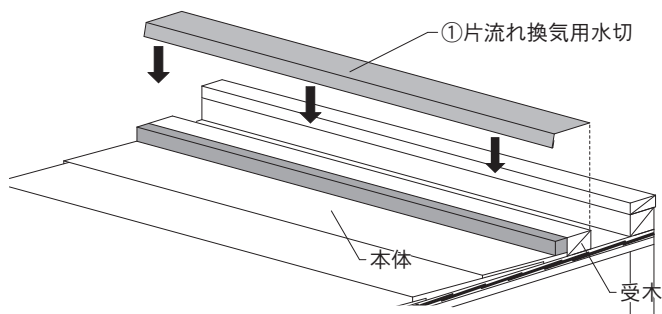
寸法	143mm	寸法	130mm
2.5 寸	143mm	4.5 寸	130mm
3 寸	139mm	5 寸	126mm
3.5 寸	137mm	5.5 寸	123mm
4 寸	133mm	6 寸	120mm

4. 本体の施工と先端加工



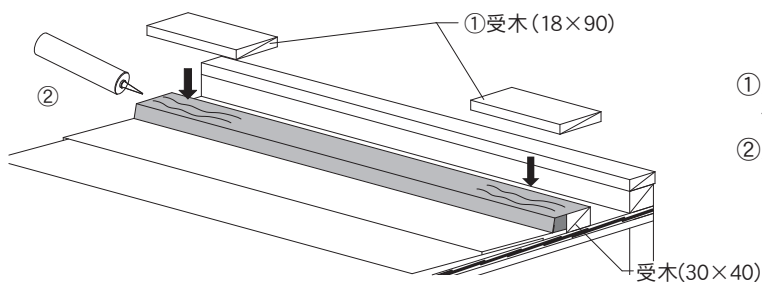
- ① 3 で施工した受木まで本体を葺き、先端部分は立ち上げておきます。
- ② 立ち上げた本体の側面に平型面戸を貼り付けます。

5. 片流れ換気用水切の施工



- ① 片流れ換気用水切を平型面戸と受木を覆うように施工します。
片流れ用換気棟と片流れ用棟包みをつなぐ場合は、片流れ換気用水切を必ず併用して、施工してください
- ② 平型面戸を圧縮し、受木の端部に片流れ換気用水切を合わせて留め付けてください。

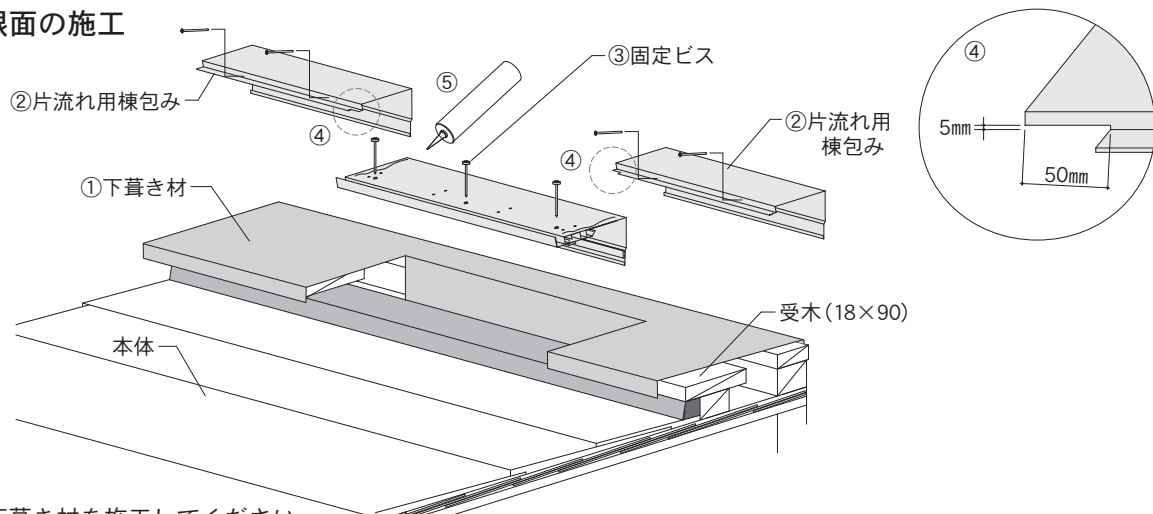
6. 受木（18×90）の施工



- ① 片流れ用棟包みを取り付ける場所に受木（18×90）を置きます。
- ② 受木（18×90）を置く場所にシーリング材で防水処理をしてください。

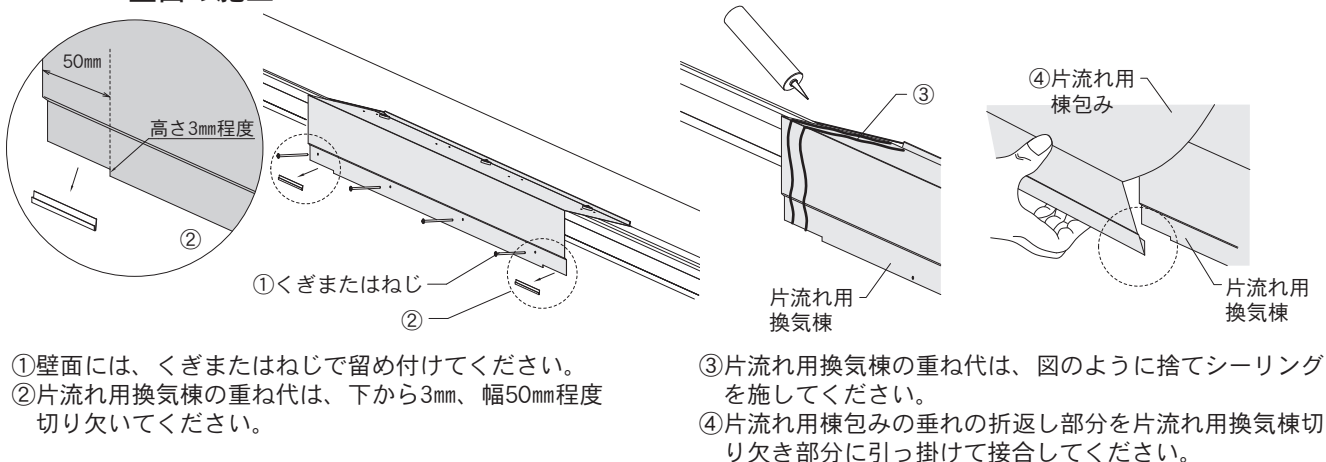
7. 片流れ用換気棟、片流れ用棟包みの取り付け

7-1. 屋根面の施工



- ①受木の上に下葺き材を施工してください。
- ②上図を参照して片流れ用換気棟と片流れ用棟包みを施工します。
- ③片流れ用換気棟は固定ビスで上部の下穴に留め付けてください。
- ④片流れ用換気棟の右側に片流れ用棟包みを施工する場合は、右上の図を参考に重なる部分をあらかじめカットしてください。
- ⑤接合重なり部分にはシーリング材で防水処理をしてください。

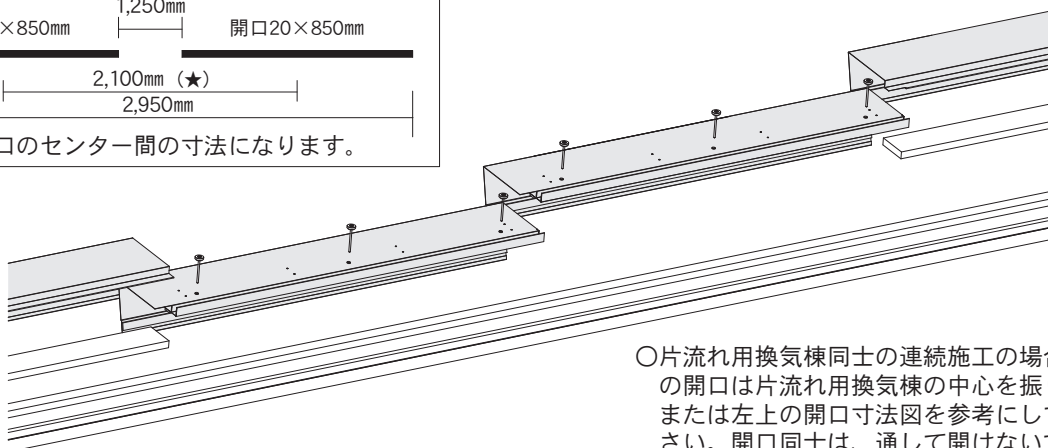
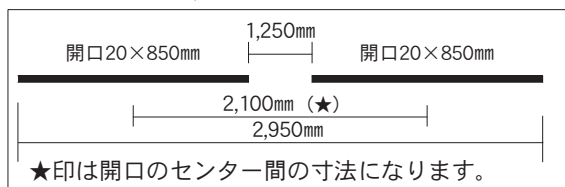
7-1. 壁面の施工



- ①壁面には、くぎまたはねじで留め付けてください。
- ②片流れ用換気棟の重ね代は、下から3mm、幅50mm程度切り欠いてください。
- ③片流れ用換気棟の重ね代は、図のように捨てシーリングを施してください。
- ④片流れ用棟包みの垂れの折返し部分を片流れ用換気棟切り欠き部分に引っ掛けて接合してください。

8. 連続施工時の開口間寸法

連続施工時のピッチ



- 片流れ用換気棟同士の連続施工の場合は、野地板の開口は片流れ用換気棟の中心を振り分けるか、または左上の開口寸法図を参考にして開けてください。開口同士は、通して開けないでください。

○雪止めの納まり 〈雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプ〉

○雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプの取り付け基準

① 適用範囲

雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプは、一般地域（最深積雪量の平均値がおおむね30cm以下の地域）で使用してください。
すがもれのおそれがあります。

② 1 段あたりが負担できる屋根の流れ長さ：L (m)※1

・積雪単位荷重：2 [kg/m²・cm]の場合

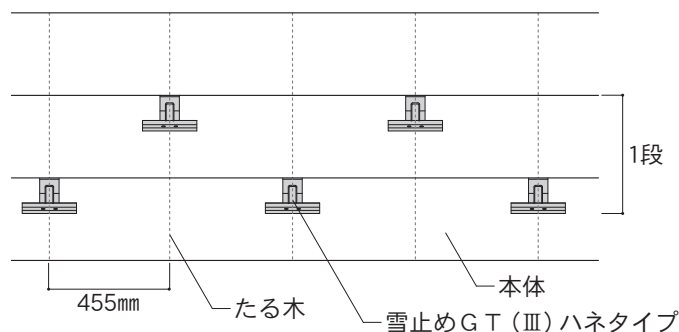
積雪量	勾配 (寸)						
	3.5寸	4寸	4.5寸	5寸	5.5寸	6寸	6.5寸
10cm	20m※2	19.0m	16.9m	15.3m	14.1m	13.1m	12.3m
20cm	10.9m	9.5m	8.5m	7.7m	7.0m	6.6m	6.2m
30cm	7.3m	6.3m	5.6m	5.1m	4.7m	4.4m	4.1m

※1：3.5寸未満の勾配は、1段あたりが負担できる屋根の流れ長さを7mとしてください。

※2：この値は、流れ長さの制限に合わせています。（P1参照）

- ・対象となる物件（地域）の積雪単位荷重を確認して、上の表より雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプの必要段数を求めてください。
必要段数＝屋根の流れ長さ÷1段あたりが負担できる屋根の流れ長さ
- ・屋根材の静止摩擦係数（ μ ）の値は0.05としています。
- ・上の表以外については、弊社にお問い合わせください。

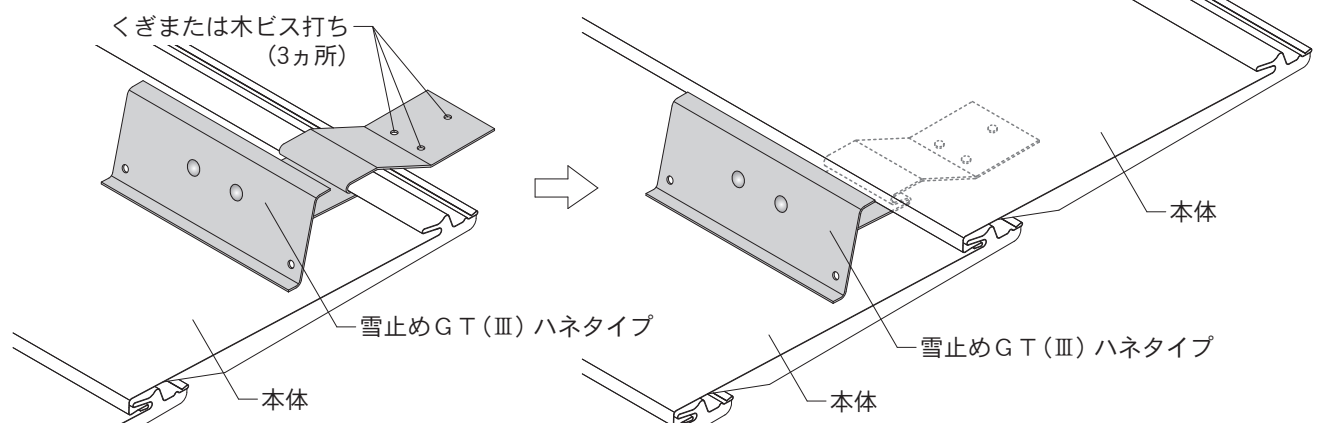
③ 1 段あたりの雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプの取り付け配置図



- ・1 段とは千鳥に2列（455mm間隔）取り付けることを意味します。
- ・表より求めた、必要段数の雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプを施工してください。
- ・雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプを基準通りに取り付けても、気象条件などによっては、雪が落下することがあります。

⚠ 雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプを足場にしたり、物を置いたりするなど、雪止め以外の用途には使用しないでください。
破損し落下するおそれがあります。

○雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプの取り付け



- ・雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプをかん合部に合わせて取り付けてください。
- ・雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプは先付けです。後付けはできません。
- ・本体と同様の留め具を用いて、雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプを留め付けてください。
- ・本体の留め付けを野地板留めに選定した場合は、雪止めG T (Ⅲ) ハネタイプを野地板に留め付けることも可能です。
ただし、指定下葺き材と指定ビスでの施工が必須となります。（P13参照）

合板下地工法（カバー） 施工の手順

下地の確認

- ・ 既存屋根
住宅屋根化粧スレート、鉄板平葺き、アスファルトシングルなど。
- ・ 野地板
強度がない。
- ・ 改修用物件チェックシート（P77）を併せて確認してください。



下地の調整

既存部材の取り外しと加工

- ・ 既存棟包み、既存隅棟包みを取り外してください。
- ・ 既存ケラバ水切を加工してください。
- ・ 既存雨押えを加工してください。



受木と構造用合板の施工

- ・ 軒先とケラバに受木（15×90）の取り付けてください。
- ・ 構造用合板 特類2級（厚さ12mm）を施工してください。



唐草G50または 改修用一体唐草29の 取り付け

- ・ 唐草G50は、捨て水切（現場加工）を施工してください。
- ・ 唐草を水平に取り付けるために、墨出しを行ってください。本体の仕上がりに影響します。



下葺き材の施工

- ・ 下葺き材は、全面に施工してください。留め具と勾配によって使用する下葺き材が異なりますので、施工前に勾配と下葺き材の種類を確認ください。詳しくは、12～13ページを参照してください。



ケラバの施工

- ・ ケラバ水切を取り付けてください。



墨出し

- ・ たる木の位置が確認できるように墨出しを行ってください。
- ・ 本体の働き幅で墨出しを行ってください。



各部の納まり

- ・ P69～を参照してください。
- ・ 取り合いの加工方法は、直張工法と合わせて確認してください。
- ・ 本体及び部材の留め付け間隔は455mm以下としてください。



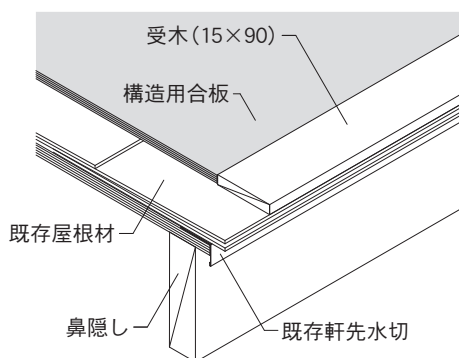
検査（補修）クリーニング

- ・ 表面材のキズの補修やクリーニングについては、**取り扱い時のお願い、アイジールーフを美しく保つために**を確認し、適切に行ってください。

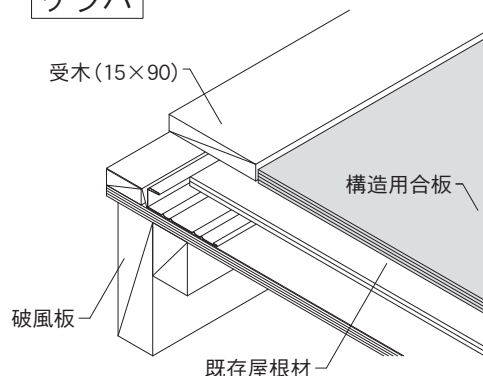
合板下地工法（カバー） 下地の調整

○受木と構造用合板の施工

軒先



ケラバ

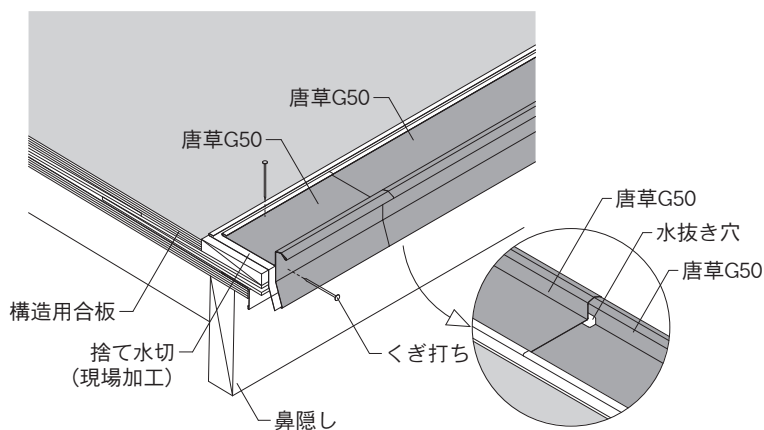
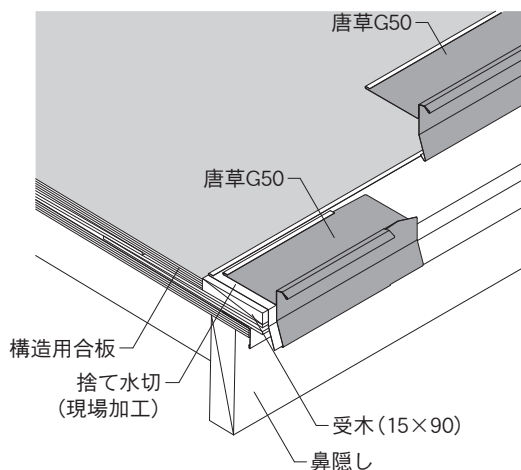


○軒先とケラバには、受木（15×90）を取り付けてください。

○構造用合板 特類2級（厚さ12mm）を施工してください。

注意：小幅度は使用しないでください。

○唐草G50の施工



○唐草G50を施工する前に、墨出しを行ってください。

○唐草G50は、墨出しに合わせて施工してください。本体の仕上がりに影響します。唐草G50同士をつなぐため、切り欠き加工が施されています。

○下葺き材の施工

下葺き材は、全面に施工してください。勾配によって使用する下葺き材が異なりますので、施工前に勾配と下葺き材の種類を確認してください。

勾配	2.5 寸～ 3.5 寸未満	3.5 寸以上
流れ長さ	7m 以下	20m 以下
下葺き材	粘着層付き改質アスファルトルーフィング	改質アスファルトルーフィング

一般

○流れ方向100mm以上、水平方向200mm以上重ねてください。

軒先

○唐草G50は、接続部に水抜き穴があります。水抜き穴を下葺き材で、ふさがないように注意してください。
※粘着層付き改質アスファルトルーフィングの場合は、無し。

谷

①谷の中心に合わせ、下葺き材を施工してください。
②下葺き材は、片側250mm以上ずつ重ねてください。

棟

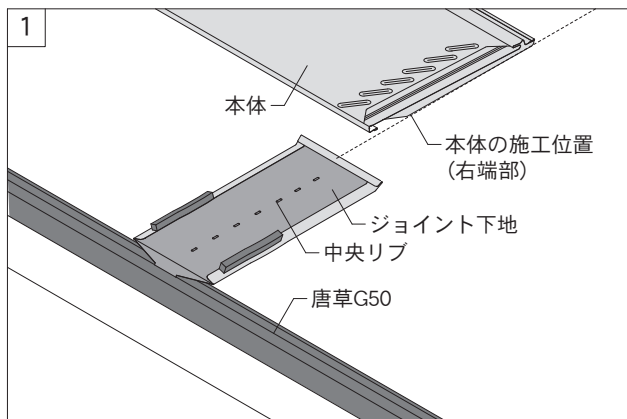
①下葺き材は、片側250mm以上重ねて施工してください。
②下葺き材は、棟の頂点に合わせ増し張りを行ってください。

合板下地工法（カバー） 各部の納まり

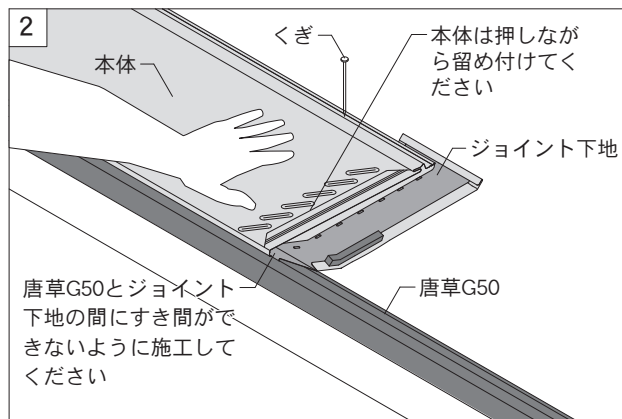
○本体の施工とポイント

ジョイント下地の施工

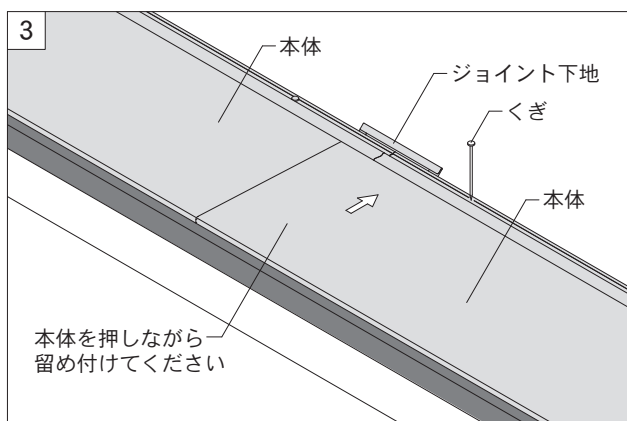
合板下地工法で施工する3.5寸未満の勾配の屋根では、本体の横ジョイント部全てにジョイント下地を施工してください。ジョイント下地は、くぎなどで穴をあけないでください。墨出し線への合わせ方や注意などは、直張工法 各部の納まりの本体の施工とポイントと併せて確認してください（P17参照）。



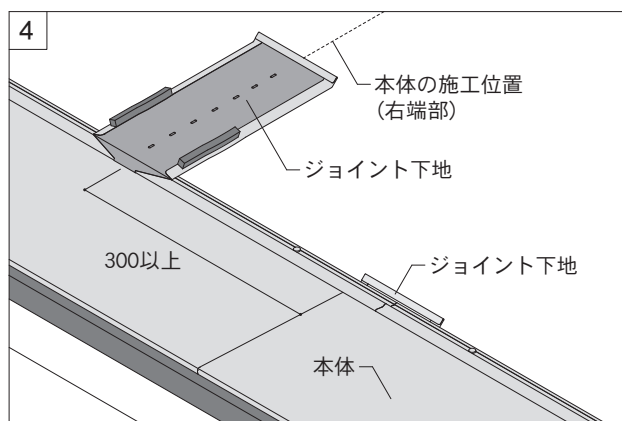
○最初に本体の施工位置を決め、本体の右端部にジョイント下地の中央リブを合わせて、ジョイント下地を配置します。ジョイント下地は、本体を施工する前に曲げないでください。



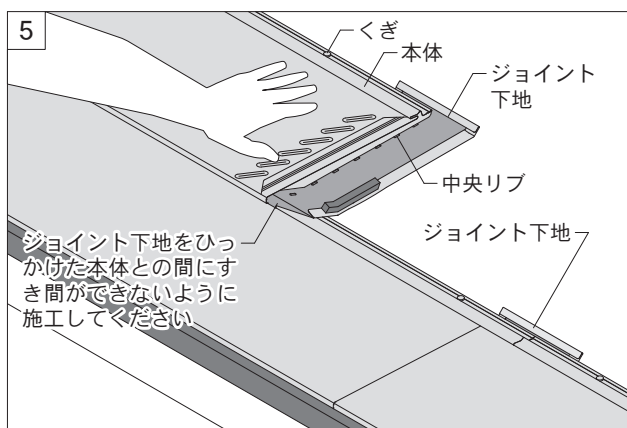
○手で本体を押しながらかめ付けてください。



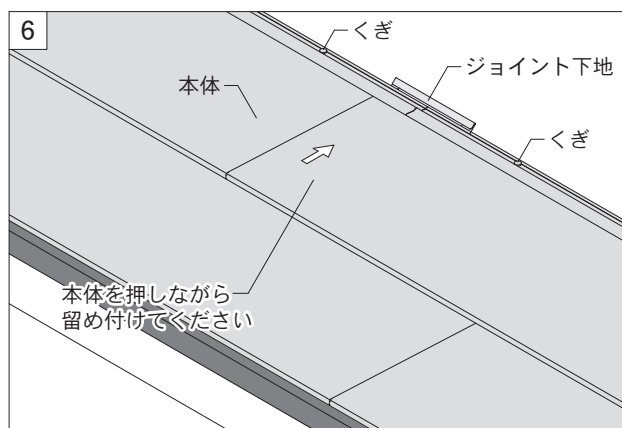
○次の本体も手で押しながらかめ付けてください。



○施工順序は、二段目以降も一段目と同じです。本体の横ジョイント部は上下で重ならないように、300 mm以上離して割り付けてください。ジョイント下地は、本体を施工する前に曲げないでください。



○一段目と同様に、本体をジョイント下地の中央リブに合わせて配置し、手で本体を押しながらかめ付けてください。



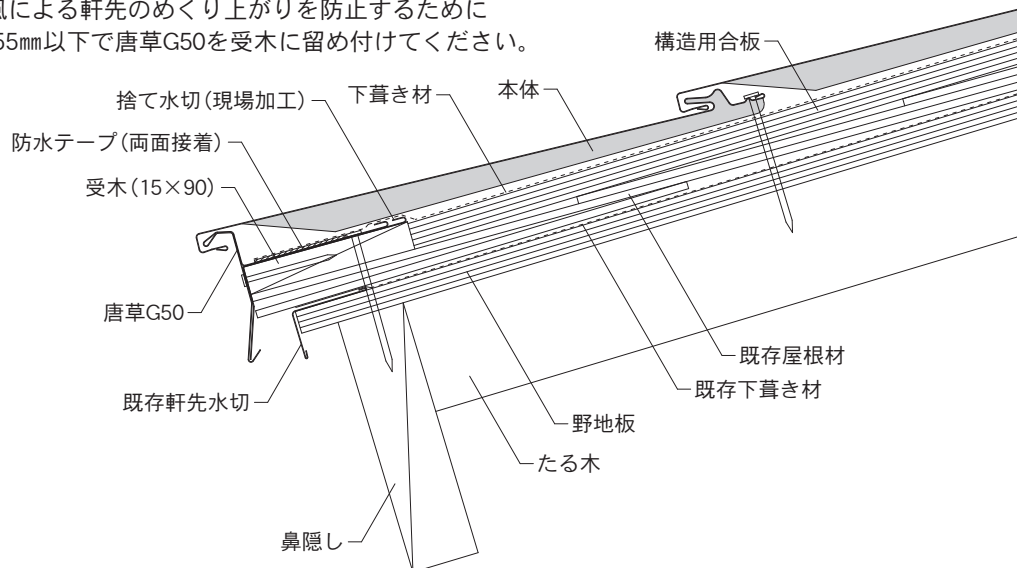
○[3]と同様に、次の本体も手で押しながらかめ付けてください。

合板下地工法（カバー） 各部の納まり

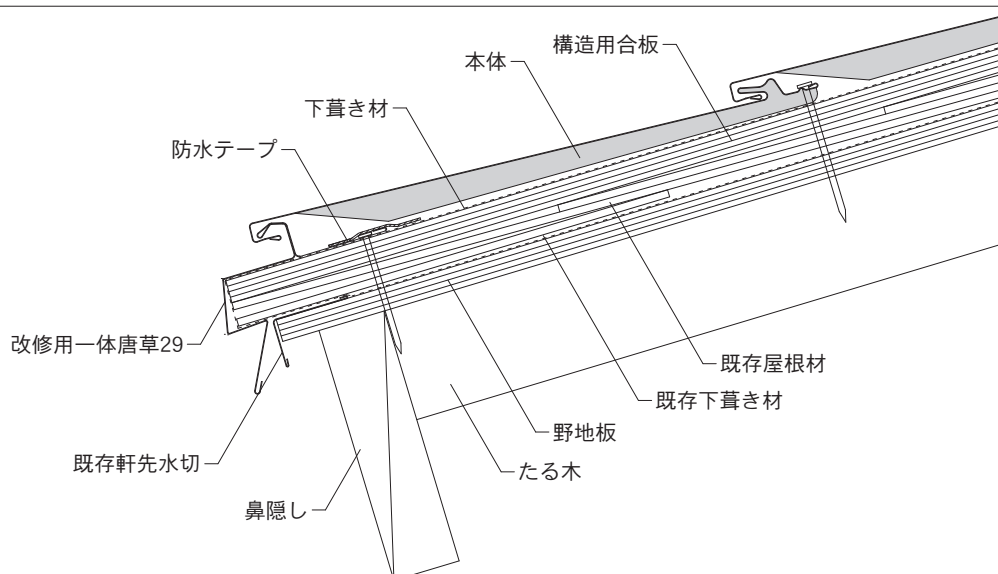
・ 本体や部材の施工方法は、**直張工法** **下地の調整、各部の納まり**を参照してください。（P15～64参照）

軒先①

※強風による軒先のめくり上りを防止するために
@455mm以下で唐草G50を受木に留め付けてください。

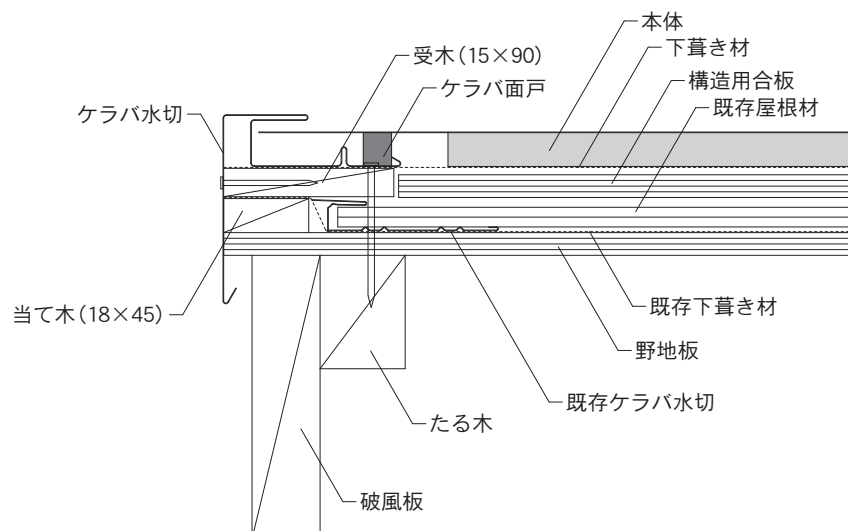


軒先②



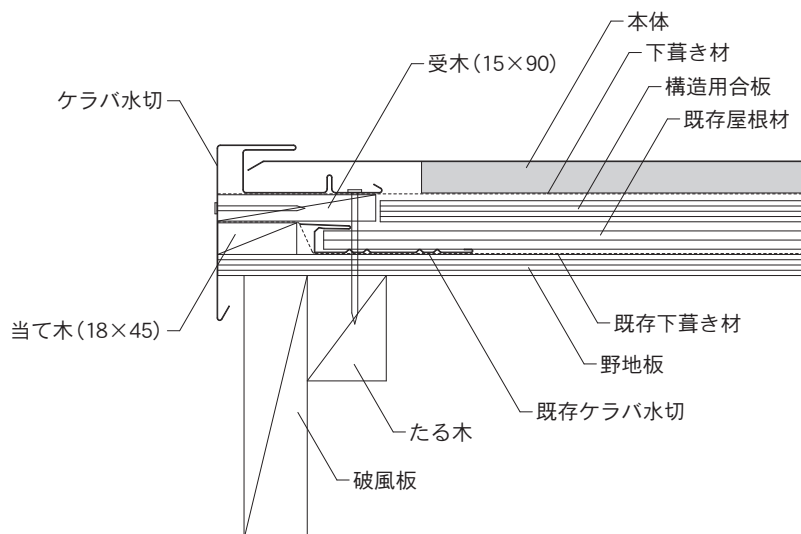
ケラバ①

○ケラバ水切とケラバ面戸を併用する場合（推奨）

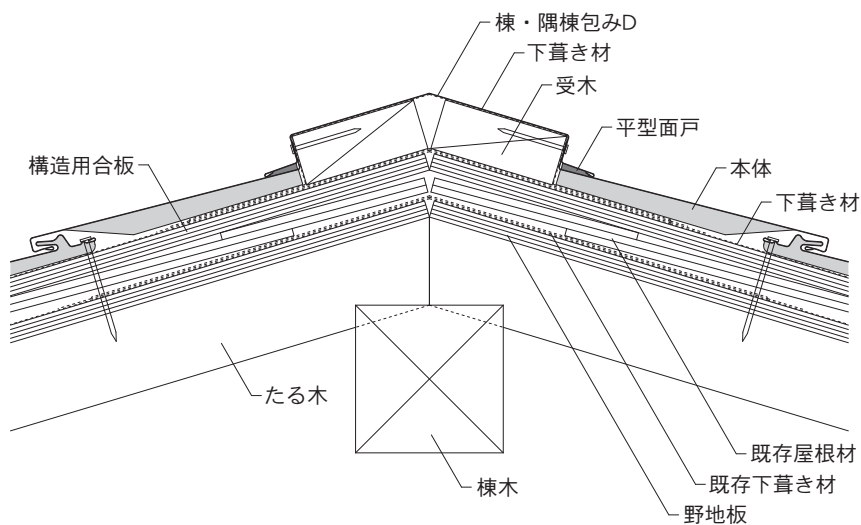


合板下地工法（カバー） 各部の納まり

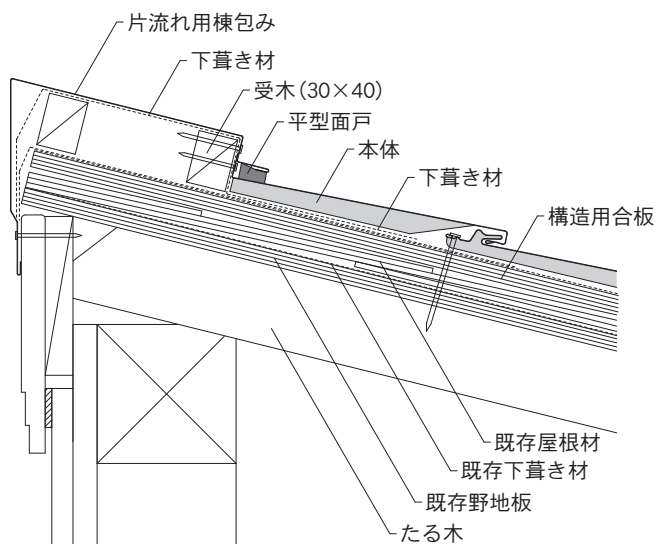
ケラバ② ○ケラバ水切を使用する場合



棟①



棟②



隅棟①

○棟・隅棟包みDを使用する場合

隅棟②

○差し棟キャップDを使用する場合

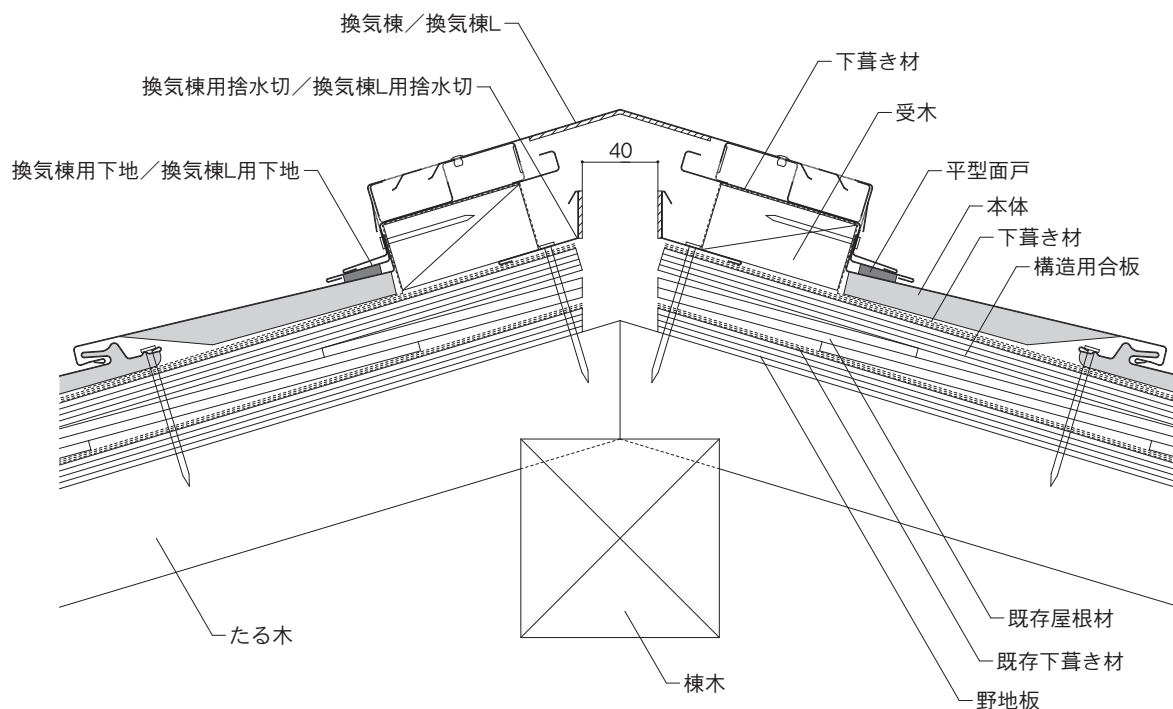
推奨ビス

メーカー	品名	頭タイプ	サイズ
日本パワーファスニング(株)	MBシートテクス 4.5ミリ	シンワッシャー	4.5×13
(株)ヤマヒロ	トルネードポイント	トラス(シンワッシャー)	4×12
	ジャックポイント(ミニジャック)	トラス(シンワッシャー)	4×13
若井産業(株)	ダンパゼロ	シンワッシャー	4×14

谷

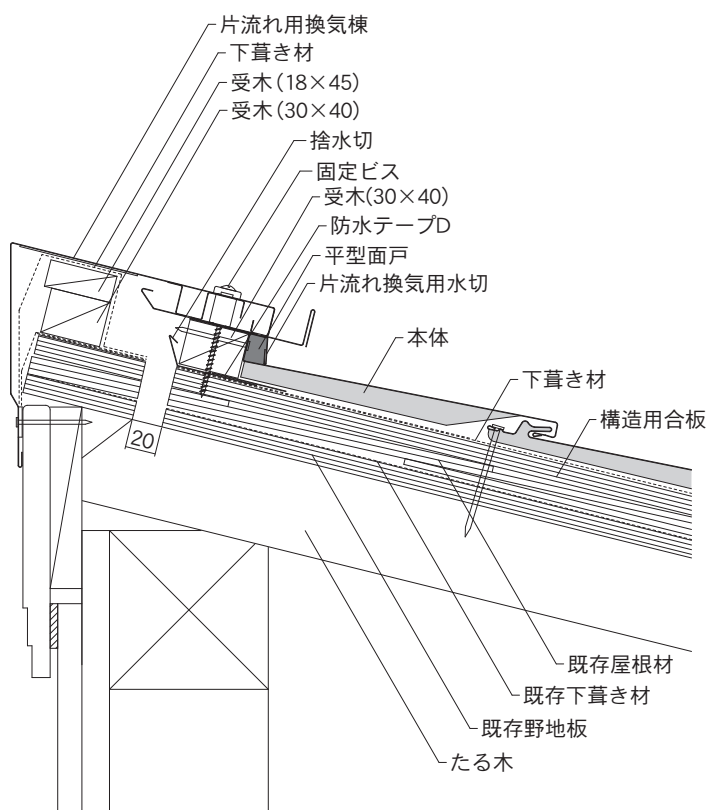
換気棟①

○換気棟または換気棟Lを施工する場合



換気棟②

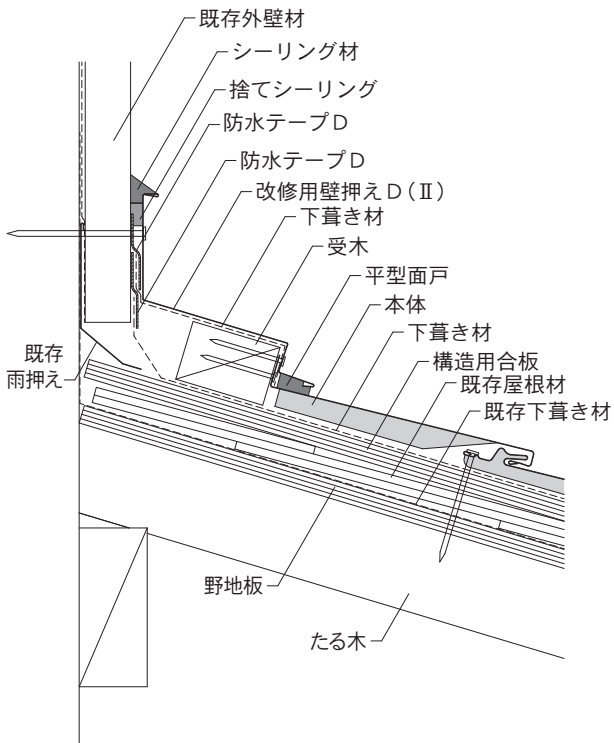
○片流れ用換気棟を施工する場合



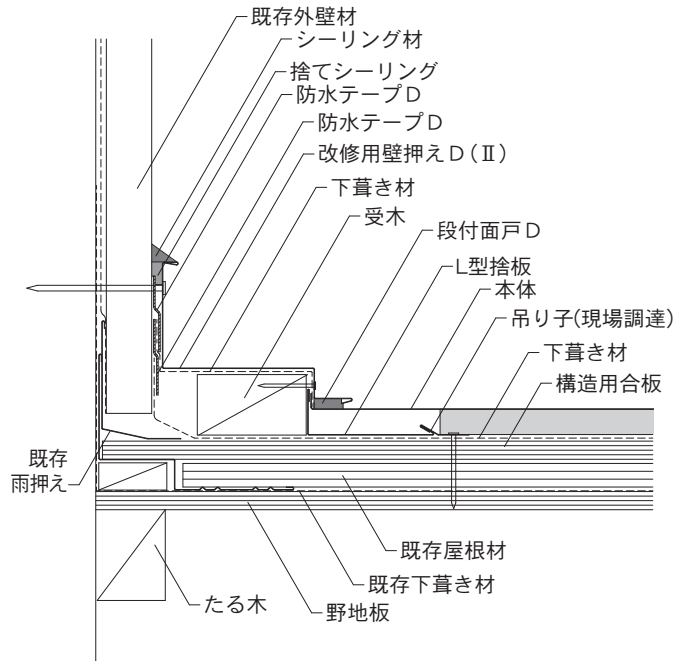
合板下地工法（カバー） 各部の納まり

壁との納まり①

〈流れと垂直な壁との納まり〉

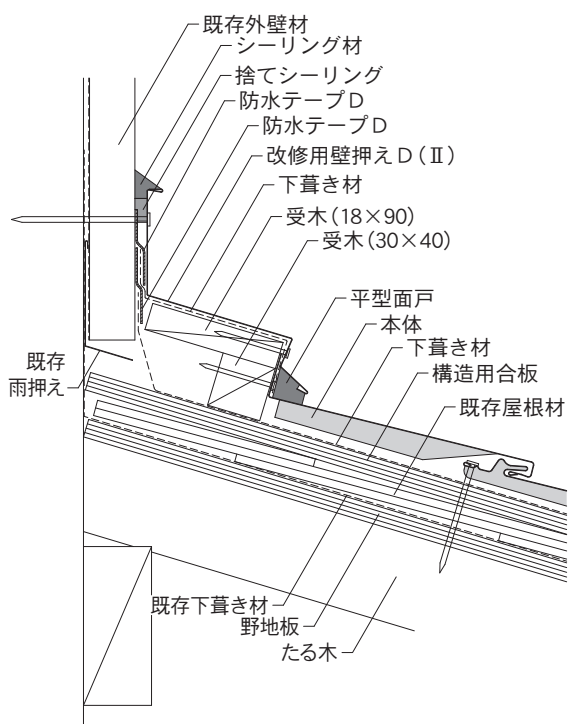


〈流れと平行な壁との納まり〉

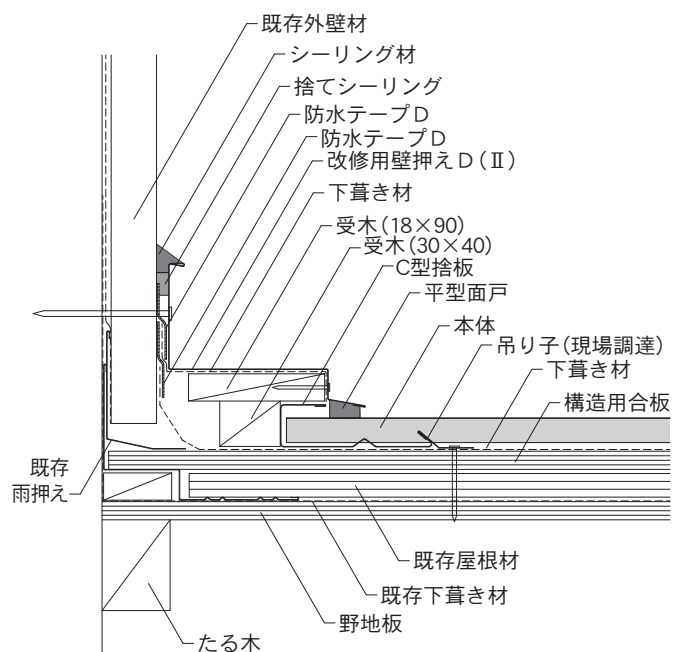


壁との納まり②

〈流れと垂直な壁との納まり〉



〈流れと平行な壁との納まり〉



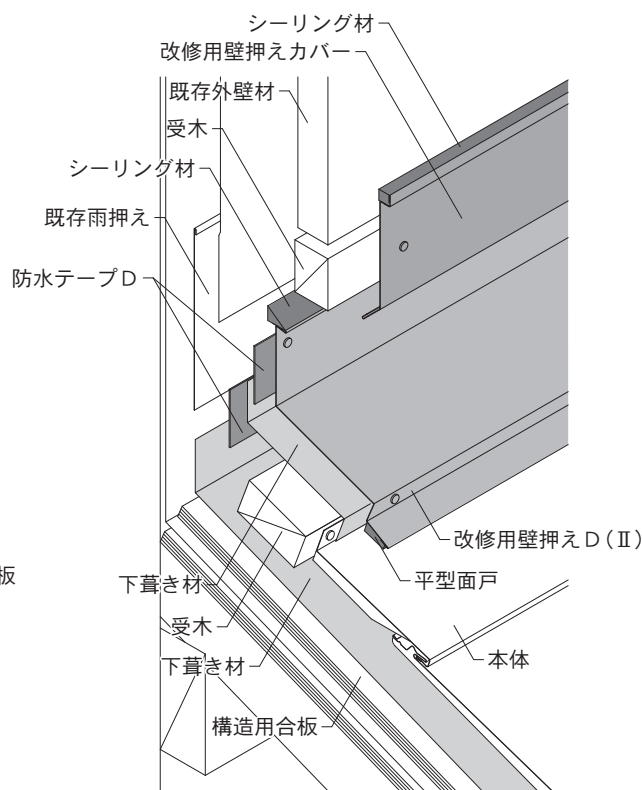
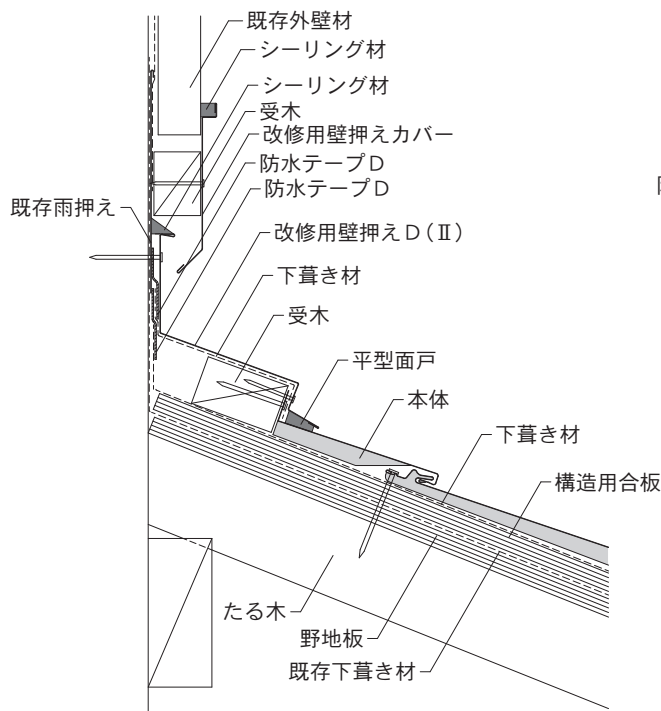
合板下地工法（葺き替え） 各部の納まり

瑕疵担保保険申請時のご注意
P78を参照してください

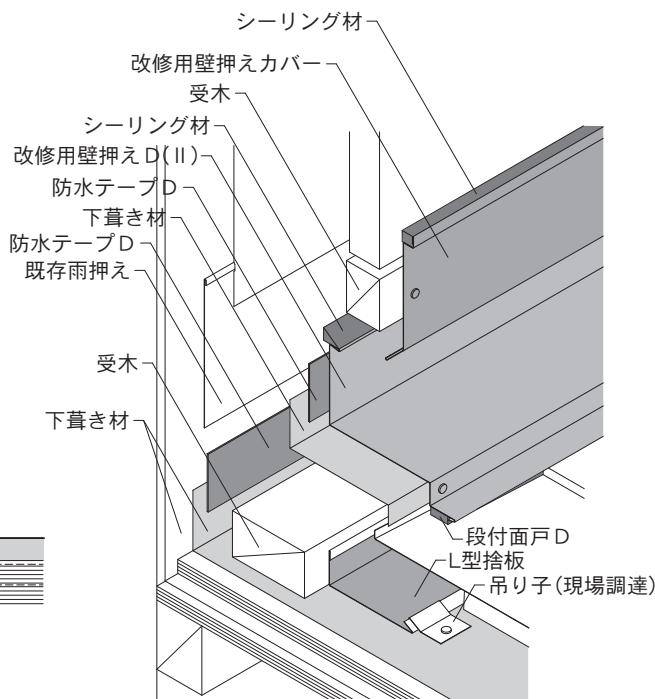
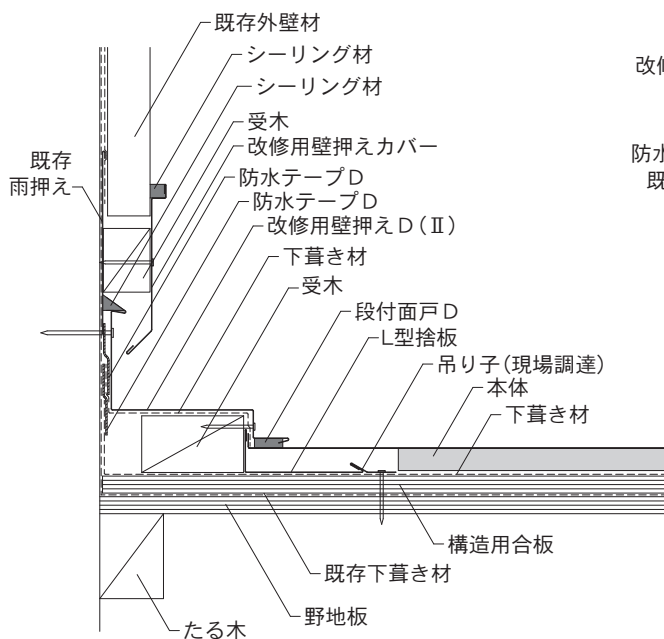
- 合板下地工法（葺き替え）は、既存屋根を取り外してアイジールーフを施工する葺き替え工法です。その他の納まりは、アイジールーフ新築施工説明書を参照してください。

壁との納まり

〈流れと垂直な壁との納まり〉



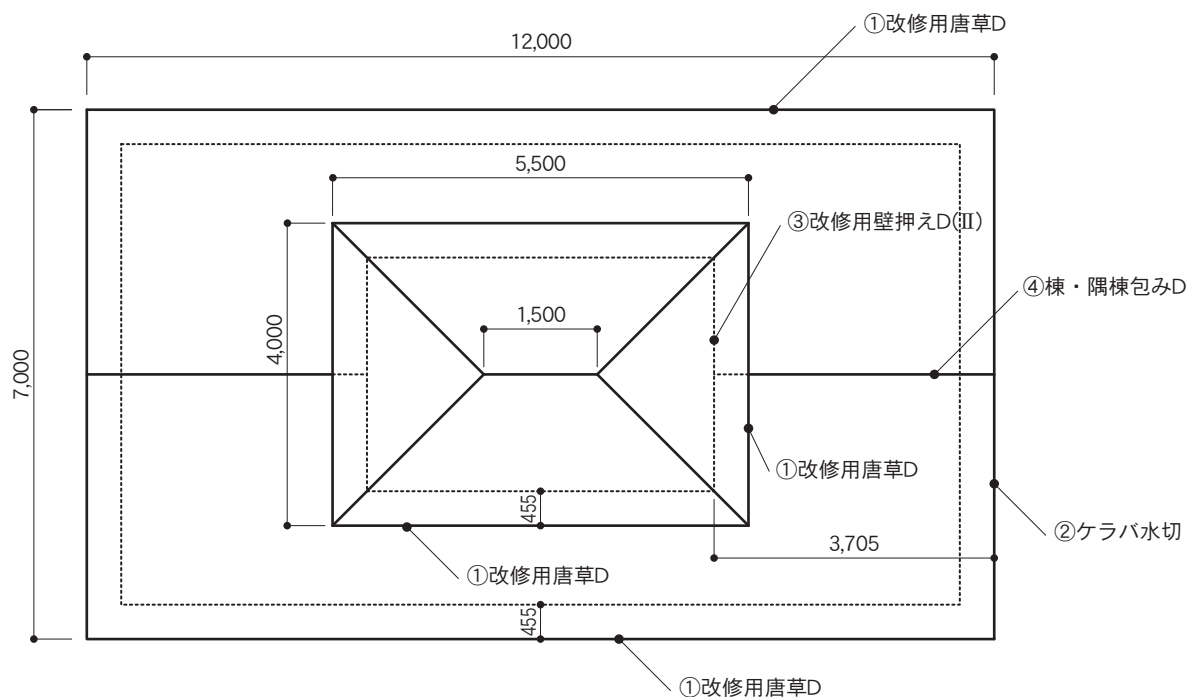
〈流れと平行な壁との納まり〉



- 改修用壁押えカバーは、下地面と既存外壁材の下端との間が120～200mmの場合に使用できます。
- 既存雨押えの不要な部分を切断し、既存雨押えの受木を取り外してください。
- 改修用壁押えD（II）を留め付ける受木は、高さ36～45mm、幅60～80mmを選定してください。幅30～40mmの受木を使用する場合は、ダブルで施工してください。
- 本体を受木に合わせて立ち上げ、不要な部分は切り取ってください。
- 壁押えD（II）を既存外壁に留め付け、シーリング材を施工した後、改修用壁押えカバーを施工してください。改修用壁押えカバーを留め付ける受木は、既存外壁の厚さに合わせて選定してください。

積算方法

○例 3.5寸勾配の場合



上図を例に算出しています。

①改修用唐草D

・軒の長さ＝43,000mm 重ね幅＝50mm の場合

軒の長さ÷(改修用唐草D 1本の長さ－重ね幅)

＝43,000÷(2,727－50)＝16.06⇒17本必要です。

(ロス分は含まれておりません)

②ケラバ水切

・ケラバの長さ＝14,826mm 重ね幅＝50mm の場合

ケラバの長さ÷(ケラバ水切1本の長さ－重ね幅)

＝14,826÷(2,727－50)＝5.54⇒6本必要です。

(ロス分は含まれておりません)

③改修用壁押えD (II)

・壁との取り合い部＝15,726mm 重ね幅＝50mm 出隅加工幅＝150mm の場合

(壁との取り合い部＋(出隅加工幅×出隅の数))÷(改修用壁押えD (II) 1本の長さ－重ね幅)

＝(15,726＋(150×4))÷(2,727－50)＝6.10⇒7本必要です。

(ロス分は含まれておりません)

④棟・隅棟包みD

・棟・隅棟の長さ＝20,566mm 重ね幅＝150mm 出隅加工幅＝150mm の場合

(棟・隅棟の長さ＋(出隅加工幅×出隅の数))÷(棟・隅棟包みD 1本の長さ－重ね幅)

＝(20,566＋(150×4))÷(2,727－150)＝8.21⇒9本必要です。

(ロス分は含まれておりません)

●本体

・切妻

積算の面積 $A \text{ m}^2 \times \text{ロス率}^{\ast 1} (10\%) = A \times 1.1 = B \text{ m}^2$
 $B \text{ m}^2 \div 1 \text{ ケース当たりの面積} = B \text{ m}^2 \div 4.71 \text{ m}^2 = C \text{ ケース}^{\ast 2}$

・寄棟

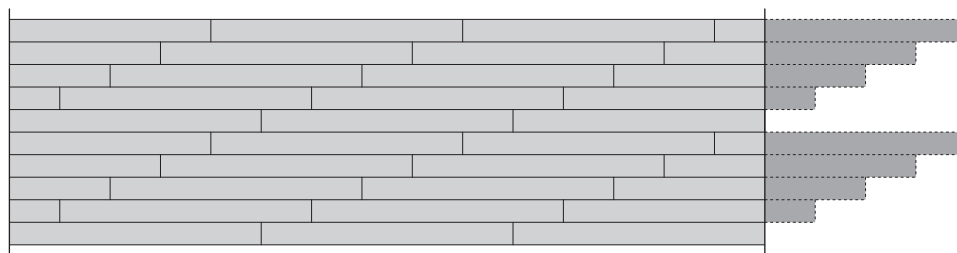
積算の面積 $A \text{ m}^2 \times \text{ロス率}^{\ast 1} (15\%) = A \times 1.15 = B \text{ m}^2$
 $B \text{ m}^2 \div 1 \text{ ケース当たりの面積} = B \text{ m}^2 \div 4.71 \text{ m}^2 = C \text{ ケース}^{\ast 2}$

※1：ロス率は目安であり、建物の形状や葺き方（回し葺き、一文字葺き）によって異なります。

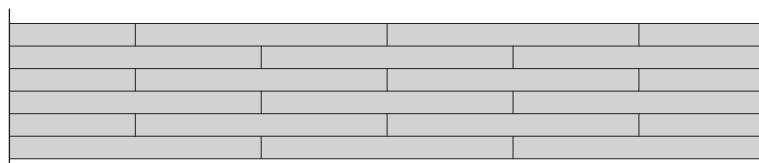
※2：本体は、1 ケース単位の出荷ですので、小数点は切り上げてください。（例 C=5.3 ケース→6 ケース）

●本体の葺き方

- ・回し葺き（階段葺き）＜施工ロスが少なくなります＞

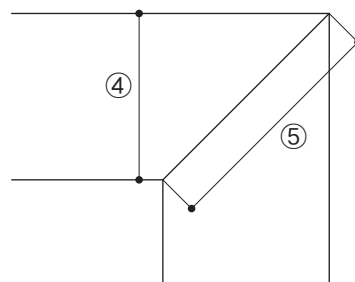
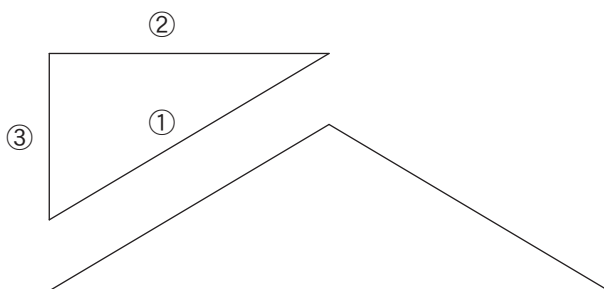


- ・一文字葺き（千鳥葺き）



参考資料

屋根 実寸法算出用係数表



屋根（流れ）の実寸法①＝図面上の寸法② × 伏図用係数

屋根（流れ）の実寸法①＝図面上の寸法③ × 立面図用係数

隅（谷）の実寸法⑤＝図面上の寸法④ × 伏図・立面図用係数

勾配	2.5寸	3 寸	3.5寸	4 寸	4.5寸	5 寸	5.5寸	6 寸
伏図用係数	1.031	1.044	1.059	1.077	1.097	1.118	1.141	1.166
立面図用係数	4.123	3.480	3.027	2.693	2.437	2.236	2.075	1.944
伏図・立面図用係数	1.436	1.446	1.457	1.470	1.484	1.500	1.517	1.536

勾配	6.5寸	7 寸	7.5寸	8 寸	8.5寸	9 寸	9.5寸	矩勾配
伏図用係数	1.193	1.221	1.250	1.281	1.312	1.345	1.379	1.414
立面図用係数	1.835	1.744	1.667	1.601	1.544	1.495	1.452	
伏図・立面図用係数	1.566	1.578	1.601	1.625	1.650	1.676	1.704	1.732

改修物件調査チェックシート

調査日		
年	月	日
調査実施者		

- ・ 物件調査の前に基準風速をチェックし必要な耐風圧性能値を確認してください。
- ・ 建物高さによっては施工不可の可能性がありますので注意してください。

	適用項目			基準
建物概要	1	物件名	様邸	
	2	物件住所		・年間平均最深積雪量が概ね30cmを超える地域は施工不可 ・一部解禁地域は要相談
	3	基準風速	()m / s 地域	
	4	築年数	築() 年	
	5	建物用途	☐ 戸建て ☐ 集合住宅 ☐ その他()	
	6	建物高さ	()m	・13m以下(13mを超える場合要相談)
屋根概要	7	屋根形状	☐ 切妻 ☐ 寄棟 ☐ 片流れ ☐ その他()	
	8	特殊部位	☐ 有り() ☐ 無し	
	9	屋根勾配	()寸	・施工可能:2.5寸以上 ・合板下地工法の場合: 3.5寸未満はジョイント下地必須
	10	屋根流れ長さ	☐ 7m以下()m ☐ 20m以下()m	・2.5寸～ 3.5未満:7mを超えると施工不可 ・3.5寸以上は20mを超えると施工不可
	11	既存屋根材	☐ 化粧スレート() ☐ その他()	・スレート、シングル材:直張工法可 ・瓦:合板下地工法(葺き替え)
屋根状態	12	既存下地	☐ 構造用面材 ☐ その他()	
	13	既存屋根材	☐ 割れ ☐ 浮き ☐ ズレ ☐ その他()	・有りの場合:補修必要
	14	雨漏り	☐ 有り(状況) ☐ 無し	・有りの場合:補修必要
	15	既存野地劣化状態	☐ 歩行時たわみ有り ☐ 無し	・有りの場合:補修必要
	16	構造体劣化状態	☐ 有り(状況) ☐ 無し	・有りの場合:施工不可
	17	下地強度 (強度試験) ※項目13～16に異常がある、若しくは判断不可の場合実施	☐ 600N / 本以上 ☐ 600N / 本未満(強度試験)	・600N / 本未満の場合:合板下地工法
その他	18	付帯品有無 ☐ 太陽光パネル ☐ 太陽熱温水装置 ☐ TVアンテナ ☐ エアコン室外機 ☐ 無し	・太陽光パネルの再設置は不可	
	19	足場設置	☐ 可能 ☐ 不可	・勾配により足場必要
判定	☐直張工法 判定基準 ☐既存屋根:化粧スレート、シングルの場合 ☐既存劣化状態:項目13～16に異常がない場合 または、引抜き強度試験にて600N / 本以上の場合 ☐合板下地工法(カバー) 判定基準 ☐既存屋根:化粧スレート、シングルの場合 ☐既存野地劣化状態:たわみ有りの場合 ☐下地強度:引抜き強度試験にて 600N / 本未満の場合 ☐合板下地工法(葺き替え) 判定基準 ☐既存屋根:化粧スレート、 シングル以外の場合 ☐下地強度:引抜き強度試験にて 600N / 本未満の場合 ※施工可能な前提条件 ☐屋根勾配:2.5寸以上 ☐流れ長さ:2.5寸～ 3.5未満:7mを超えると施工不可 3.5寸以上は20mを超えると施工不可20m以下 ☐雨漏り:無い事 ☐構造体劣化:無い事			

- ・直張工法：既存屋根を剥がさずに、上から屋根本体を重ね張りする工法。
- ・合板下地工法：新規の野地板（合板）を敷き、屋根本体を施工する工法。

瑕疵担保保険申請時のご注意

リフォーム瑕疵担保保険の申請では、保険法人各社が定める設計施工基準に従った施工が必要です。本施工説明書には基準に沿った方法が記載されていますが、一部「壁との納まり」(P51～55、P73～74)については異なる場合があります。

保険申請時には以下の対応をお願いいたします。

保険法人	対 応
株式会社住宅あんしん保証	包括3条確認書（技3通_24-012）を添付してください 確認書は弊社HPよりダウンロードいただけます
住宅保証機構株式会社	設計施工基準を満たしておりますので、保険法人様の申請手順に従って手続きを行ってください
株式会社日本住宅保証検査機構	包括3条確認書（JR24-1-8-0001）を添付してください 確認書は弊社HPよりダウンロードいただけます
株式会社ハウスジーマン	確認中
ハウスプラス住宅保証株式会社	物件ごとの確認となりますので保険法人様へご確認ください

免責事項

次のような場合、弊社では責任を負いかねます。ご了承ください。

- ・ 施工店様による、施工や取り扱いが原因で不具合が生じた場合。
- ・ 入居者の維持管理の不注意・装置の取り付け・改修・改築により不具合が生じた場合。
- ・ 入居者または第三者の故意・過失などにより不具合が生じた場合。
- ・ 天変地異・周辺環境・大気汚染・塩害などの特殊環境下で不具合が生じた場合。
- ・ 通常の経年変化による変色・汚れなどが生じた場合。
- ・ 建物の構造体に起因した変形・変位が原因で不具合が生じた場合。
- ・ シーリング部及び、現場塗装により不具合が生じた場合。
- ・ ルーフ本体及び部材に付着した切粉・加工屑・落ち葉・動物の排出物・粉塵などが原因で不具合が生じた場合。
- ・ 水が滞留する部分の塗膜損傷及び電食作用が原因で不具合が生じた場合。
- ・ くぎ部のさびまたはもらいさび、及びカビによる汚染などが生じた場合。
- ・ 建築基準法及び、関係法規に違反した使用により不具合が生じた場合。
- ・ 本来の目的以外の用途で使用し、不具合が生じた場合。

その他ご不明な点などありましたら弊社にご相談ください。



アイジー工業株式会社

本 社	〒999-3716	山形県東根市蟹沢上縄目1816-12	TEL. 0237-43-1810	FAX. 0237-41-1810
東 京 営 業 所	〒101-0065	東京都千代田区西神田3-1-6 日本弘道会ビル6F	TEL. 03-3556-0341	FAX. 03-3556-0342
札 幌 営 業 所	〒003-0026	北海道札幌市白石区本通19丁目南2-7 食糧ビル5F	TEL. 011-863-0303	FAX. 011-860-2084
盛 岡 営 業 所	〒020-0022	岩手県盛岡市大通3-3-10 七十七日生盛岡ビル7F	TEL. 019-605-8050	FAX. 019-605-8051
仙 台 営 業 所	〒983-0852	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-12-12 L.Biz仙台5F	TEL. 022-292-5405	FAX. 022-292-5406
宇都宮営業所	〒320-0811	栃木県宇都宮市大通り2-1-5 明治安田生命宇都宮大通りビル7F	TEL. 028-611-3483	FAX. 028-637-3005
新 潟 営 業 所	〒950-0912	新潟県新潟市中央区南笹口1-1-54 日生南笹口ビル6F	TEL. 025-240-6718	FAX. 025-240-6719
富 山 営 業 所	〒930-0004	富山県富山市桜橋通り1-18 北日本桜橋ビル3F	TEL. 076-443-8621	FAX. 076-443-8622
名古屋営業所	〒460-0002	愛知県名古屋市中区丸の内1-8-24 綿常第5ビル4F	TEL. 052-218-7885	FAX. 052-218-7886
大 阪 営 業 所	〒564-0051	大阪府吹田市豊津町9-1 EDGE江坂11F	TEL. 06-6310-9076	FAX. 06-6310-9077
福 岡 営 業 所	〒812-0011	福岡県福岡市博多区博多駅前3-30-23 博多管絃ビル2F	TEL. 092-474-5564	FAX. 092-474-5574

この施工説明書に掲載の商品は専門施工を必要とします。施工は専門施工店にご依頼ください。
商品改良などにより、予告なく仕様の一部を変更する場合がありますので、ご了承ください。

www.igkogyo.co.jp

